久　次　遺　跡

林　田　地　区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2004.12

土佐山田町教育委員会

林田地区の空撮（北から）

林田地区出土遺物（青磁・白磁・染付他）

林田地区出土遺物（青磁他）

例　　言

１．本書は新改西部地区県営圃場整備事業に伴う、久次遺跡林田地区の発掘調査報告書である。

２．久次遺跡の所在地は、高知県香美郡土佐山田町久次字林田である。

３．調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

（調査期間）	（調査面積）
平成５年10月１日～同年12月11日	約4,100㎡

４．発掘調査及び整理作業は、土佐山田町教育委員会が財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの協力のもと、これを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査事務　　中山泰弘（土佐山田町教育委員会）
　同　　小林麻美（　　同　上　　）
調 査 員　　藤方正治（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター・調査員）

５．本書の編集・執筆は藤方が行った。

６．遺構等の名称については、SB（掘立柱建物跡）、ST（竪穴住居跡及び竪穴状遺構）、SK（土坑）、SD（溝状遺構）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用する。

７．遺物実測図の縮尺は土器・土製品、石器・石製品が１／２と１／３である。遺物番号は通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号と遺物番号は一致している。

８．出土遺物の色調については『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。

９．遺跡の測量は、任意の座標系に則っておこなった。挿図中の北は原則として磁北である。また、挿図中の標高は海抜高を示す。

10. 発掘調査に際しては、地元土佐山田町久次をはじめとした町内にお住まいの方々と隣接する南国市在住の方々の全面的な御理解と御協力、ならびに温かい御支援を賜り、調査を円滑に進めることができました。記して衷心より謝意を表します。

11. 発掘調査に際しては、中山泰弘（土佐山田町教育委員会）、出原恵三（財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター）の両氏をはじめ、高知県南国耕地事務所の御協力を得た。また、発掘調査及び報告書作成に際しては、土佐山田町教育委員会、高知県立歴史民俗資料館、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。衷心より謝意を表します。

12. 発掘調査にかかる掘削作業では有限会社井上工務店に御尽力頂き、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表します。

13. 発掘調査に伴う測量基準点設置、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、株式会社アイシーに委託して実施した。

14. 整理作業に際しては、次の方々に御尽力頂いた。御芳名を記して衷心より謝意を表します。
矢野　雅　　宮本幸子　　前田玲子　　高橋千代　　元吉ゆみ子　　入野三千子
橋田美紀　　井上博恵

15. 遺跡の略号は下記のとおりとし、出土遺物の注記にはこれを使用した。
93－29YHH

16. 出土遺物は土佐山田町教育委員会で保管している。

本文目次

第Ⅰ章　調査の成果

１．調査区の概要 …… 1

２．基本層準 …… 2

３．調査の経過 …… 2

４．調査の方法 …… 2

５．遺構と遺物 …… 9

挿図目次

Fig. 1　久次遺跡林田地区の位置（S：1／25,000）…… 1
Fig. 2　林田地区遺構全体図（西部）（S：1／200）…… 3～ 6
Fig. 3　林田地区遺構全体図（東部）（S：1／200）…… 7～ 8
Fig. 4　林田地区SB１平・断面図（S：1／60）…… 9
Fig. 5　林田地区ST１断面図（S：1／40）……10
Fig. 6　林田地区ST１平面図（S：1／40）……11～12
Fig. 7　林田地区ST１出土遺物１（S：1／3）……13
Fig. 8　林田地区ST１出土遺物２（S：1／3）……14
Fig. 9　林田地区ST１出土遺物３（S：1／3）……15
Fig. 10　林田地区ST１出土遺物４（S：1／3）……16
Fig. 11　林田地区ST１出土遺物５（S：1／3）……17
Fig. 12　林田地区ST１出土遺物６（S：1／3）……18
Fig. 13　林田地区ST１出土遺物７（S：1／3）……19
Fig. 14　林田地区ST１出土遺物８（S：1／3）……20
Fig. 15　林田地区ST１出土遺物９（S：1／3）……21
Fig. 16　林田地区ST２平・断面図（S：1／40）……22
Fig. 17　林田地区ST２出土遺物（S：1／3）……23
Fig. 18　林田地区ST３平・断面図（S：1／40）……24
Fig. 19　林田地区ST４平・断面図（S：1／40）……25～26
Fig. 20　林田地区ST３出土遺物（S：1／3）……27
Fig. 21　林田地区ST４出土遺物１（S：1／3）……28
Fig. 22　林田地区ST４出土遺物２（S：1／3）……29
Fig. 23　林田地区ST４出土遺物３（S：1／3）……30
Fig. 24　林田地区ST５平・断面図（S：1／40）……31
Fig. 25　林田地区ST５出土遺物１（S：1／3）……32
Fig. 26　林田地区ST５出土遺物２（S：1／3）……33
Fig. 27　林田地区ST５出土遺物３（S：1／3）……34
Fig. 28　林田地区ST５出土遺物４（S：1／3）……35
Fig. 29　林田地区SK１平・断面図（S：1／20）……36
Fig. 30　林田地区SK２平・断面図（S：1／40）……36
Fig. 31　林田地区SK１・２出土遺物（S：1／3）……37
Fig. 32　林田地区A墓地平・断面図（S：1／40）……38
Fig. 33　林田地区SX７平・断面図（S：1／40）……39
Fig. 34　林田地区SD－N平・断面図（S：1／80、1／40）……40
Fig. 35　林田地区SX７～９・11～13、SD－N出土遺物（S：1／3）……41
Fig. 36　林田地区SD－N、SD３～６・９、SD－W出土遺物（S：1／3）……42
Fig. 37　林田地区Pit出土遺物１（S：1／3）……43
Fig. 38　林田地区Pit出土遺物２（S：1／3）……44
Fig. 39　林田地区包含層出土遺物（S：1／3）……44
Fig. 40　林田地区ST１、SD－N包含層出土遺物（S：1／2、1／1）……45
Fig. 41　林田地区ST４出土遺物（S：1／2）……46

表 目 次

表１　SB1ピット計測表…… 9
表２　林田地区SD計測表 ……48
表３　林田地区ピット計測表１……49
表４　林田地区ピット計測表２……50
表５　林田地区ピット計測表３……51
表６　林田地区遺物観察表１……52
表７　林田地区遺物観察表２……53
表８　林田地区遺物観察表３……54
表９　林田地区遺物観察表４……55
表10　林田地区遺物観察表５……56
表11　林田地区遺物観察表６……57
表12　林田地区遺物観察表７……58
表13　林田地区遺物観察表８……59
表14　林田地区遺物観察表９……60
表15　林田地区遺物観察表10……61
表16　林田地区遺物観察表11……62
表17　林田地区遺物観察表12……63
表18　林田地区遺物観察表13……64
表19　林田地区遺物観察表14……65
表20　林田地区遺物観察表15……66

写真図版目次

巻頭図版１　林田地区の空撮（北から）

巻頭図版２　上；林田地区出土遺物（青磁、白磁、染付他）

下；林田地区出土遺物（青磁他）

PL. 1　上；調査区東方（西から）

下；調査区南方（北から）

PL. 2　上；SB１　検出状態（南東から）

下；　同　　完掘状態（東から）

PL. 3　上；ST１　検出状態（南から）

下；　同　　検出状態（西から）

PL. 4　上；ST２　検出状態（東から）

下；　同　　完掘状態（東から）

PL. 5　上；ST３　半截状態（北から）

下；SB１　P３　半截状態（南から）

PL. 6　上；ST４　半截状態（東から）

下；　同　　完掘状態（東から）

PL. 7　上；ST５　半截状態（南から）

下；　同　　完掘状態（西から）

PL. 8　上；ST１　遺物出土状態

下；SK１　遺物出土状態（東から）

PL. 9　上；A墓地　検出状態（東から）

下；　同　　半截状態（西から）

PL. 10　上；SD－N　東壁セクション（西から）

下；SD－Nと久次土居城跡（南西から）

PL. 11　林田地区出土遺物１

～14，49，53，83，80，88，113～

PL. 12　林田地区出土遺物２

～128，133，136，138，150，162，163，177～

PL. 13　林田地区出土遺物３

～193，200，209，211，212，225，226，227～

PL. 14　林田地区出土遺物４

～228，230，241，273，277，281，293，296～

PL. 15　上；林田地区出土遺物５（112，175，176）

下；林田地区出土遺物６（280，246，247）

PL. 16　上；林田地区出土遺物７（323）

第Ⅰ章　調査の成果

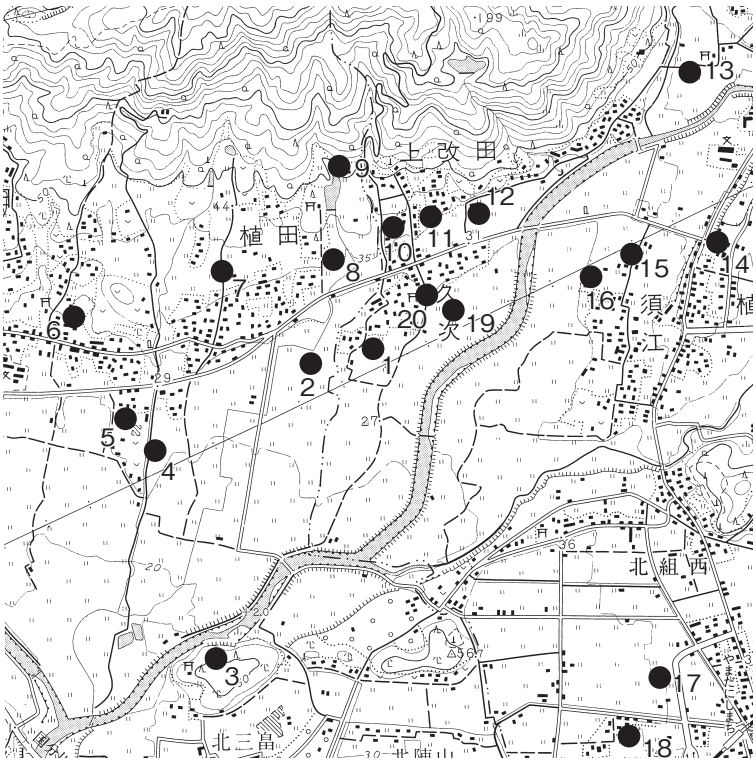
１．調査区の概要

久次遺跡は北方に存在する山間部から流れ出る国分川支流の新改川が形成した扇状地上に立地している。林田地区は久次遺跡の北西端に位置しており、調査区の北東には久次土居城跡が隣接して存在する。

林田地区の調査開始は西側から耕作土下の床土等を除去することから行った。比較的浅い状態で遺構が多く検出されたことから、遺構の分布密度が高い北側に就いて調査範囲を東側に拡大して行った。発見された遺構は、大きく古代末から中近世と弥生後期末から古墳時代前期に分けられる。中近世出自の遺構群は灰色系の埋土を有しており、比較的検出が容易であった。調査区の北側を中心に高い密度での分布が見られる。調査区内で検出された遺構の中には、平面形が円形から楕円形に近似する遺構群が存在している。Ａ墓地とした遺構では墓石として利用されていたと考えられる平石と円礫の集積が見られており、これに接して浅いくぼみに炭化物と焼土が検出されている。

調査区内には部分的に扇状地形成当時の影響が顕著であり、遺構検出面のうち軟弱な部分では後世の耕作に伴う杭跡や足跡なども残されていたようだ。ピットとしたものの中には規模が小さく、浅いものが多く存在している。また、分布密度には濃淡が存在しており、現在でも集落の中心が調査区の北側にあることからも、嘗ては新改川の影響が調査区以南では一層強かったものと考えられる。先述した調査区の北東に存在する久次土居城に係わる溝（SD－N）が発見されていることから、当時の民家や耕作地で存在したと考えられ、それらが調査区北半を中心にして幾つかの纏まりをもって分布していたとしても齟齬は無いであろう。

竪穴住居跡はST１からST５を検出した。時期は弥生時代の後期末から古墳時代前期初頭に位置づけられる。この時期の遺構は主に遺構埋土の黒色土（黒ボク土）を手掛かりとして捉えた。ST１は検出面では平面形態が掴み難かったものの良好に検出された大型の方形住居であり、東側に出入り口と考えられる張出し部を持つ。ST２は長方形の小型住居であり、検出面からは浅く一部は後世の遺構により破壊されていた。ST３は調査区



１．久次遺跡（林田地区）
２．ハザマダ遺跡
３．三畠城跡
４．泉ヶ内遺跡
５．沖の土居城跡
６．東ノ土居遺跡
７．植田土居城跡
８．寺中遺跡
９．植田古墳群
10．北野遺跡
11．辻谷田遺跡
12．東山田遺跡
13．南ヶ内遺跡
14．植南土居遺跡
15．須江上段遺跡
16．須江上段マツノモト遺跡
17．山田三ツ又東遺跡
18．山田三ツ又遺跡
19．改田神母遺跡
20．久次土居城跡

Fig. 1　久次遺跡林田地区の位置（Ｓ：１／25,000）

の西端で一部を調査したものである。ST４は円形の住居跡であり、比較的高く残された扇状地形成の礫層に掘削されて存在した。ST５はST１と同様、平面形態は方形であり、規模は小さいものの良好に残されていた。これらの竪穴住居が同時に存在していたとは考えられない。しかし、ある程度継続的に調査区周辺で人間の生活が営まれていたと考えられる。また、SB１は出土遺物僅少で機能した時期を明確にし難いが、先述の竪穴住居群の何れかが機能していた時期と重複するものであろう。

２．基本層準

調査区は多くの場合後世における削平が顕著であり、表土下数十cmの茶褐色土層上面で、弥生後期から中近世における遺構を検出することができる。標準的な層準は

Ⅰ．表土（耕作土）：灰色土　Ⅱ．暗灰褐色土　Ⅲ．黒色土　Ⅳ．茶褐色土

であるが、Ⅱ・Ⅲ層は削平を受けている場合が多く、残存されている場合でも層厚は薄い。遺構検出面であるⅣ層は扇状地の構成土層である灰褐色砂礫層と河道最終充填土または二次的に発達した明褐色土層で形成されている。

３．調査の経過

調査は表土の掘削・除去を平成５年10月１日から開始した。しかし、開発原因が圃場整備であることから掘削の開始時点には既に耕作土は工事側の責任に於いて遺構や包含層への影響を及ぼさない程度で移動を終了していた。耕作土下の床土等を表土として重機により掘削したところ、この段階で部分的に浅深はあるものの扇状地を形成していた当時の構成層があらわれて遺構の存在が確認されている。北部では各時代の遺構が同一の検出面で確認されていた。しかし、南部では溝等の比較的新しい遺構が浅く検出されている。10月５日には検出面迄の機械掘削を終了し、ST１を始めとする竪穴住居跡やSB１等の遺構群を検出した。10月６日からは調査区の北西端より遺構の精査を開始した。11月中に主な遺構の調査を終え、12月７日には調査区全体の完掘状態をラジコンヘリにより写真撮影した。平成５年12月11日には林田地区に於けるすべての調査を終了した。

４．調査の方法

包含層の残存が非常に悪いことから、調査の主体を遺構の検出と精査に絞って行った。遺構のうち規模の比較的大きなものは検出、半截、完掘の状態を適宜写真と図面に記録している。また、調査区の全体図については航空測量に委ねた。遺構測量には始め調査区の北西端部を原点とする任意の座標系を設置して行った。主に光波距離計で遺構の位置や遺物の出土地点を座標で記録した。また、ST１やその他の遺構の幾つかには独自の測量軸を用意して、取上げや測図に用いた。調査の半ばからは工事区座標に則った幾つかの杭を調査区内に設置して、光波距離計や平板を用いて行った。遺物の出土状態や埋積状態は竪穴住居と幾つかの土坑に就いて写真と図面に記録した。ただし、調査時の遺物取上げに使用した層位と各遺構の主にベルト断面における精査の結果がやや齟齬を来たした可能性は否めない。遺構番号は林田地区での通し番号とした。ピットについては当初、保存が良好なものと遺物の出土が見られたものに番号を付していたが、後には遺物出土のものに就いて番号を付すことで統一した。

Y 1200
Y 1190
Y 1180
Y 1170
Y 1160
X 1420
X 1410
X 1400
X 1390
P365
P363
P362
P101
P361
P412
P20
P397
P18
P13
P398
P96
P100
SX7
P357
P354
P356
P355
P353
P396
P359
SX10
P105
P186
P106
P136
P194
P182
P190
P155
P156
P149
P403
P204
P147
P399
P166
P139
P400
P163
P201
P137
P142
P228
P141
P144
P407
P299
P197
P227
P196
P237
P240
P198
P199
P401
P231
P241
P230
P239
P232
P402
P242
P236
P235
P243
P221
P249
P248
P222
P244
P245
SX1
SX2
P247
P246
P268
P274
P250
P270
P271
P252
P251
P253
P394
P395
P393
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
P352

Fig. 2　林田地区遺構全体図（西部）（S：1／200）

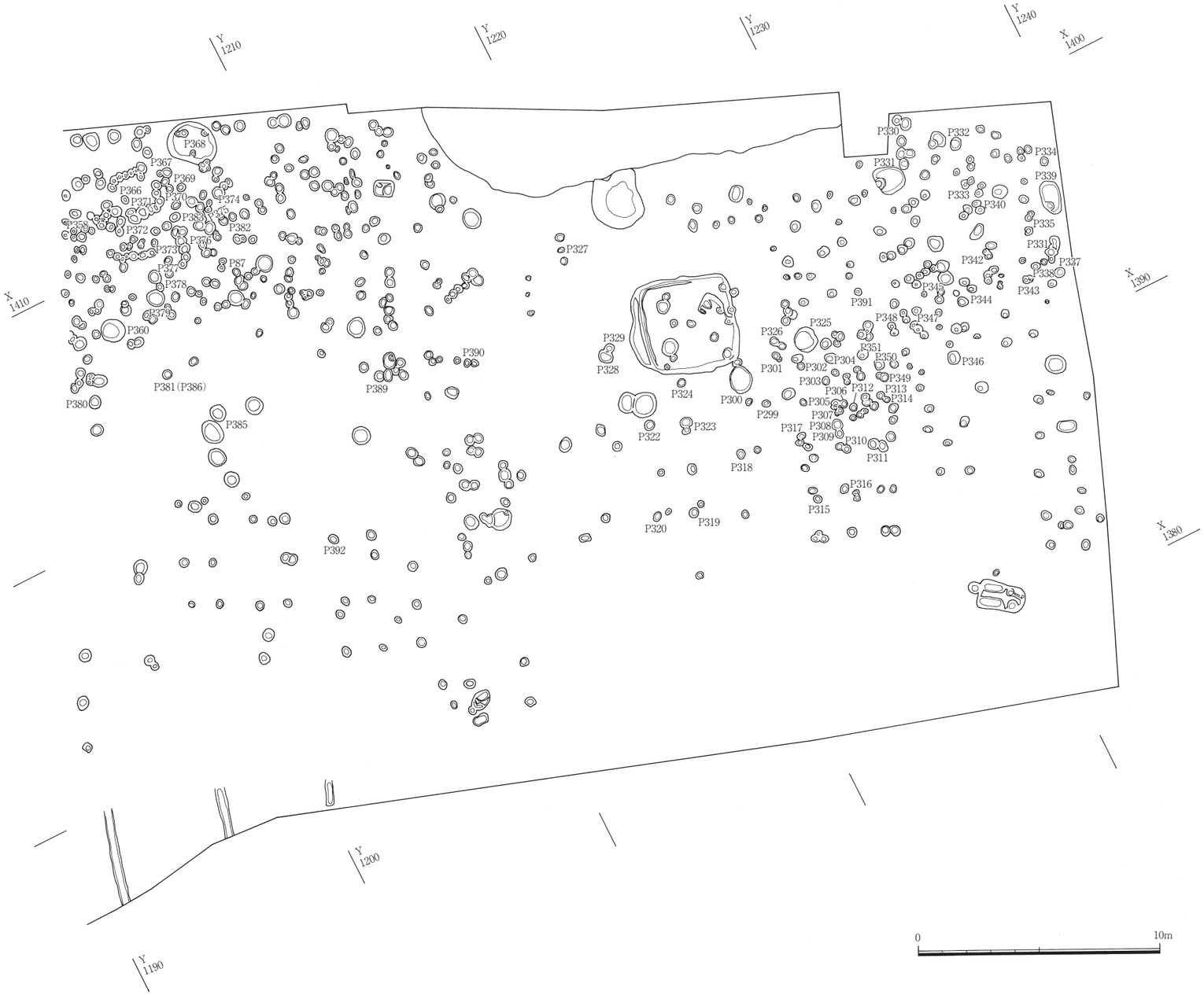


Fig. 3　林田地区遺構全体図（東部）（S：1／200）

５．遺構と遺物

SB１（Fig. ４）

調査区の北部に位置する２間×３間の掘立柱建物跡である。棟方向はＮ－88°－Ｅであり、ほぼ東西方向である。規模は梁間3.80m、桁行5.40mを測る。柱穴の平面形はやや隅丸の方形から長方形を呈しているものの、形態的な規格性はやや乏しい。規模については計測表を参照されたい。遺構深度にはばらつきが見られることから、本来の深さを止めず後世における削平が考えられる。SB１検出部分は中世出自と考えられるピット群が多く存在する場所であり、上位ではこれらのピットや溝によって部分的に影響を受けている。柱穴の埋土は多くの場合明褐色土が少量混入する黒色土であり、柱痕（または柱の抜き跡や補修）に係わる部分には明褐色砂が埋積している。

出土遺物は僅少であり、弥生後期から古墳前期の土器破片・細片である。林田地区で中世以降の遺構群に見られる埋土が灰色系の土であることからするとSB１の機能時期はこれら以前であり、竪穴住居等古い時期の遺構群を構成するものと考えられる。倉庫的な建物か。

表１　SB１ピット計測表

ピットNo.	規模(cm)	検出面からの深さ(cm)
P１	62×72	37.2
P２	60×70	47.8
P３	66×76	44.4
P４	70×78	38.1
P５	74×64	41.8
P６	60×70	46.2
P７	66×72	43.4
P８	68×72	56.5
P９	62×(64)	50.2
P10	68×64	45.7

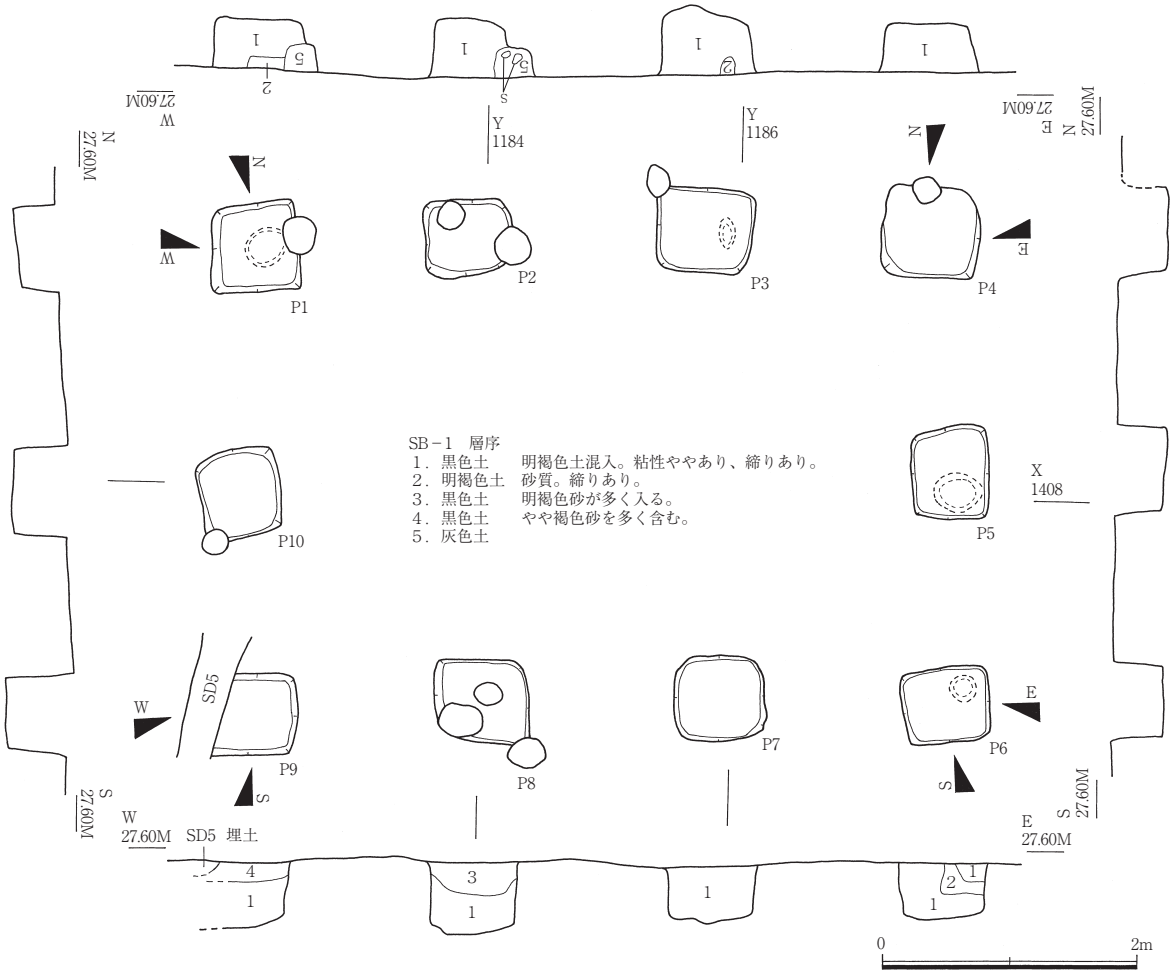
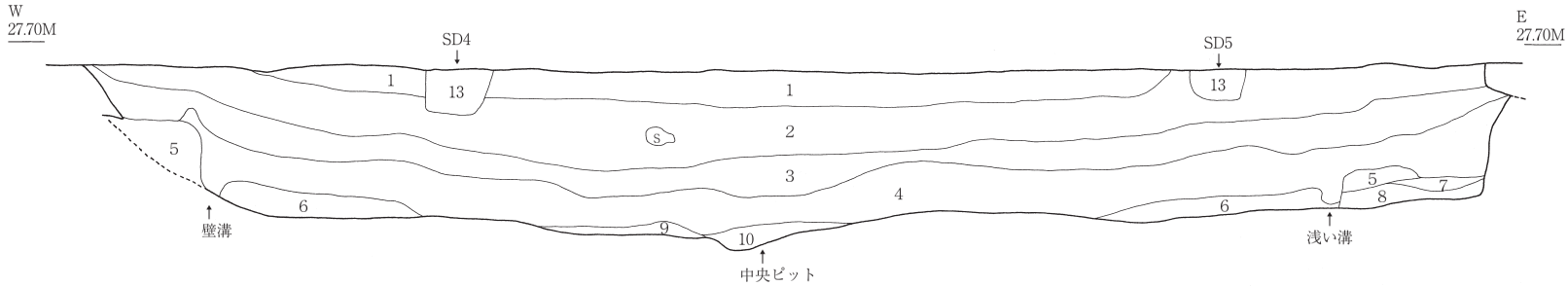


Fig. ４　林田地区SB１平・断面図（Ｓ：１／60）



東西ベルトセクション

ST 1　層序

1．黒褐色土　締りあり、粘性ややあり。　ST 1中央部に堆積し、須恵器、土師器（ヒビノキⅢ）を含む。

2．黒色土　締りあり、粘性ややあり。20～50cm大の円礫と土器（ヒビノキⅡ）を破片で多量に含む。黒ボク土混。

3．暗褐色土　締りあり、粘性なし。上部では黒色を帯びる。5cm大の円礫を含む。

4．暗灰褐色土　締りあり、粘性なし。Ⅲ層との境界は漸次的である。中央部で20cm大の円礫が多く残る。

5．黄褐色土　5cm大の円礫を含む。地山崩壊土？

6．黄褐色土　粗砂で構成され、円礫は含まない。

7．黄褐色土　出入口（張出し部）の段構成層。

8．暗褐色土　〃

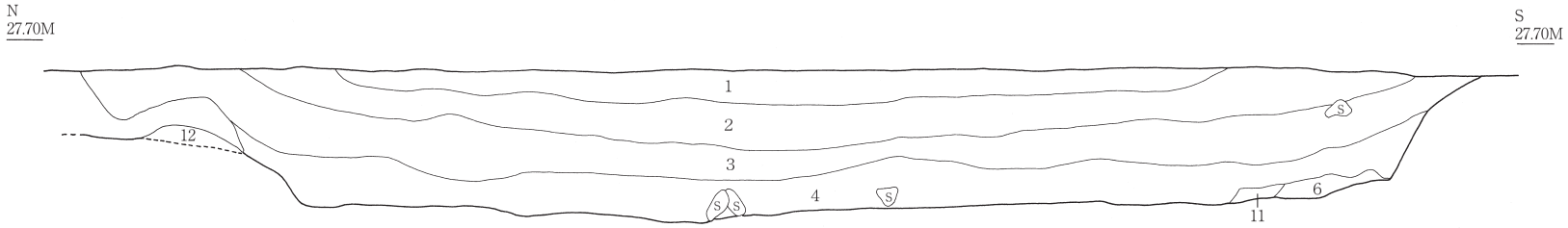
9．黒色土　小円礫及び砂粒で構成。中央の落ち込み部分に存在。土器片を含む。

10．明黄褐色土　粗砂及び土器細片を含む。中央ピット埋土。

11．灰色土　粗砂で構成。ベッド部分の崩壊土。

12．黄褐色土　地山形成土と近似する。円礫は含まない。

13．灰褐色土　SD4、SD5埋土。



南北ベルトセクション

0　2m

Fig. 5　林田地区ST 1 断面図（S：1／40）

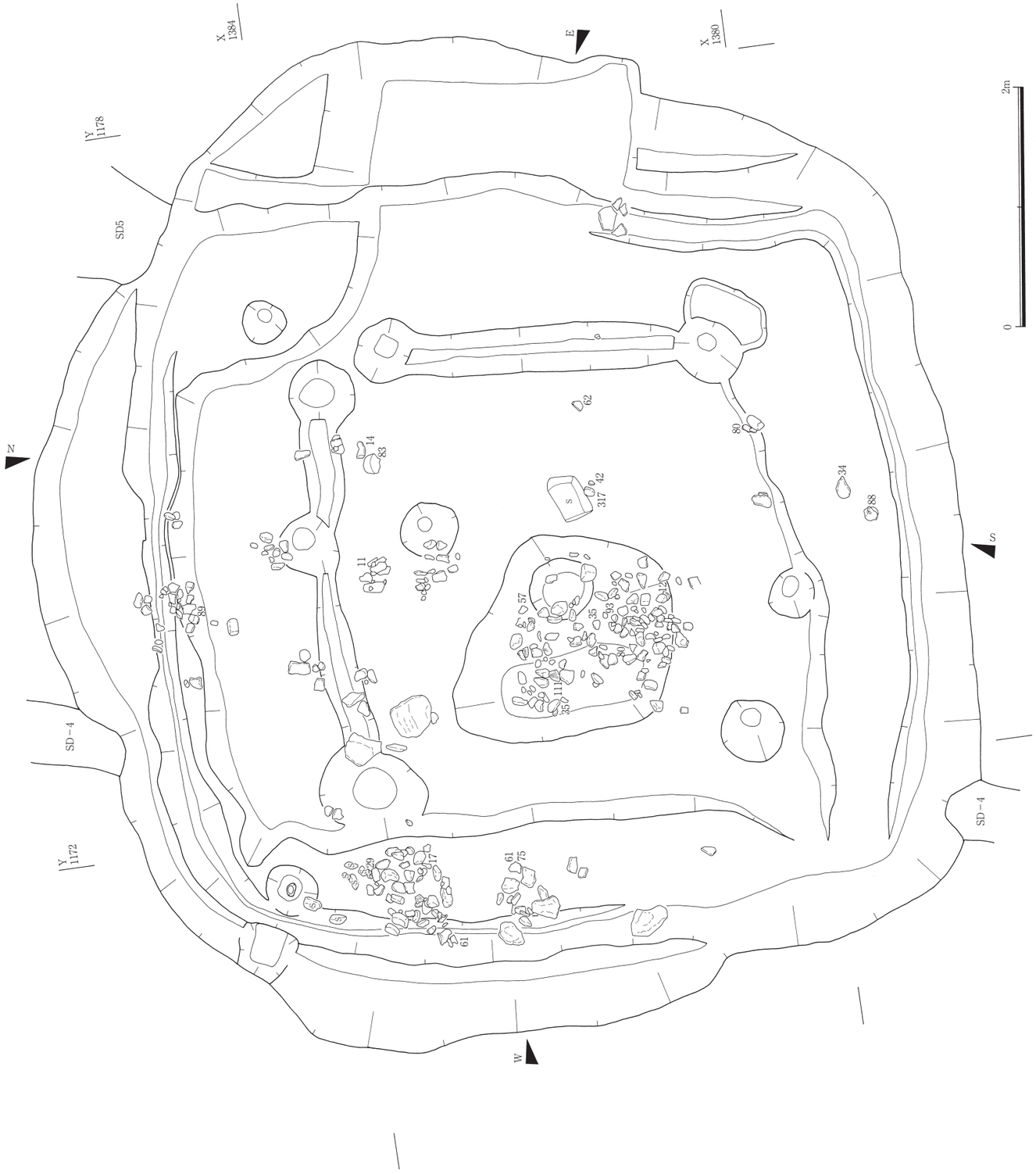


Fig. 6　林田地区ST１平面図（S：1／40）

竪穴住居跡

ST１（Fig. 5・6／7～15）

調査区の中央部で検出された住居跡である。検出面では中近世出自の溝状遺構SD４とSD５に上位の一部を破壊されていた。また、検出面では平面形態が不明瞭であり、ただ黒褐色から暗茶褐色を呈する部分が調査区の中央部分で不整円形に観察されていたものである。後に精査を行い住居跡の平面形態は本来隅丸方形であった事が明らかとなる。上位の埋土が充填する段階で住居の東側約２／３の壁が崩壊して方形と円形が重なった状態になったものか、または床面から50cm程度の高さで段部または緩傾斜を造成する目的を持った構造的な形態と考えられる。ただし、調査の過程では前者を積極的に指示するような痕跡は認められていない。規模は内側の方形部分で東西6.60m（東の張出し部分を加えると7.70m）、南北6.80mであり、検出面から住居床面までの深さは80cmを越えるものであった。検出段階で上位に堆積していた黒色系の埋土は大きな凹みとして存在していたこの住居跡の最終的な充填土であったと考えられ、遺構埋土としては大きく４つの層（１．黒褐色土、２．黒色土、３．暗褐色土、４．暗灰褐色土）が存在していた。

住居内には北側と西側に壁溝が顕著である。特に北壁下では溝が壁を掘込む様に設置されており、壁は上位で住居址側へ張出している。また、溝底は床面よりも十数cm高くに設定されている。つまり、北壁面が半分覆い被さるような形で設置されている。高床部は全周するものと考えられるが、北から東にかけてはやや不明瞭であった。高床部は主に盛土による成形と考えられ、南西部分では高床構成土が粗砂であることから固結が弱く感じられた。住居東側の高床部内側には中央床面に幅約40cmの住居内溝が存在している。住居の東側には出入り口と考えられる方形の張出し部分が存在する。出入り口の住居内側には壁溝に連なる住居内溝が掘られており、調査時には溝に沿う部分に円礫が置かれていた。張出し部分の床面は二層からなる盛土構造であり、高床部等住居内よりも幾分高くなる様に設定されている。張出し部の南北は急な壁に仕立て、東側への開口部はやや緩慢な傾斜（階段状とは認められなかった。）であった。

出土遺物の多くは破片で発見されており、復元完形に近似するものはあるものの、同時期の遺跡に見受けられる完形遺物を残した状態で廃棄するような状態は見られなかった。また北壁際から祭祀遺物と考えられる小型の遺物が数点見つかっている。埋土の最下層から出土しており、早い段階で住居壁上位に置かれた遺物が内側に崩落したものであろうか。

出土遺物は5,099点であり、弥生土器は甕口頸部341点・底部114点、壺口頸部90点・底部５点、鉢口縁41点・底部２点、胴体部4,416点、高坏坏部７点・脚６点、支脚１点、土製円盤１点、須恵器は甕５点・胴体部53点、土師質土器鍋１点・皿１点・坏22点である。このうち図示したのは１から117である。１から48は甕であり、初期段階の埋土４層から出土した甕は１から16の口頸部と34から42の底部である。３・５・８・13の頸部は内・外面ともに屈曲がやや急であるが、外面の調整はタタキ目を残し殆どハケは施されない。６・７・９は内面に口縁と胴部の認識的な境界である明らかな稜を留め、外面は概ね彎曲する。２・４の頸部は内・外面とも緩やかに彎曲しており、胴部は残されていないが、肩部の張出しは認められない。14から16は祭祀遺物と考えられる土器群であり、精緻な造り。何れも平底の底部を留めている。底部は概ね平底を有しており、調整は概ねタタキを残すかのちハケを施す。39は外面にナデが見られる。34は大きく張出した胴部を持つ。17から33と43から48は４層以外の上位層出土の遺物である。49から78は壺とその底部と考えられる。

Fig. 7　林田地区ST１出土遺物１（Ｓ：１／３）

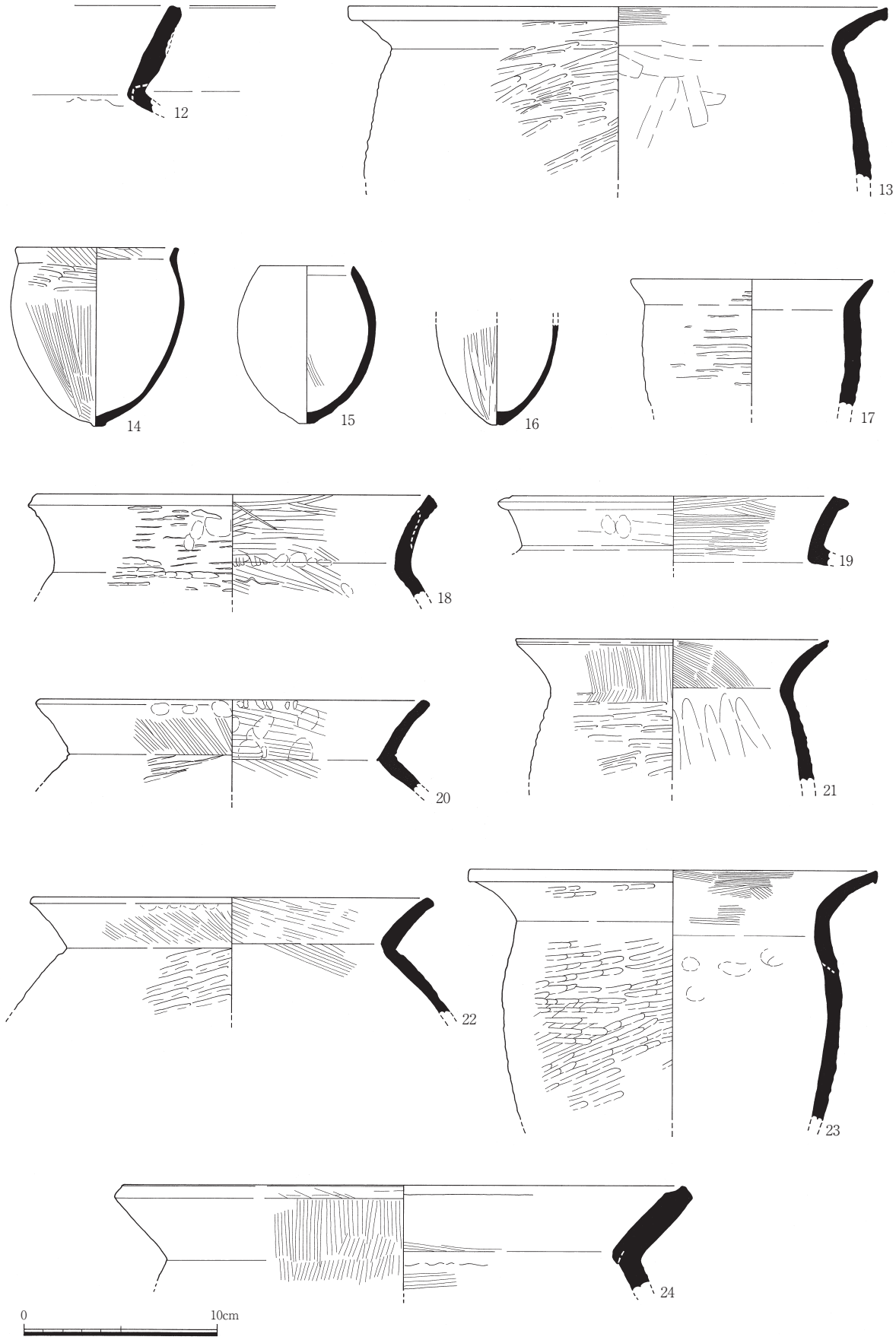


Fig. 8　林田地区ST１出土遺物２（S：1／3）

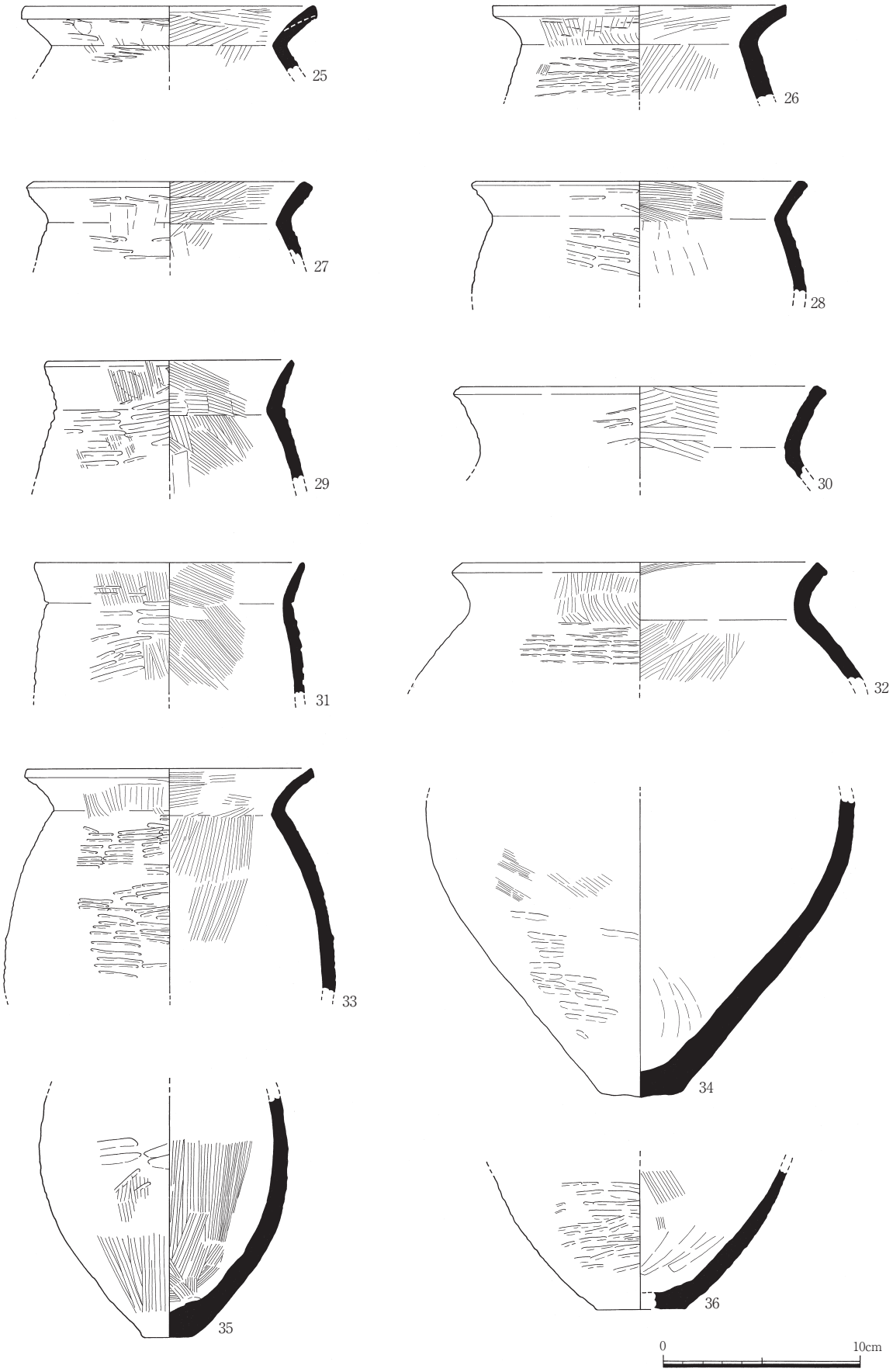


Fig. 9　林田地区ST１出土遺物３（S：1／3）

Fig. 10　林田地区ST１出土遺物４（Ｓ：１／３）

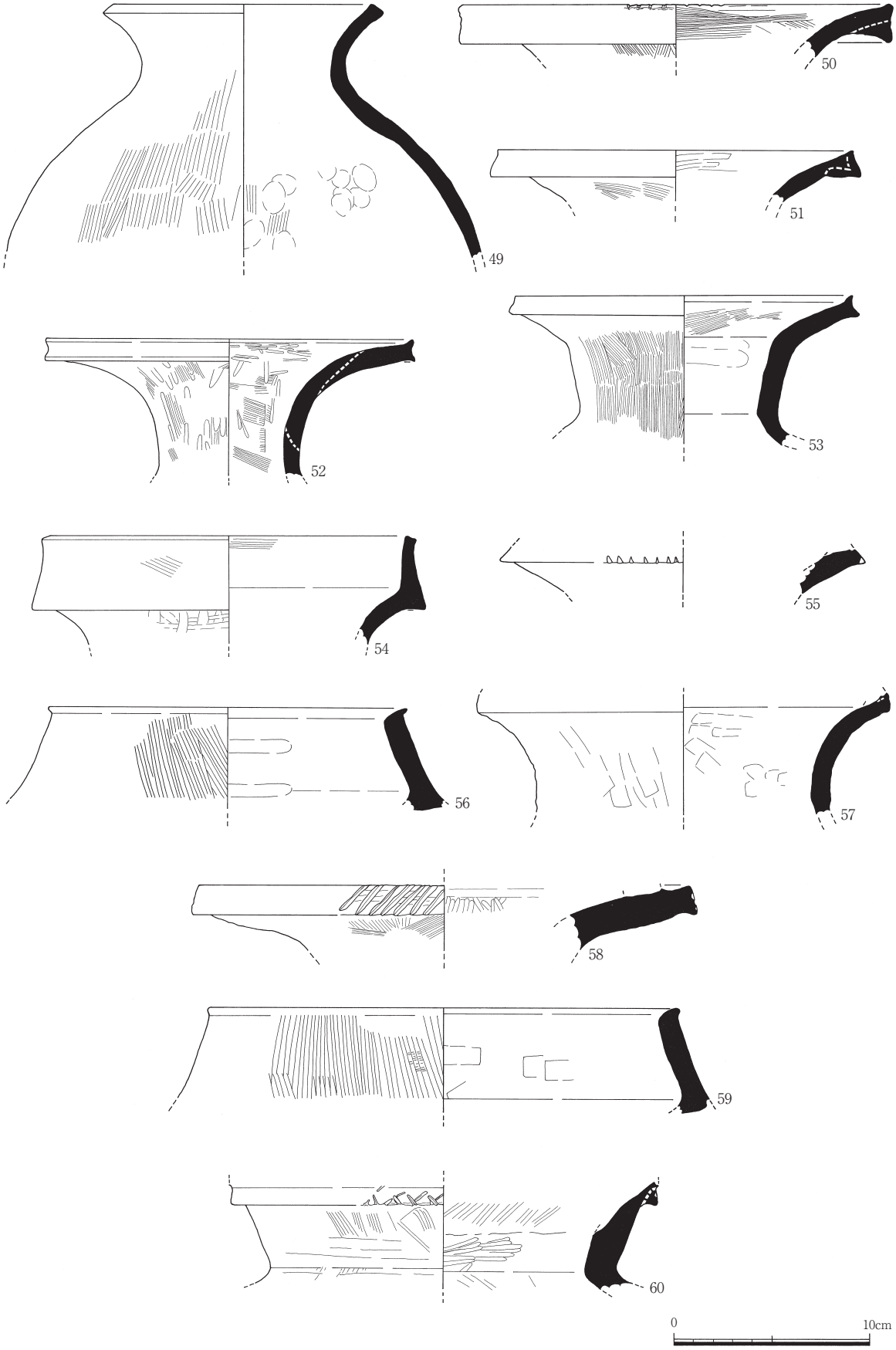


Fig. 11　林田地区ST１出土遺物５（Ｓ：１／３）

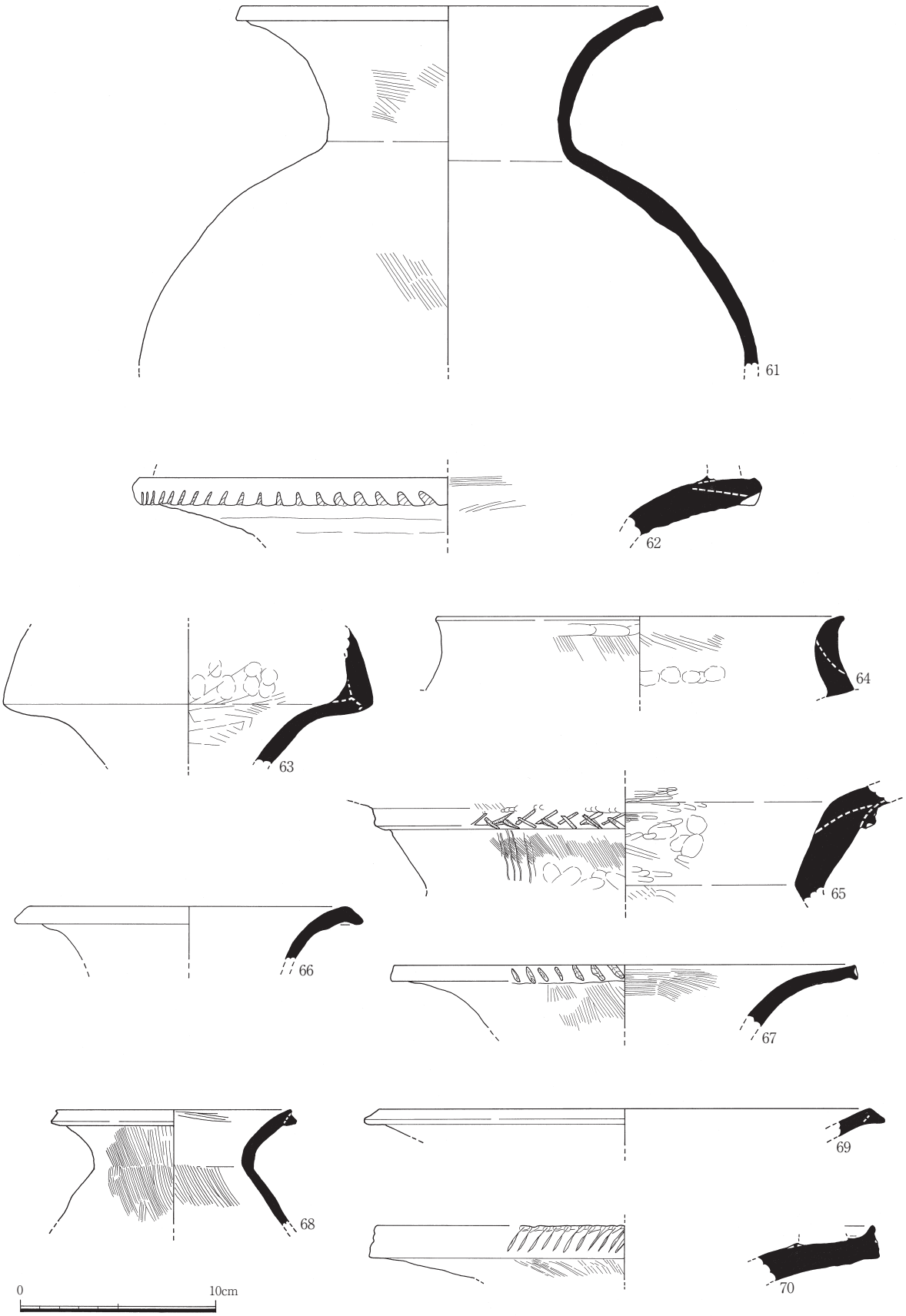


Fig. 12　林田地区ST１出土遺物６（Ｓ：１／３）

Fig. 13　林田地区ST１出土遺物７（Ｓ：１／３）

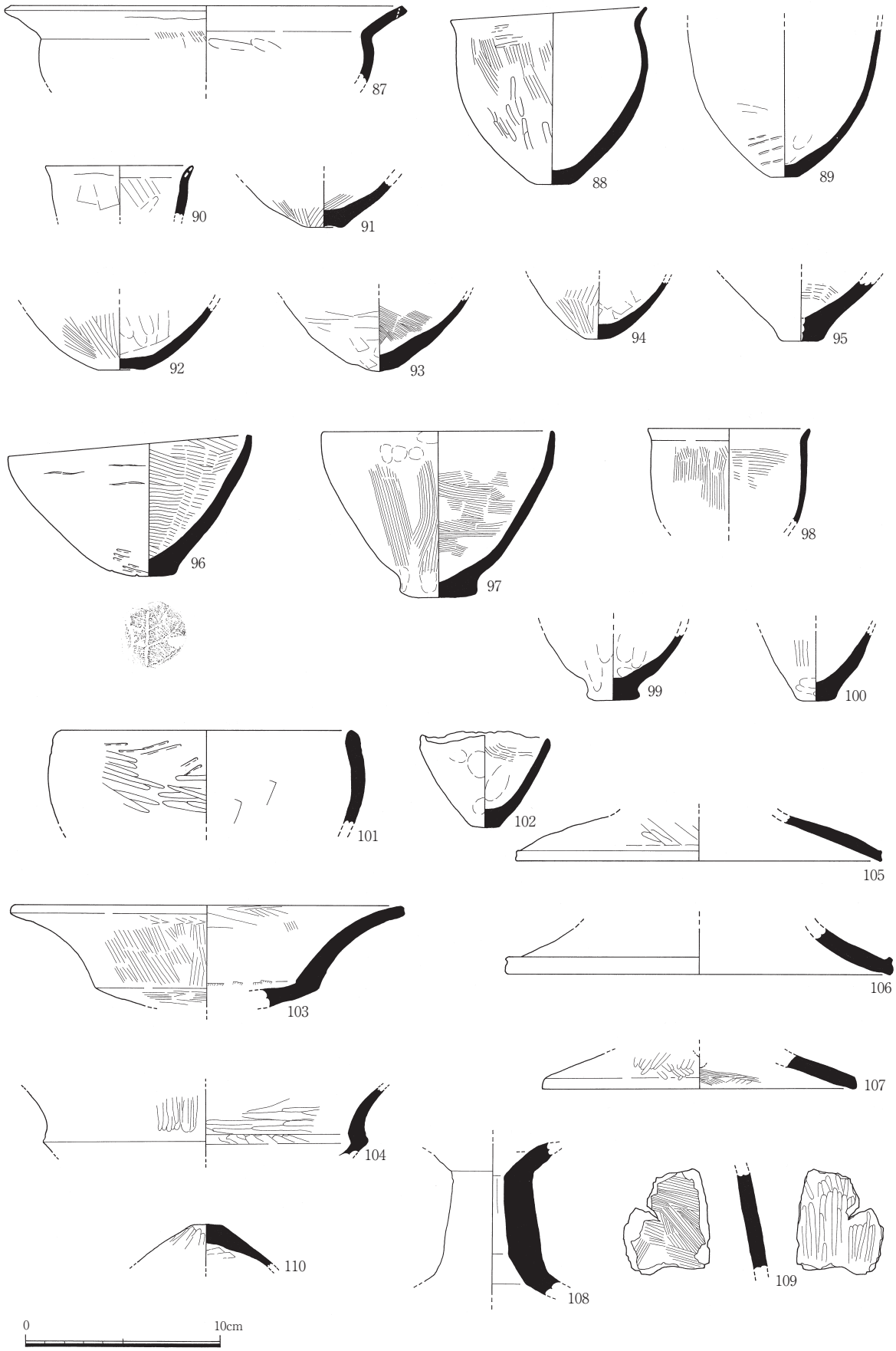


Fig. 14　林田地区ST１出土遺物８（Ｓ：１／３）

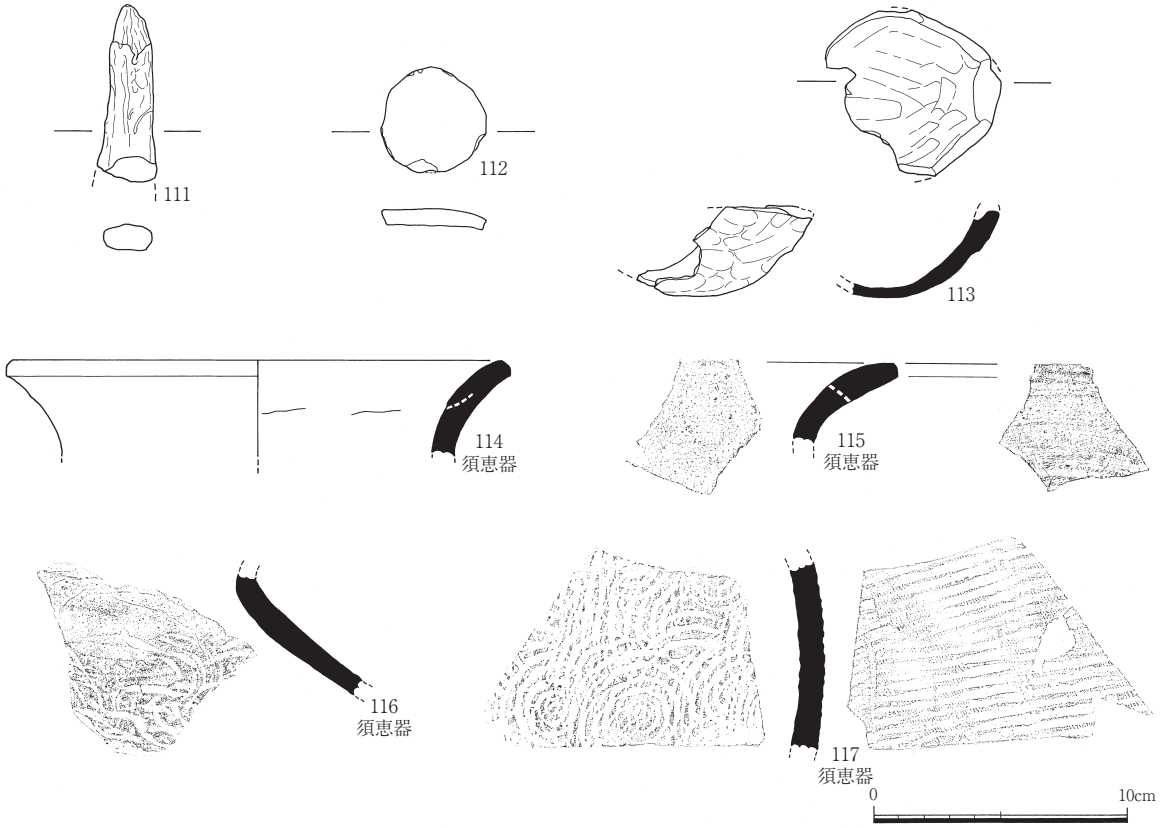
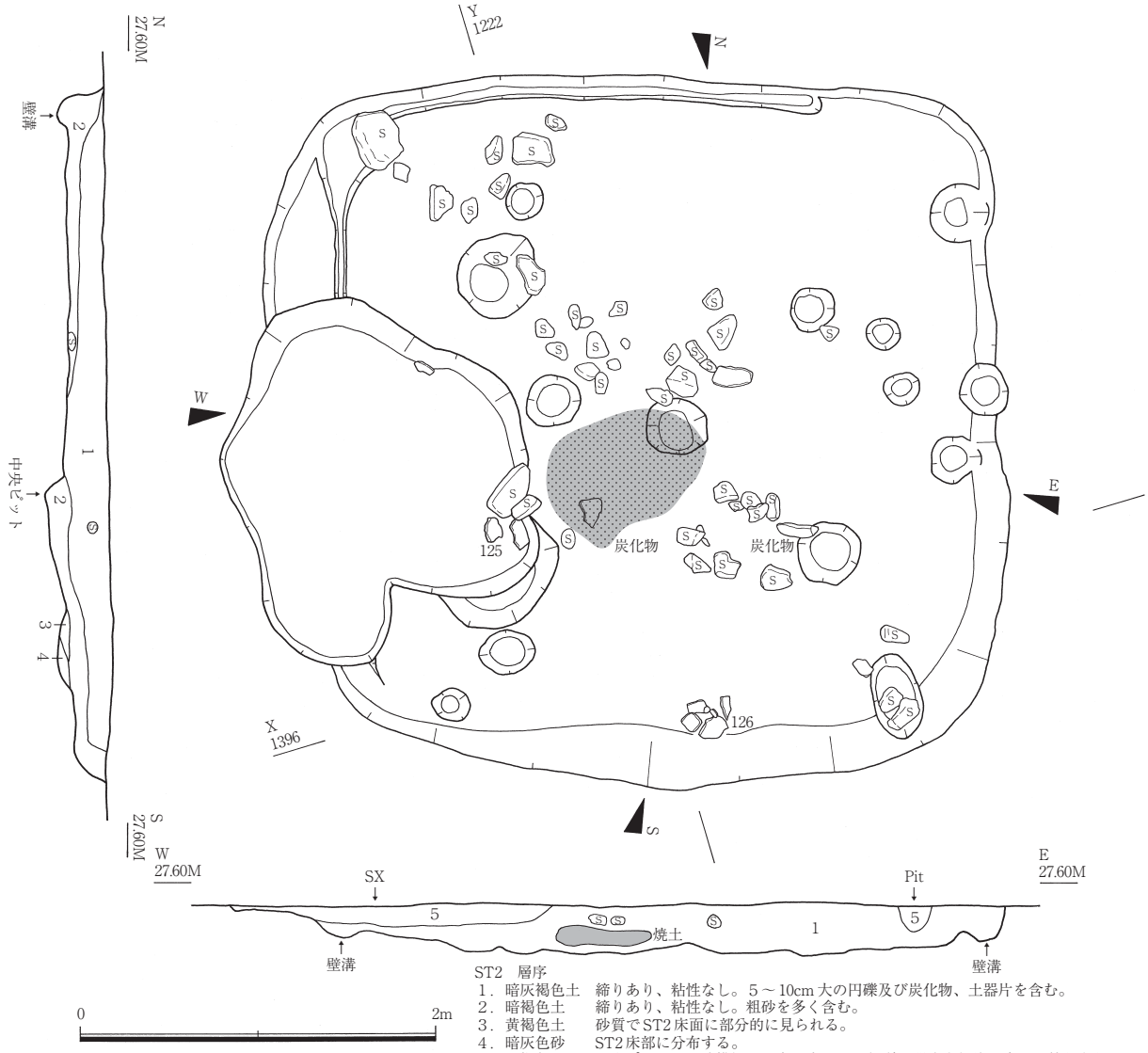


Fig. 15　林田地区ST１出土遺物９（Ｓ：１／３）

このうち、49から60と71から75は最下層からの出土である。49は口頸部が短く開く。50・51は広口壺であり、口縁は外側に肥厚する。52・53は頸部がやや発達する。54から59は二重口縁である。54は外反して開く一次側口縁に二次側はやや内傾して立ち上がる。55・57は開いた一次側口縁の端部に内傾する二次側が付く。55は一次側端部の屈曲部に刻みを施す。56・59は直線的に内傾する二次側の口縁である。58は大きく広がる一次側の口縁であり、端面に斜位の刻みを施す。二次側口縁は端部からやや間隙をおいて付く。60は単口縁か。口縁外面に断面三角形の突帯が付き斜格子の刻みが施される。71から74の底部は概ね安定した平底であり、75の底面はやや凸面を成し端部は不明瞭である。61から70と76から78は上位層からの出土である。61は球形指向の胴部にやや頸部が発達する。62から64と70は二重口縁である。62は大きく開いた一次側口縁下端に刻みを施す。63の二次側はやや内彎して立ち上がる。70は大きく開いた一次側口縁端部に65はやや発達した頸部上位に断面三角形の刻み突帯を施す。頸部外面には乾燥時に引っ掻き傷跡が残る。66と69は広口壺である。端部は外傾する面を成し、外側に肥厚する。67は端面をヘラ小口で斜位に刻む。68は時期がやや先行するか。79から102は鉢である。80から95が最下層からの出土である。80・81は器高の低い椀形。82から84はやや深めの椀形。87・88と90は鍔状に口縁が開く鉢である。102は手捏ね成形によるミニチュア土器である。恐らくST１の機能時期からは後出するであろう。103から109は高坏である。110は蓋とした。111は支脚の支部。112は土製円盤。113は土製の杓子であろう。基は厚みを持ち、先端に向かって器壁が次第に薄く作られる。柄の部分は欠損する。114から117は最上層から出土した須恵器である。ミニチュア土器と同様にST１の機能した時期と係わりは無いであろう。



ST2　層序
1．暗灰褐色土　締りあり、粘性なし。5～10cm大の円礫及び炭化物、土器片を含む。
2．暗褐色土　締りあり、粘性なし。粗砂を多く含む。
3．黄褐色土　砂質でST2床面に部分的に見られる。
4．暗灰色砂　ST2床部に分布する。
5．灰褐色土　中世ピット及び遺構埋土の主なもので土師質土器片を細片で含む。締りあり、粘性ややあり。

Fig. 16　林田地区ST２平・断面図（S：1／40）

ST２（Fig. 16／17）

調査区の東部で発見された住居跡である。平面形態は隅丸長方形であり、長軸方向はN－74°－Eである。規模は長辺4.20m、短辺4.00mであり、検出面からの深さは約25cmを測る。主な埋土は黒色土であり、西側の上位を大きく灰褐色土を埋土とする土坑（中近世出自？）によって切られる。小型で方形から長方形を呈する。住居の東壁よりで床面に掘込まれた施設が存在しており、ここには住居跡の上位埋土と異なる黄褐色粗砂が見られる。また、中央部西寄りには炭化物と焼土の集中部分を検出している。この下層からは中央ピットと考えられる浅い掘込みが確認されており、北側は急に、南側は緩やかな傾斜をもって立ち上がる。住居内には壁溝北壁から西壁にかけてが良好に残存しており、東壁でもベルトの精査から存在を確認することができた。高床部は不明瞭ではあったが、西側で中央床面よりも５cm程度高く地山削出しにより存在したものと考えられる。また、東側から北側にかけてもＬ字状に存在した可能性がある。

出土遺物は96点である。弥生土器は甕口縁13点・底部５点、壺口頸部２点、鉢口縁５点、胴体部56点、須恵

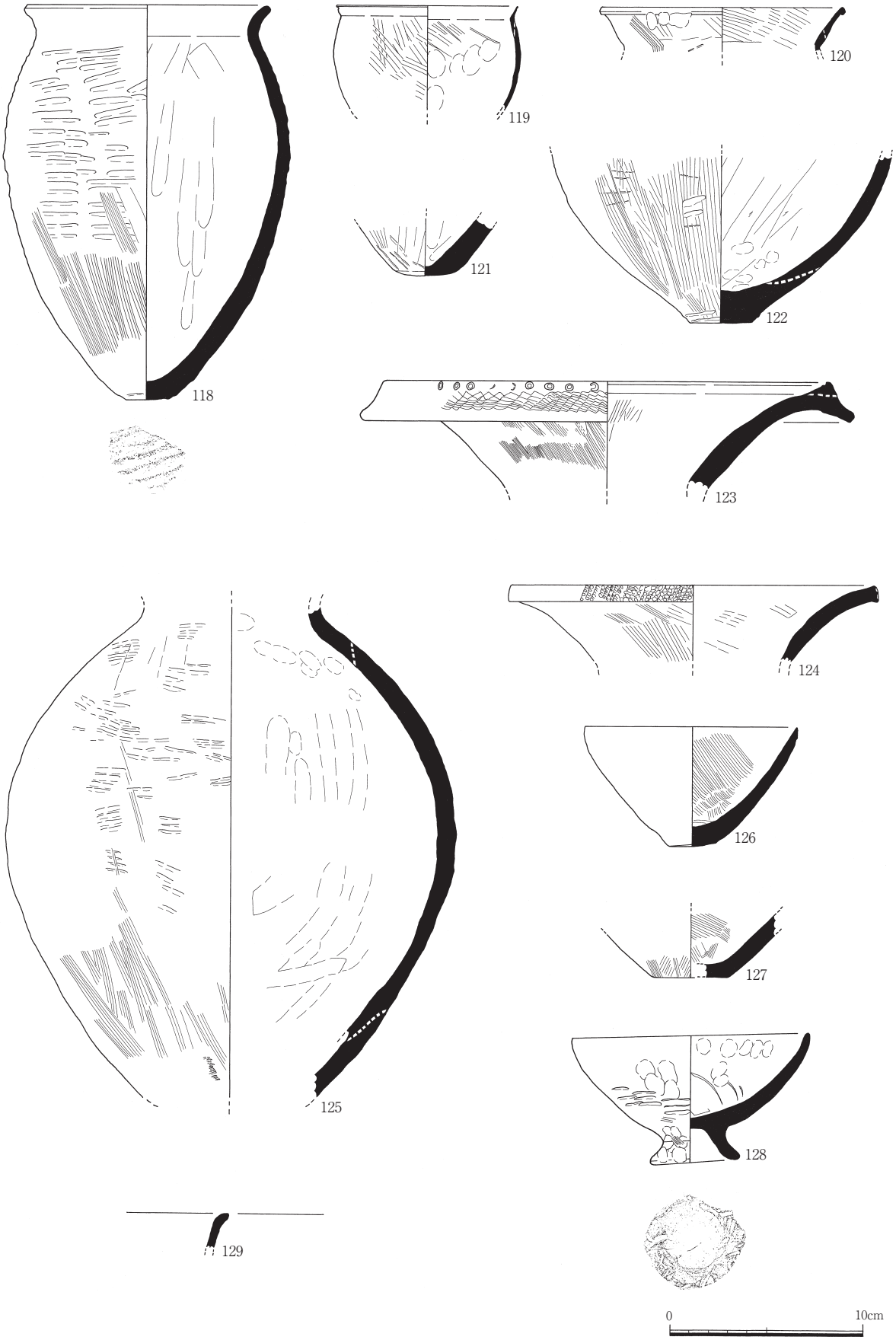


Fig. 17　林田地区ST２出土遺物（Ｓ：１／３）

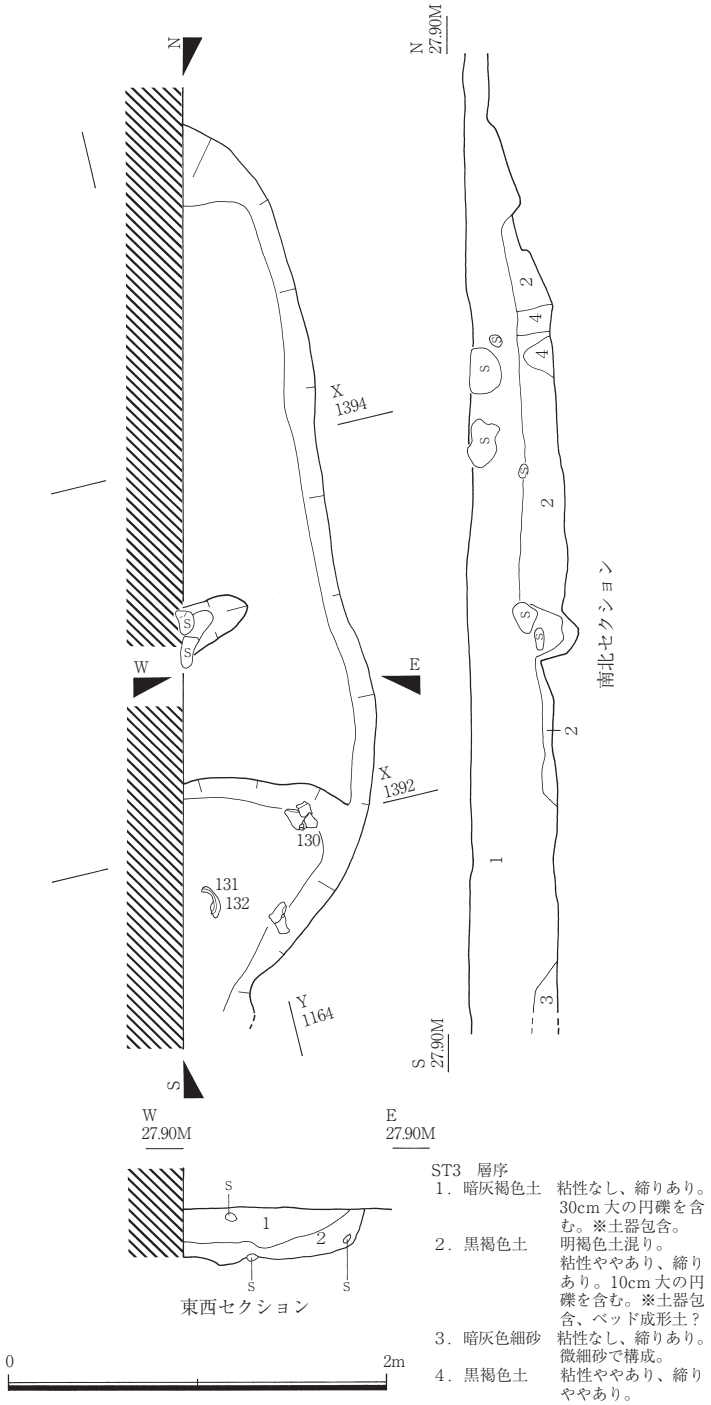


Fig. 18　林田地区ST３平・断面図（S：1／40）

器は高坏１点、土師質土器は12点、陶器は１点である。出土遺物のうち図示したものは118から128の11点である。118から122は甕である。118頸部外面は彎曲し、底部は平底を留める。119は口縁が短く立ち上がるものであり、鉢とすべきか。122は球形の胴部？に狭い平底が付く。123から125は壺である。123は大きく開く広口形の口縁で口唇は上下に肥厚する。124は平らな面を成す口唇に擬縄文を施す。125は胴部の破片である。本来は球形を呈するものであり、胴部の張出しが強く成る可能性が高い。126・127は鉢である。128はやや浅い鉢に低い台部が付く。この他に埋土上位から出土した石には赤色顔料の付着が見られた。

ST３（Fig. 18／20）

調査区の西端で発見された竪穴状遺構であり、住居跡の一部と考えられる。遺構内の北側約２／３は南側の床面よりも18cm程度高く、基盤層を掘削した後に盛土により形成された高床部分と考えられる（高床構成層は暗褐色土と明褐色土による）。ここには埋土中に20cm程度の円礫を含んだ楕円形？のピットが高床面から深さ24cmをもって検出されており、住居に係わる柱穴と考えられる。

出土遺物は弥生土器16点である。このうち図示したものは130から132の３点である。130は甕の頸胴部であり、頸部の屈曲はやや急。131は鍔状に開く口縁を持つ鉢であり、口縁はやや長く外反する。丁寧な成形による。132はこの底部で同一個体か。

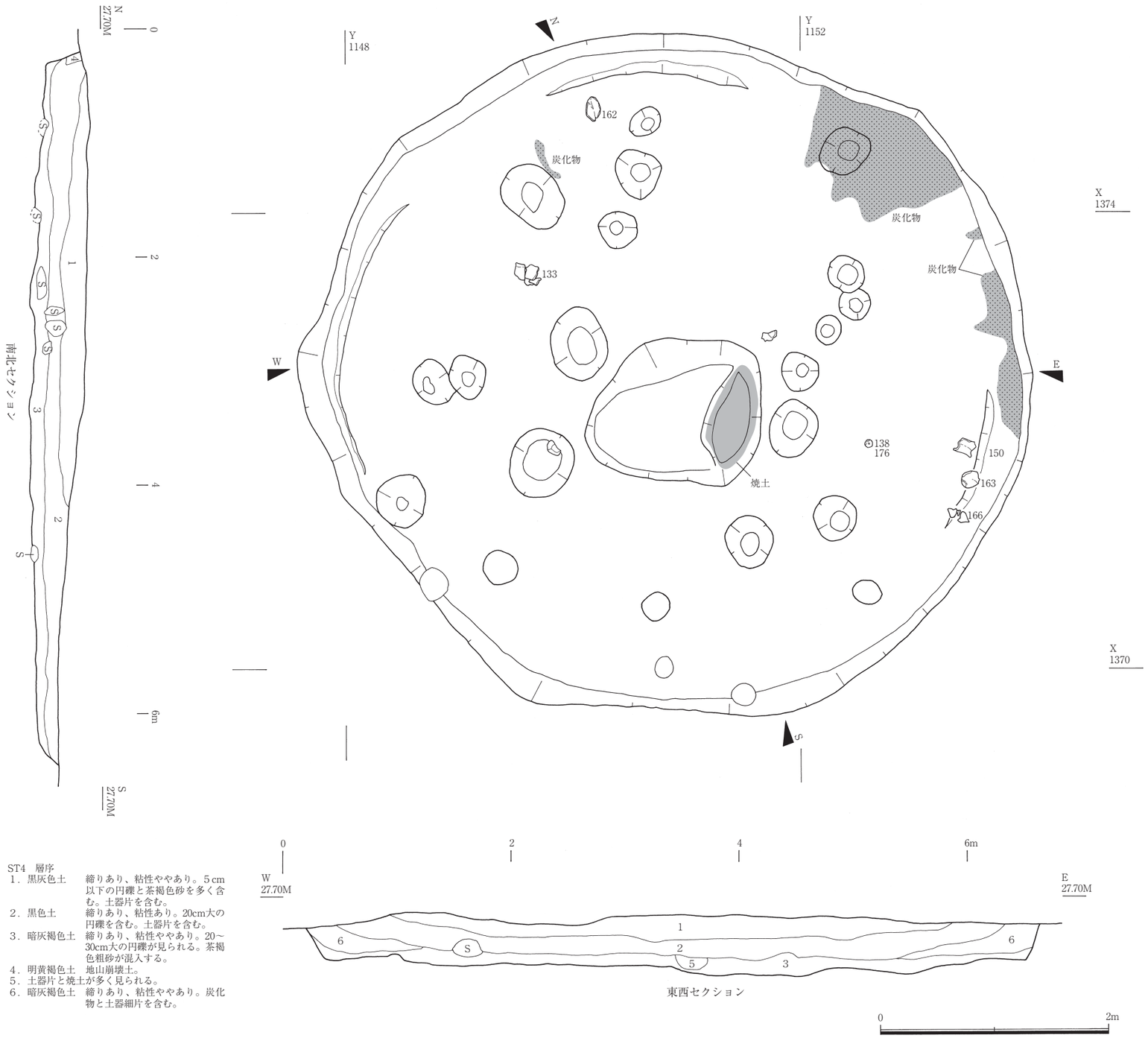


Fig. 19　林田地区ST４平・断面図（S：1／40）

ST４（Fig. 19/2～23・41）

調査区の西部中央に位置する。平面形態は円形である。規模は直径約６ｍ（東西6.40m、南北5.70m）であり、検出面からの深さは28～50㎝を測る。住居内には壁溝と考えられる窪みが、全周には認められないものの部分的に残されている。住居跡の中央部には規模1.50×1.20mの不整楕円形を呈した浅い（床面からの深さ８㎝）皿状の落ち込みが存在し、一部では焼土が検出されている。また、住居跡内部には部分的に炭化物が検出されている。柱穴は住居中央部の窪み周辺に設置されていたやや規模の大きな４個と周辺部の床面から検出された３個が存在し、これらを主として用いて上屋を支えていたものと考えられる。これらの主な柱穴群が円形プランに対してやや南寄りに設置されていることや床面からは他に小規模な柱穴群が検出されていることから、住居の北側への拡張か、または壁が比較的緩やかな傾斜を呈する南側に出入り口や付属施設があったものであろう。

出土遺物は1,670点である。主となる弥生土器は、甕口頸部197点、壺口頸部33点、鉢口縁28点、台または脚部４点、高坏口縁１点、紡錘車２点、底部60点、胴体部1,343点などである。このうち図示したのは133から176の44点である。133から149は甕である。頸部の屈曲は概ねやや急であり、殊に内面では顕著に稜を残す。139から148は甕の底部であり、平底を形態的には留めている。外面の調整はタタキのちハケを施すものが多く見られ、143や147では底部にヘラナデが卓越している。150から160は壺である。150は複合口縁の壺であり短く開いた口縁の内側にやや外反して立ち上がる二次側口縁が付く。151から153は頸部の発達した口縁部であり、154の頸部には断面台形の突帯が貼付され斜格子の刻みが施される。155は壺口縁の屈曲部か。161から171は鉢とした。161は浅い皿形、164・165は口縁が鍔状を成す。172は高坏の脚部。173は円孔の透かしをもつ小型器台。175・176は紡錘車である。174は縄文土器の浅鉢底部であろう。323は台石と考えられる。表面は部分的に浅く窪み滑らかな面を成す。

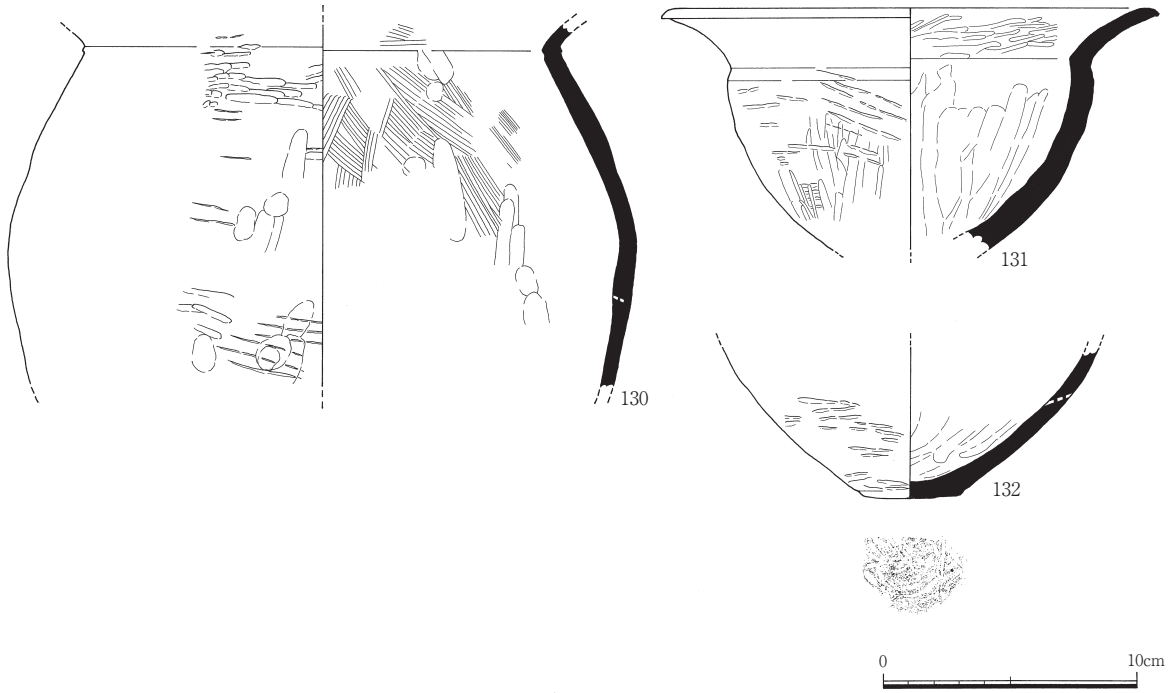


Fig. 20　林田地区ST３出土遺物（Ｓ：１／３）

ST５（Fig. 24／25～28）

調査区の南部に位置する。ST１と同様、検出面から十分な深さを持っており、残存は良好であった。平面形態は隅丸方形である。規模は一辺約５ｍであり、検出面からの深さは70cmを測る。上位はSD８やピットによって一部破壊されている。住居の各壁は床面から高さ30cm程度の所で屈曲部や段を有している。このうち東壁は傾斜が緩やかで広い段部が形成されていることから、出入り口が存在した可能性が高い。また、住居跡の中央部には浅い皿状の落ち込みが存在し、一部には焼土が残されていた。この他に住居内溝や高床部は認められないが、柱穴は床面中央に４個と北の壁際に２個存在している。住居プランから南にやや離れて２個の小規模なピットを検出したが、住居に伴うものかは不明である。調査時、住居内には多くの大小円礫が土器遺物と共に出土した。これらの多くはやや埋積が進んでから投棄された可能性が強い。

出土遺物は673点であり、弥生土器の甕口頸部40点・底部18点、壺口頸部19点・底部６点、鉢口縁33点・底部７点、胴体部550点である。このうち図示したものは177から222の56点である。177から196は甕である。177から180などのように頸部に屈曲部を残すものも存在する。181・183は頸部が彎曲して仕上げられ、182は口縁外面にナデによる段が形成される。184・186は口頸部が緩やかに曲がる。底部は192・193のような丸底または190・191等に見られる不明瞭な平底である。179から208は壺である。197・200・201は広口形、198・199は二重口縁風に緩やかに屈曲し上方へ立ち上がる。202・203は直口気味に口縁は緩やかに外反して立ち上がり口唇で肥厚する。206から208の底部は平底を呈す。209から221は鉢である。209から211は小容量の椀形、212は浅い皿形を呈す。217・218は口縁が短く鍔状に開く。221は底部に穿孔する。222は注口部が明確ではないが、口縁部の様相が異なることから片口と判断した。成形は粗製の小鉢に近似する。

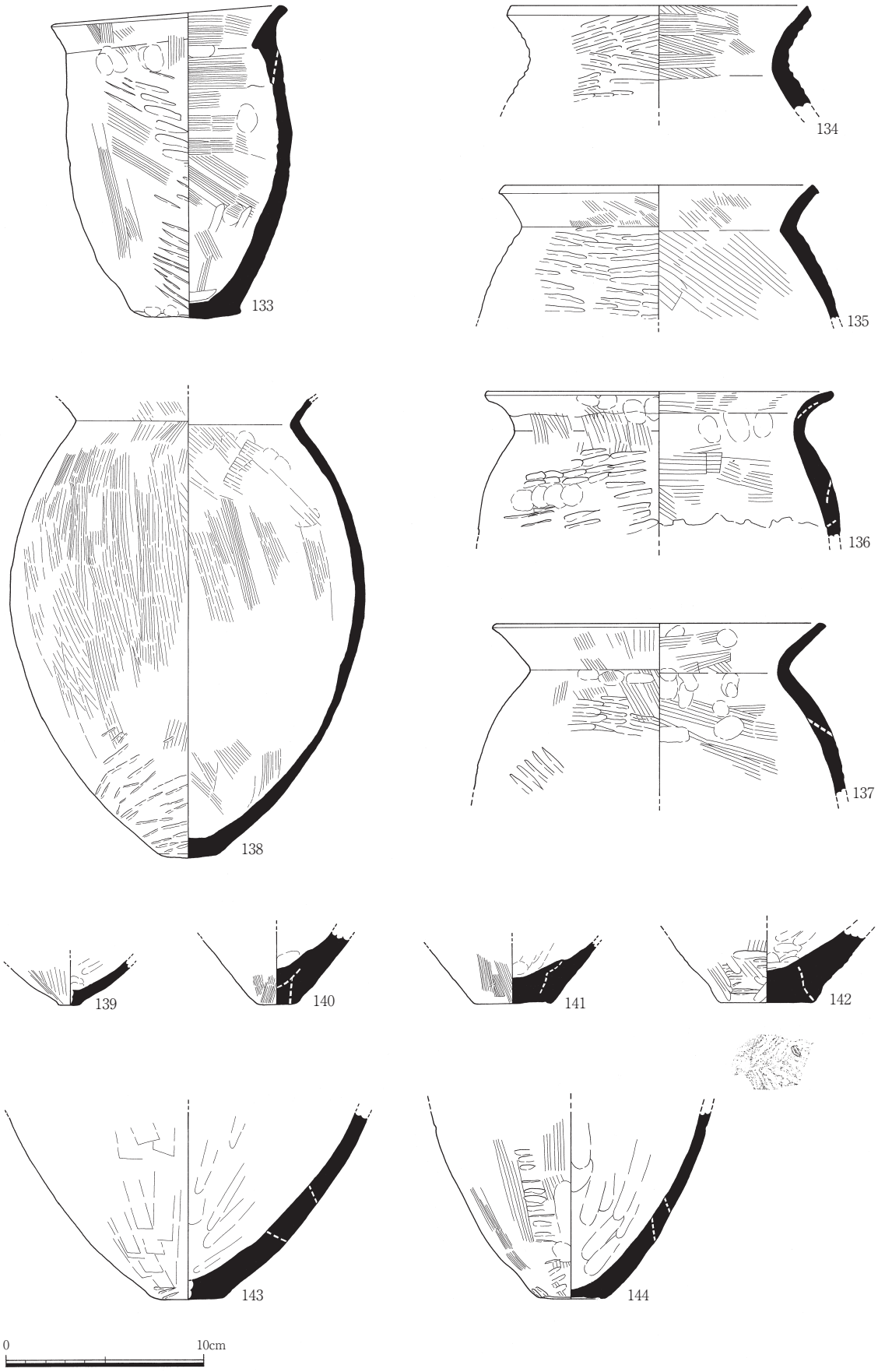


Fig. 21　林田地区ST４出土遺物１（Ｓ：１／３）

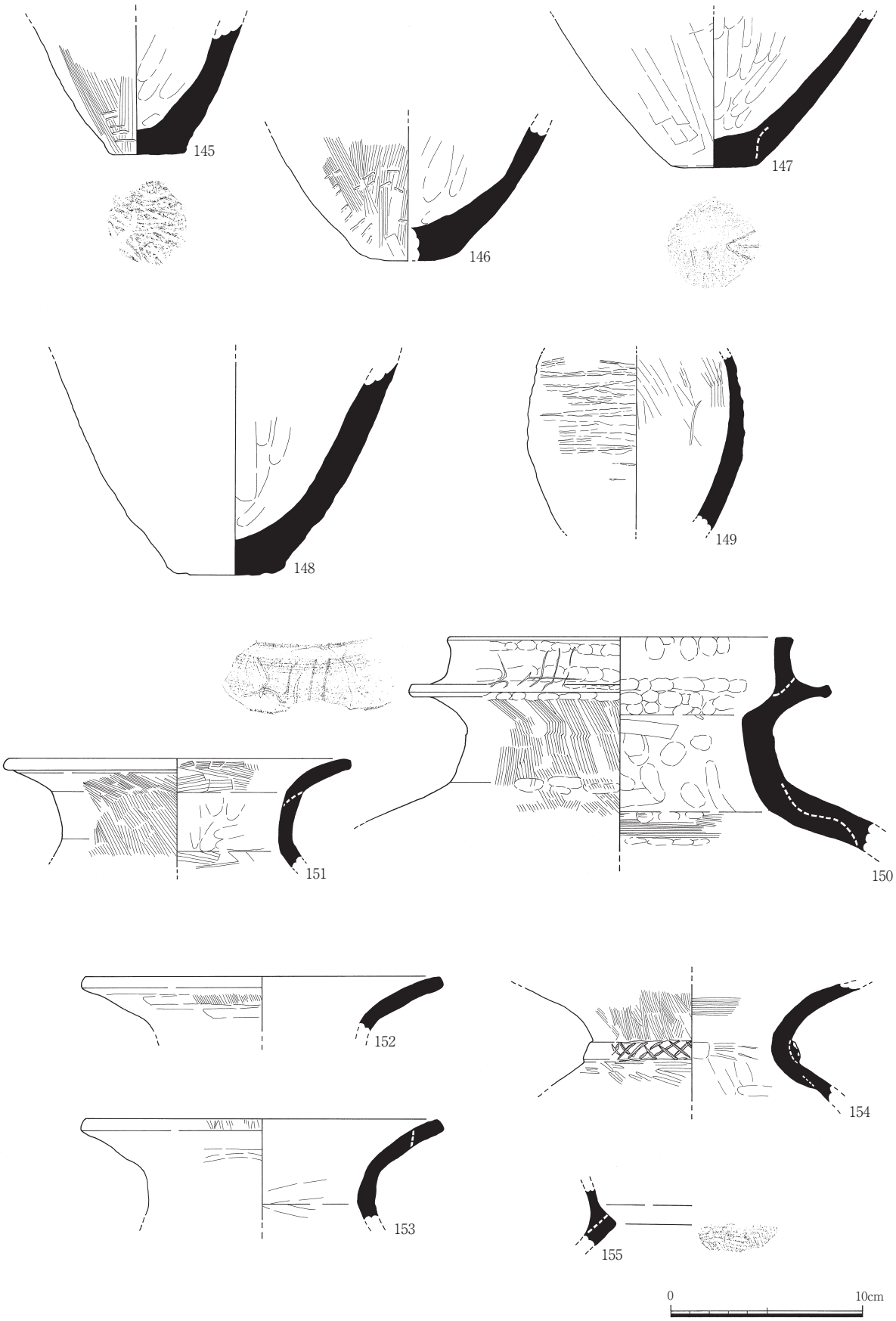


Fig. 22　林田地区ST４出土遺物２（Ｓ：１／３）

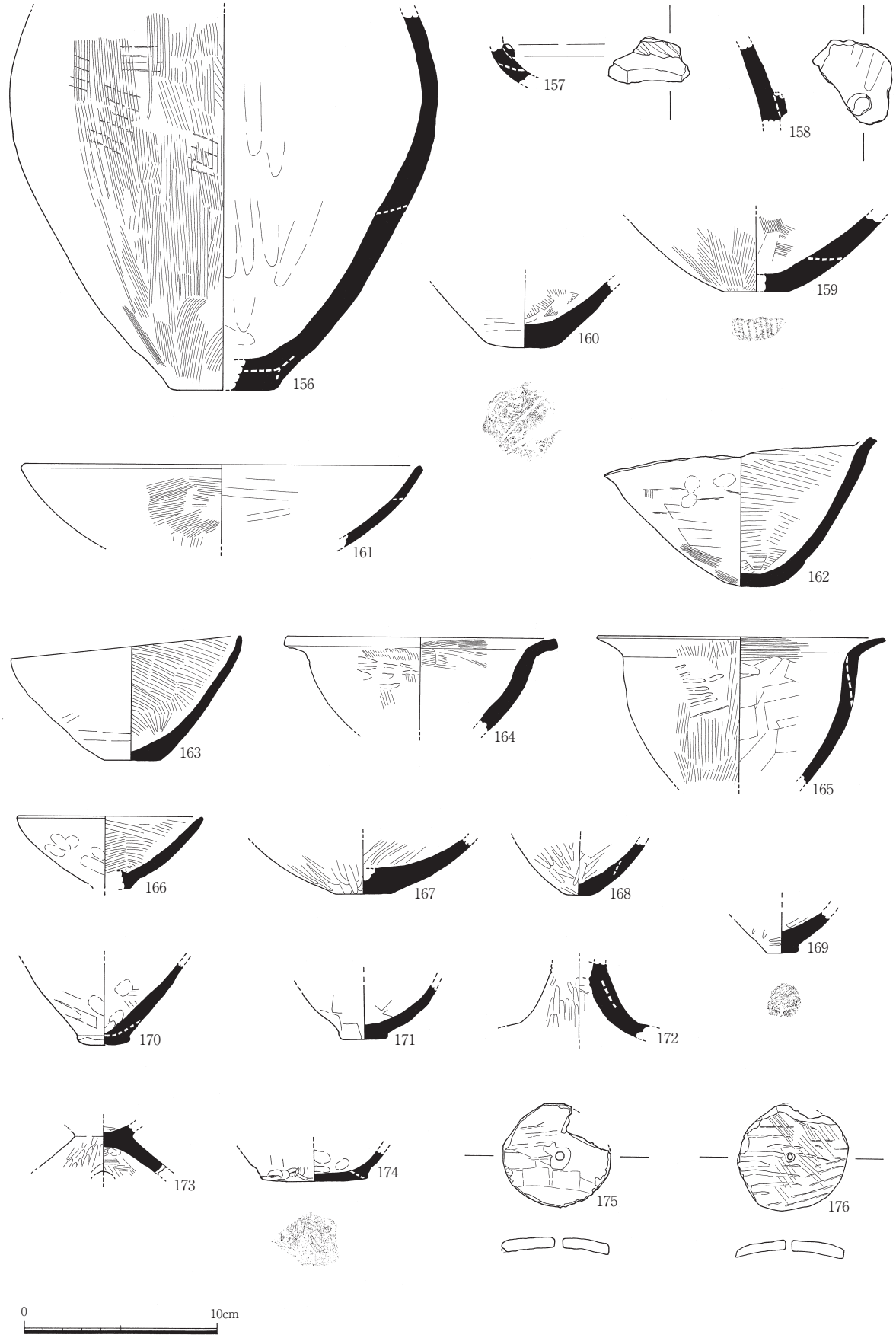
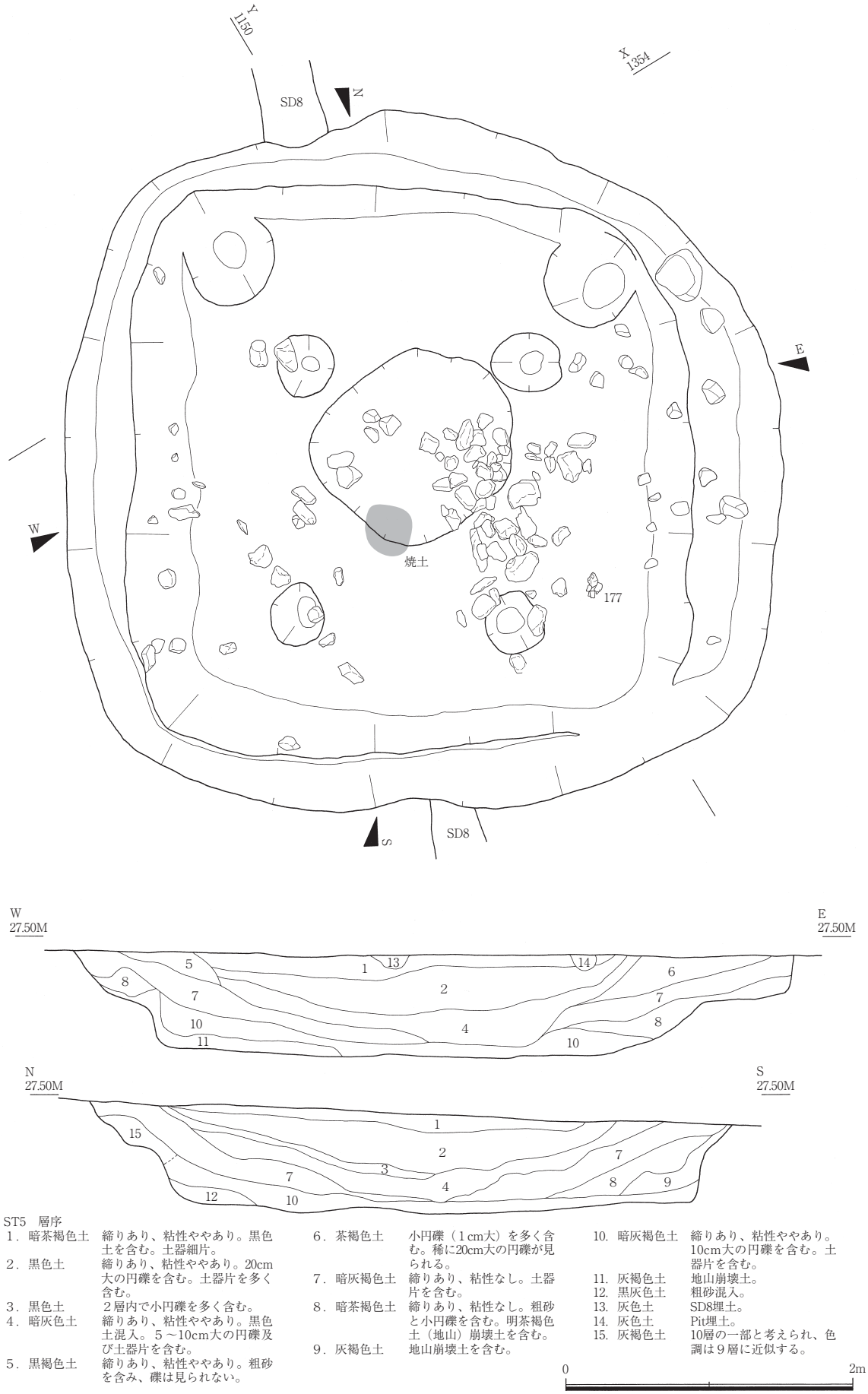


Fig. 23　林田地区ST４出土遺物３（Ｓ：１／３）



ST5　層序

1．暗茶褐色土　締りあり、粘性ややあり。黒色土を含む。土器細片。
2．黒色土　締りあり、粘性ややあり。20cm大の円礫を含む。土器片を多く含む。
3．黒色土　２層内で小円礫を多く含む。
4．暗灰色土　締りあり、粘性ややあり。黒色土混入。５～10cm大の円礫及び土器片を含む。
5．黒褐色土　締りあり、粘性ややあり。粗砂を含み、礫は見られない。
6．茶褐色土　小円礫（１cm大）を多く含む。稀に20cm大の円礫が見られる。
7．暗灰褐色土　締りあり、粘性なし。土器片を含む。
8．暗茶褐色土　締りあり、粘性なし。粗砂と小円礫を含む。明茶褐色土（地山）崩壊土を含む。
9．灰褐色土　地山崩壊土を含む。
10．暗灰褐色土　締りあり、粘性ややあり。10cm大の円礫を含む。土器片を含む。
11．灰褐色土　地山崩壊土。
12．黒灰色土　粗砂混入。
13．灰色土　SD8埋土。
14．灰色土　Pit埋土。
15．灰褐色土　10層の一部と考えられ、色調は９層に近似する。

Fig. 24　林田地区ST５平・断面図（S：1／40）

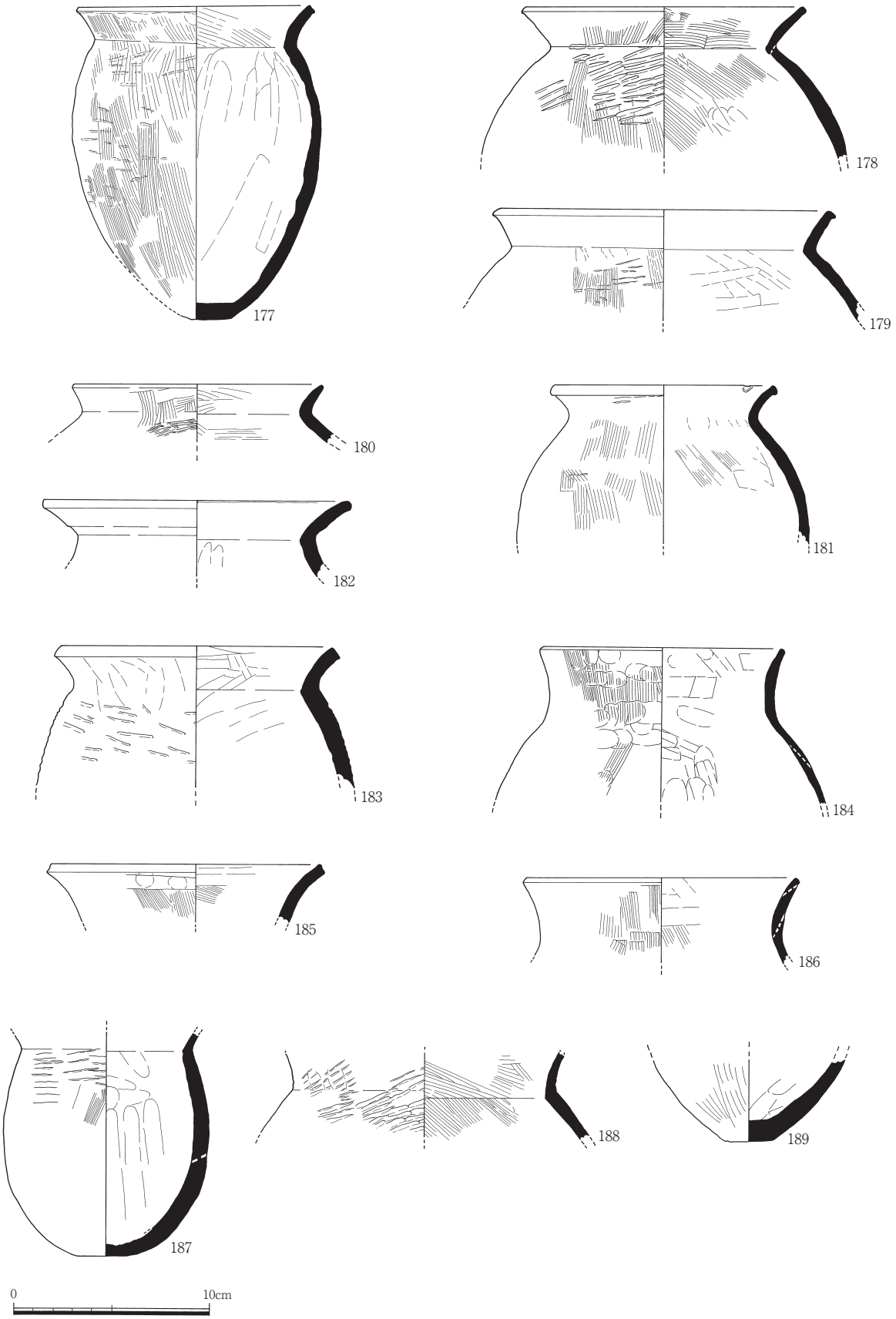


Fig. 25　林田地区ST５出土遺物１（Ｓ：１／３）

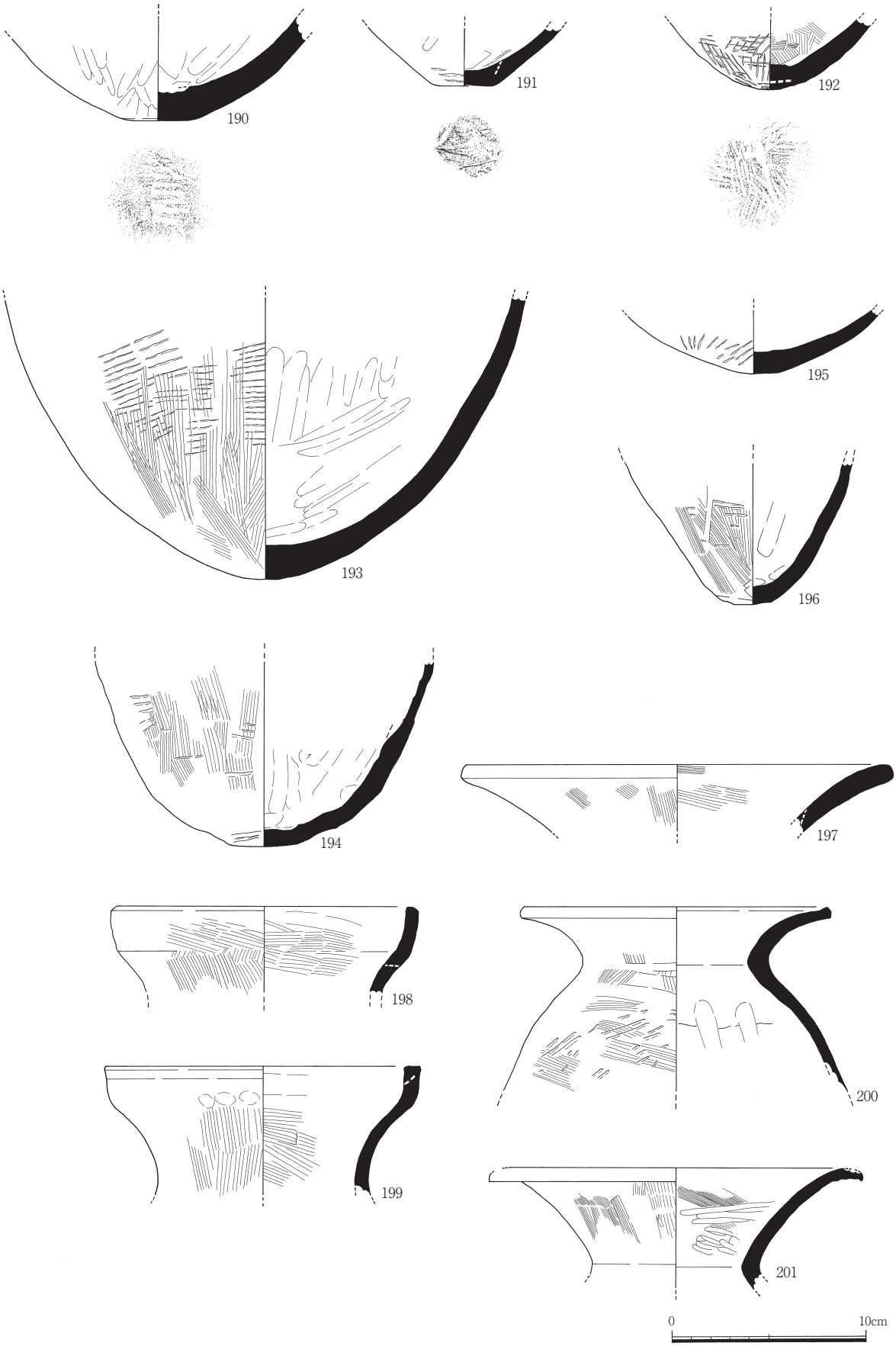


Fig. 26　林田地区ST５出土遺物２（Ｓ：１／３）

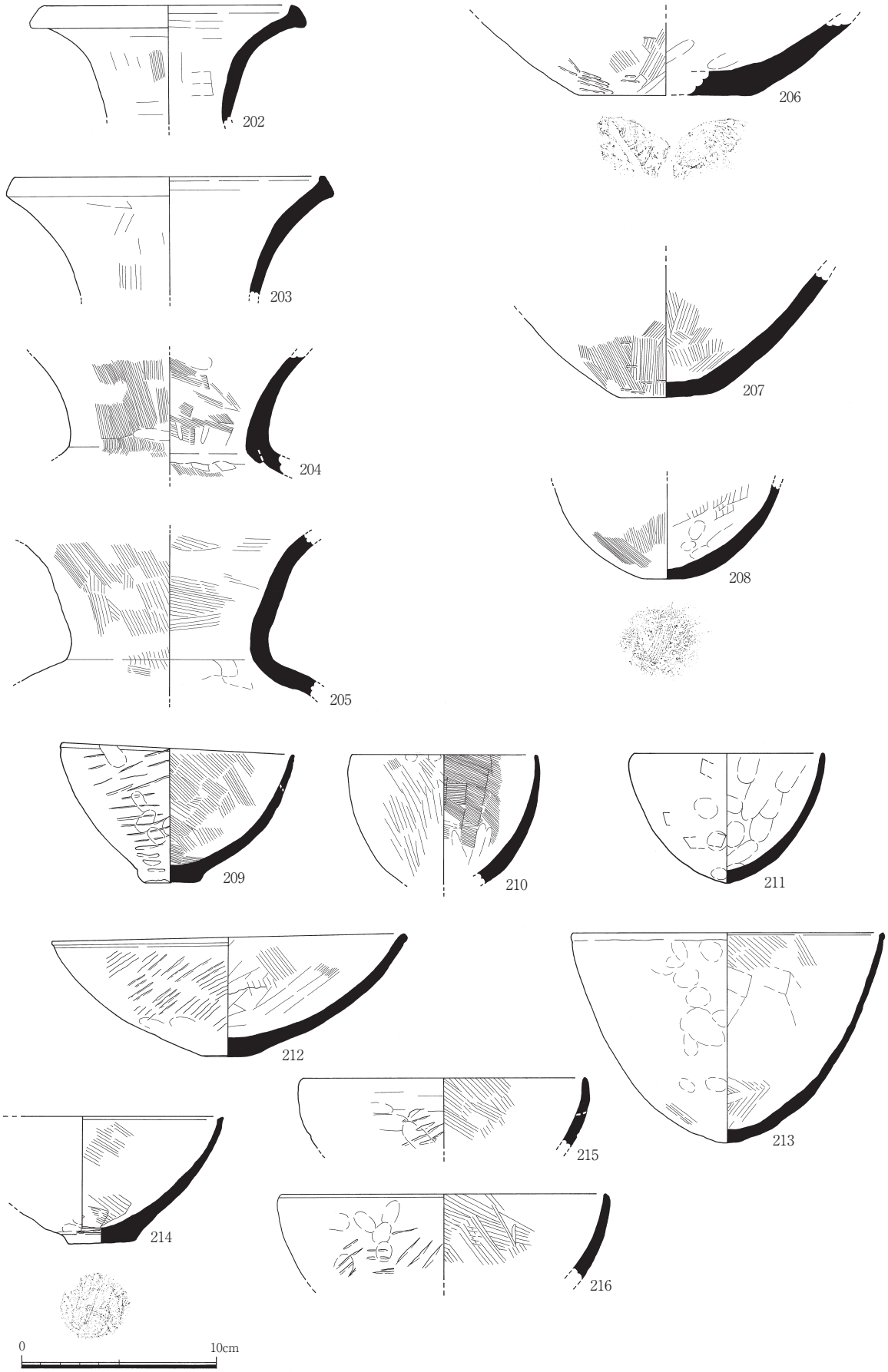


Fig. 27　林田地区ST５出土遺物３（Ｓ：１／３）

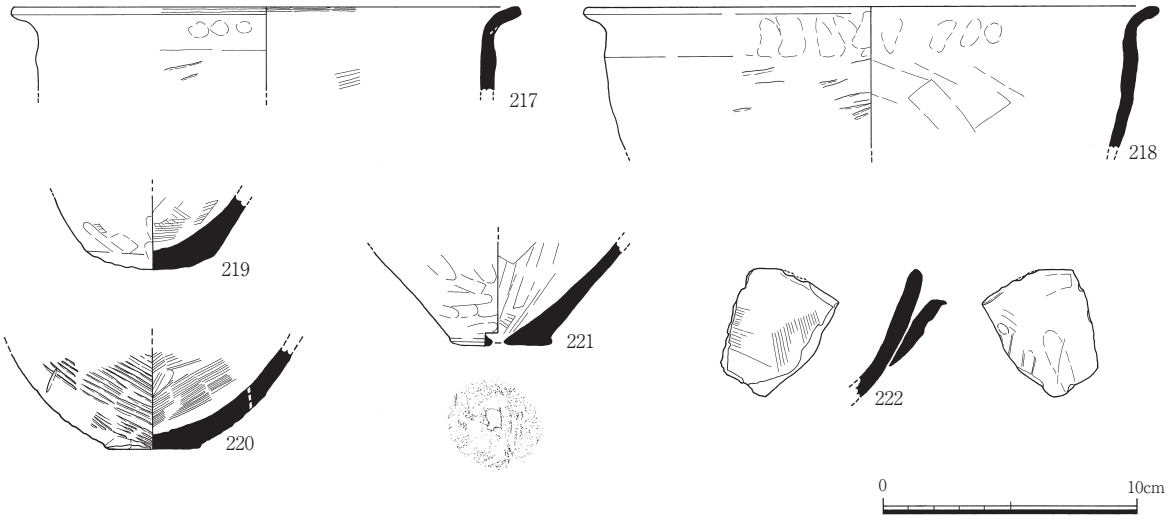


Fig. 28　林田地区ST５出土遺物４（Ｓ：１／３）

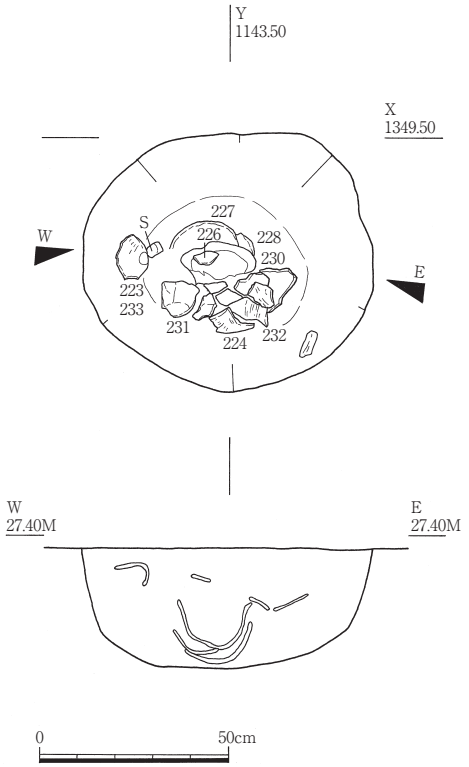


Fig. 29　林田地区SK１平・断面図（S：1／20）

土坑状遺構

SK１（Fig. 29／31）

調査区の南部でST５の西方に位置する。平面形態は楕円形であり、規模は80×70cm、検出面からの深さは33cmを測る。鍋底状の底部からやや急に壁は立ち上がる。出土遺物の多くは弥生土器の甕と鉢である。やや容量のある鉢は、傾きを持って重なって出土した。小型の椀形の鉢は転がった状態で、また甕は位置を留めるものの破片の状態で出土を見た。これらの遺物は意図的な破壊や破棄と云うよりは、完形または完形に近い状態で埋められた可能性が高い。地鎮祭祀的な埋納が行われたものであろう。

出土遺物は弥生土器であり、破片を含めて35点である。このうち223から233の11点を図示した。223・224は甕であり、223は頸部内面に明瞭な稜を残し口唇は面を成す。外面のタタキのちハケが顕著に残る。224は頸部が彎曲し、口唇は面を成す。外面はタタキである。225から232は鉢である。225は小鉢であり、底部は平底。226は椀形で内・外面にミガキを施す。底部は丸底である。227・228は口縁の開いた鉢であり、229も同様の形態を示すであろう。230は容量の大きな鉢で鍔状に開く口縁を持つ。

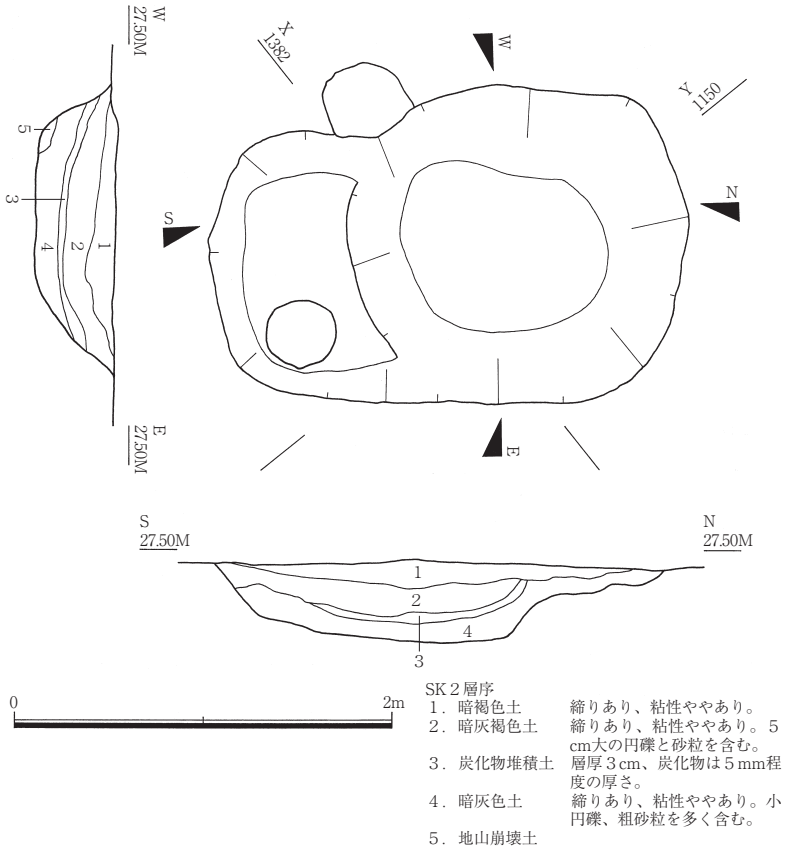


Fig. 30　林田地区SK２平・断面図（S：1／40）

SK２（Fig. 30／31）

調査区の西部に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、主軸方向はN－38°－Eである。規模は長辺2.54m、短辺1.66mであり、検出面からの深さは42cmを測る。南側には段状を成したやや浅い部分が存在する。北と東西の各壁はやや急に立ち上がる。遺構埋土は主に１．暗褐色土、２．暗灰褐色土、３．炭化物、４．暗灰色土の４つの層である。３層は幅２～４cm程度の黒色土（炭化物）層であり、南側の浅い部分には存在しない。葬送に係わる遺構であろう

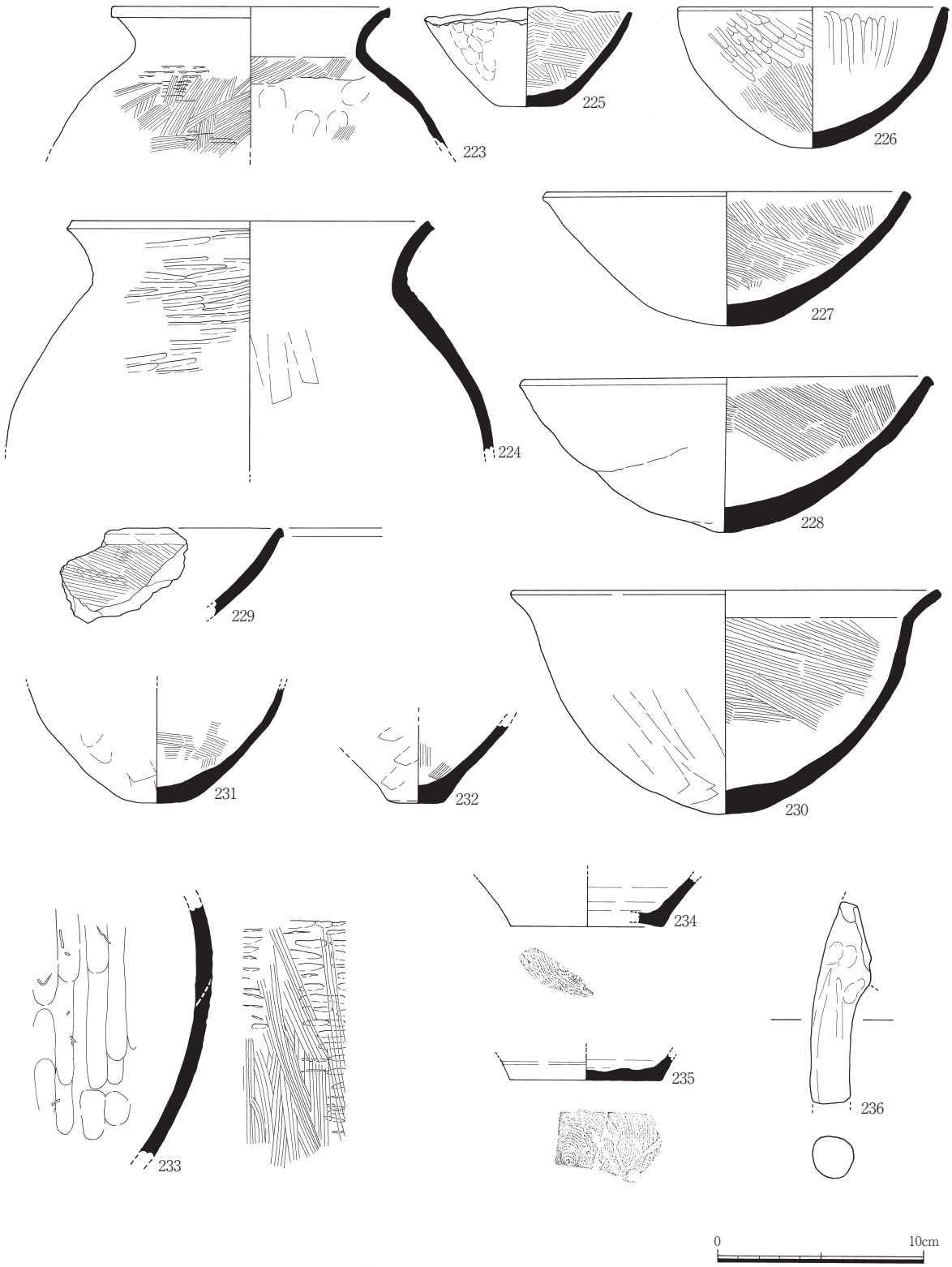


Fig. 31　林田地区SK１・２出土遺物（Ｓ：１／３）

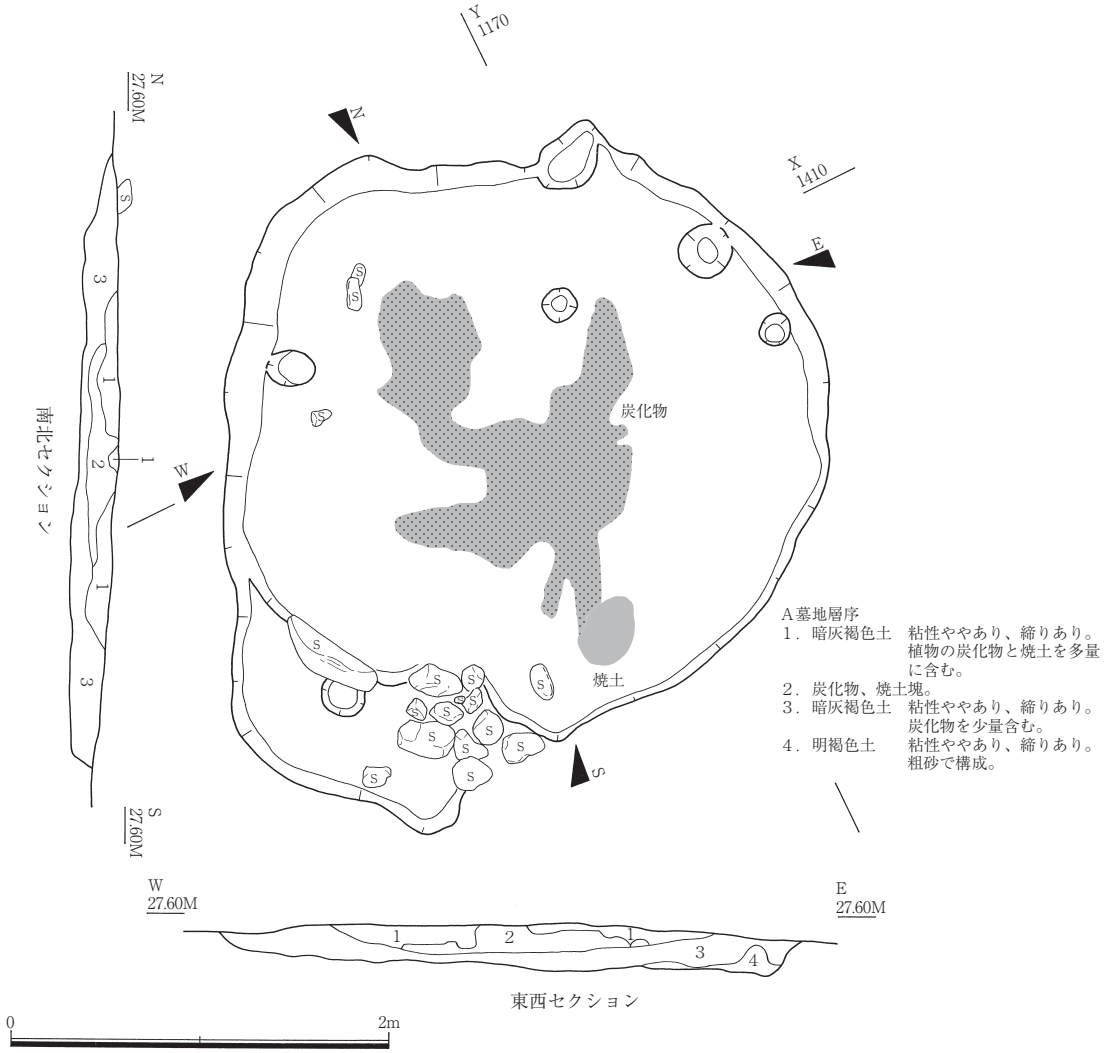


Fig. 32　林田地区Ａ墓地平・断面図（Ｓ：1／40）

か。また、４層からは三足鍋の足部（236）が出土している。

出土遺物は破片細片を含めて28点である。このうち図示したのは234から236の３点である。234・235は土師質土器の坏底部であり、外底面には糸切り痕が残る。

Ａ墓地（Fig. 32）

調査区の北西部に位置する。平面形態は主体部が直径約3.20mの不整円形を呈し、南西側に張出し部分が存在する。この張出し部分には人頭大の円礫と角礫、一辺40cmの平石が立った状態で検出された。遺構の中央部分に炭化物が厚さ最大で約15cmで集中して検出される。この炭化物層は遺構の最終的な充填土（１．暗灰褐色土）がなされる直前、または埋積の最初の段階で成されたものと考えられる。SK２の様相と共通するが下層の２層には炭化物の混入は見られない。

出土遺物には図示できるものは無い。土師器の椀底部が１点、瓦質の鍋が６点、土師質土器の坏口縁３点・底部２点・体部12点が出土している。

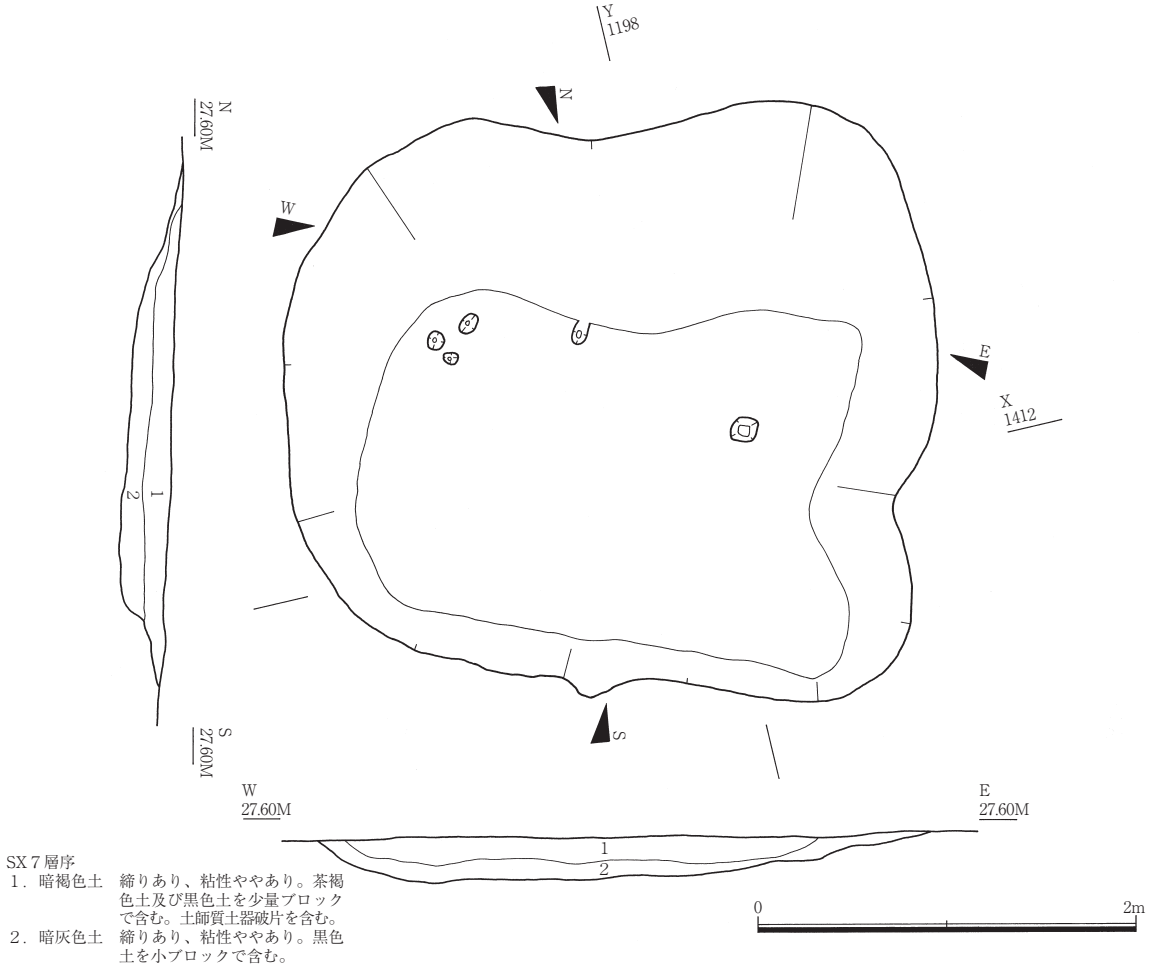


Fig. 33　林田地区SX７平・断面図（Ｓ：１／40）

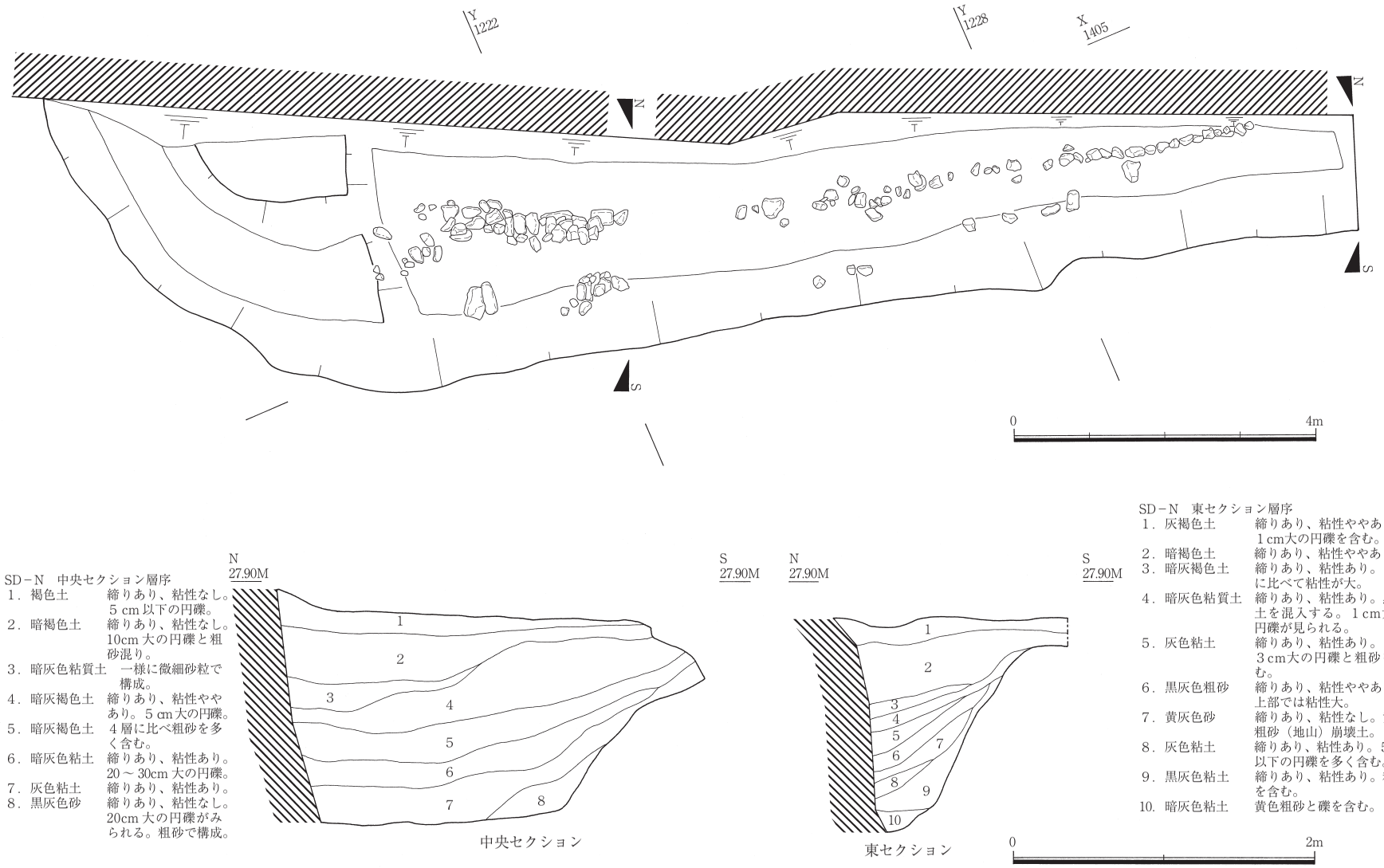
性格不明土坑

SX１（Fig. ２）

調査区の中央部北寄りに位置する。平面形態は不整楕円形である。規模は長径2.04m、短径1.73mであり、検出面からの深さは11cmを測る。SD３を切って存在する。出土遺物は須恵器の甕胴部１点、土師質土器の坏口縁６点・底部２点であり、図示できるものは無い。

SX２（Fig. ２）

調査区の中央部に位置する。平面形態は概ね円形である。規模は直径3.20mであり、検出面からの深さは18cmである。遺構埋土は暗褐色土の単純一層であり、直径30cmの円礫を含んでいる。SX２は西側でＰ245、東側ではSD３を切っている。出土遺物は須恵器胴部２点、土師質土器の坏底部１点・体部８点、磁器の碗体部１点であり、図示できるものは無い。



SD－N　中央セクション層序

1．褐色土　締りあり、粘性なし。５cm以下の円礫。
2．暗褐色土　締りあり、粘性なし。10cm大の円礫と粗砂混り。
3．暗灰色粘質土　一様に微細砂粒で構成。
4．暗灰褐色土　締りあり、粘性ややあり。５cm大の円礫。
5．暗灰褐色土　４層に比べ粗砂を多く含む。
6．暗灰色粘土　締りあり、粘性あり。20～30cm大の円礫。
7．灰色粘土　締りあり、粘性あり。
8．黒灰色砂　締りあり、粘性なし。20cm大の円礫がみられる。粗砂で構成。

SD－N　東セクション層序

1．灰褐色土　締りあり、粘性ややあり。１cm大の円礫を含む。
2．暗褐色土　締りあり、粘性ややあり。
3．暗灰褐色土　締りあり、粘性あり。２層に比べて粘性が大。
4．暗灰色粘質土　締りあり、粘性あり。黒色土を混入する。１cm大の円礫が見られる。
5．灰色粘土　締りあり、粘性あり。２～３cm大の円礫と粗砂を含む。
6．黒灰色粗砂　締りあり、粘性ややあり。上部では粘性大。
7．黄灰色砂　締りあり、粘性なし。黄色粗砂（地山）崩壊土。
8．灰色粘土　締りあり、粘性あり。５cm以下の円礫を多く含む。
9．黒灰色粘土　締りあり、粘性あり。粗砂を含む。
10．暗灰色粘土　黄色粗砂と礫を含む。

Fig. 34　林田地区SD－N平・断面図（S：1／80、1／40）

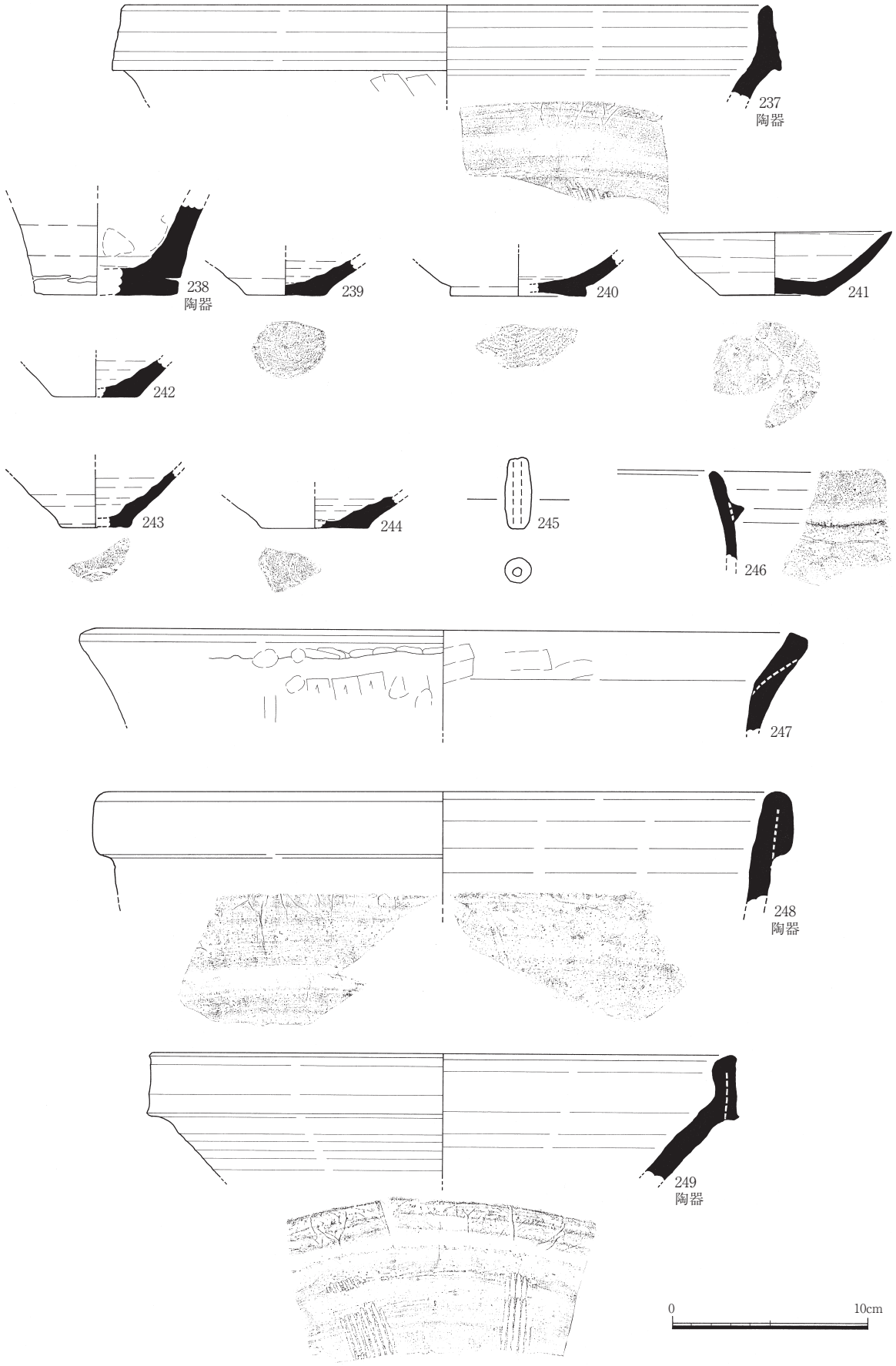


Fig. 35　林田地区SX７～９・11～13、SD－N出土遺物（Ｓ：１／３）

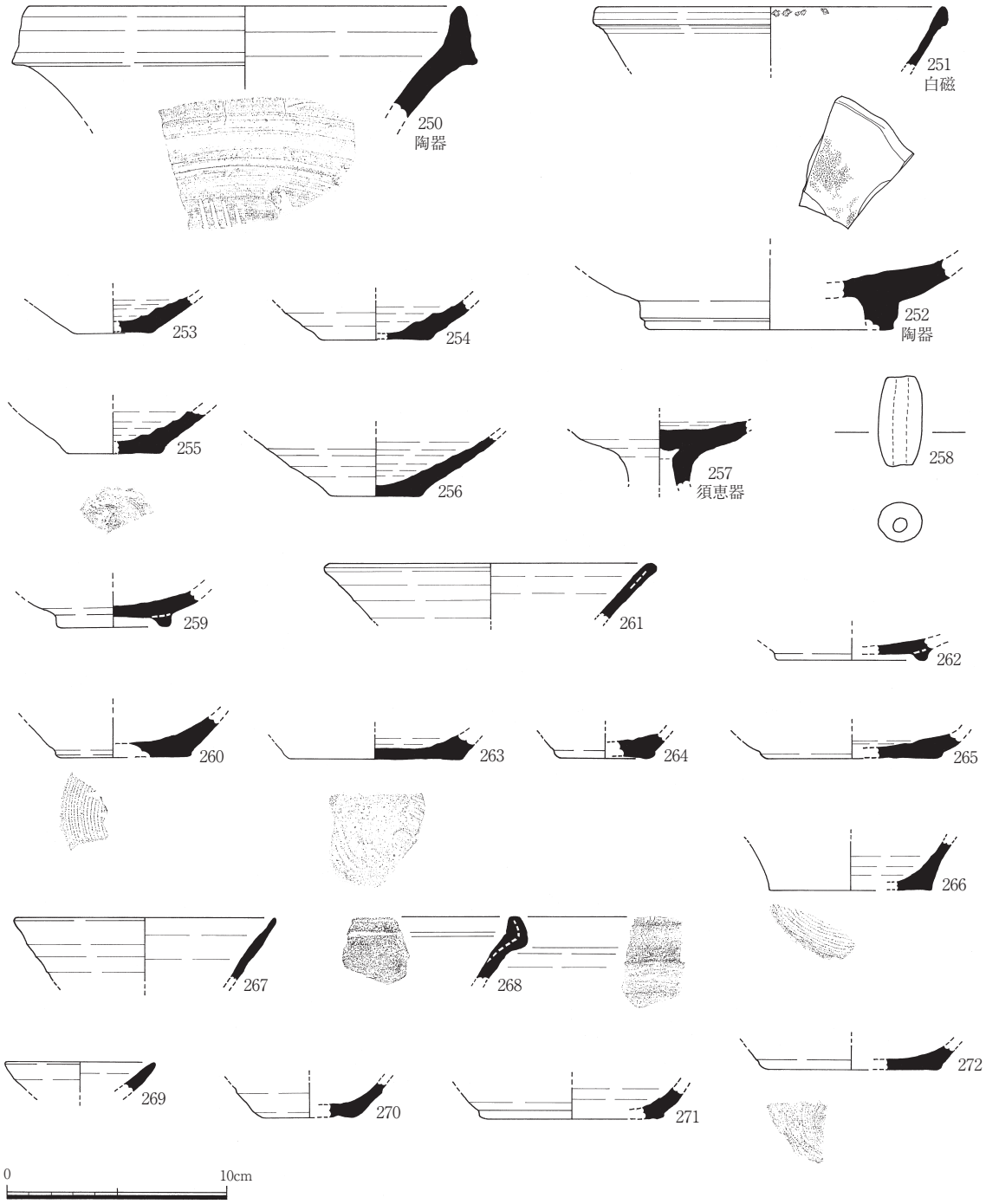


Fig. 36　林田地区SD－N、SD３～６・９、SD－W出土遺物（S：１／３）

SX３（Fig. ２）

調査区の中央部西寄りに位置する。平面形態は円形であり、床面は平らである。規模は直径3.36mであり、検出面からの深さは15cmである。遺構埋土は暗灰褐色土の単純一層である。SX３は西側でSD１を切って存在し、また床面からは前代の柱穴群を確認した。出土遺物は土師器２点、土師質土器の坏体部５点があり、図示できるものは無い。

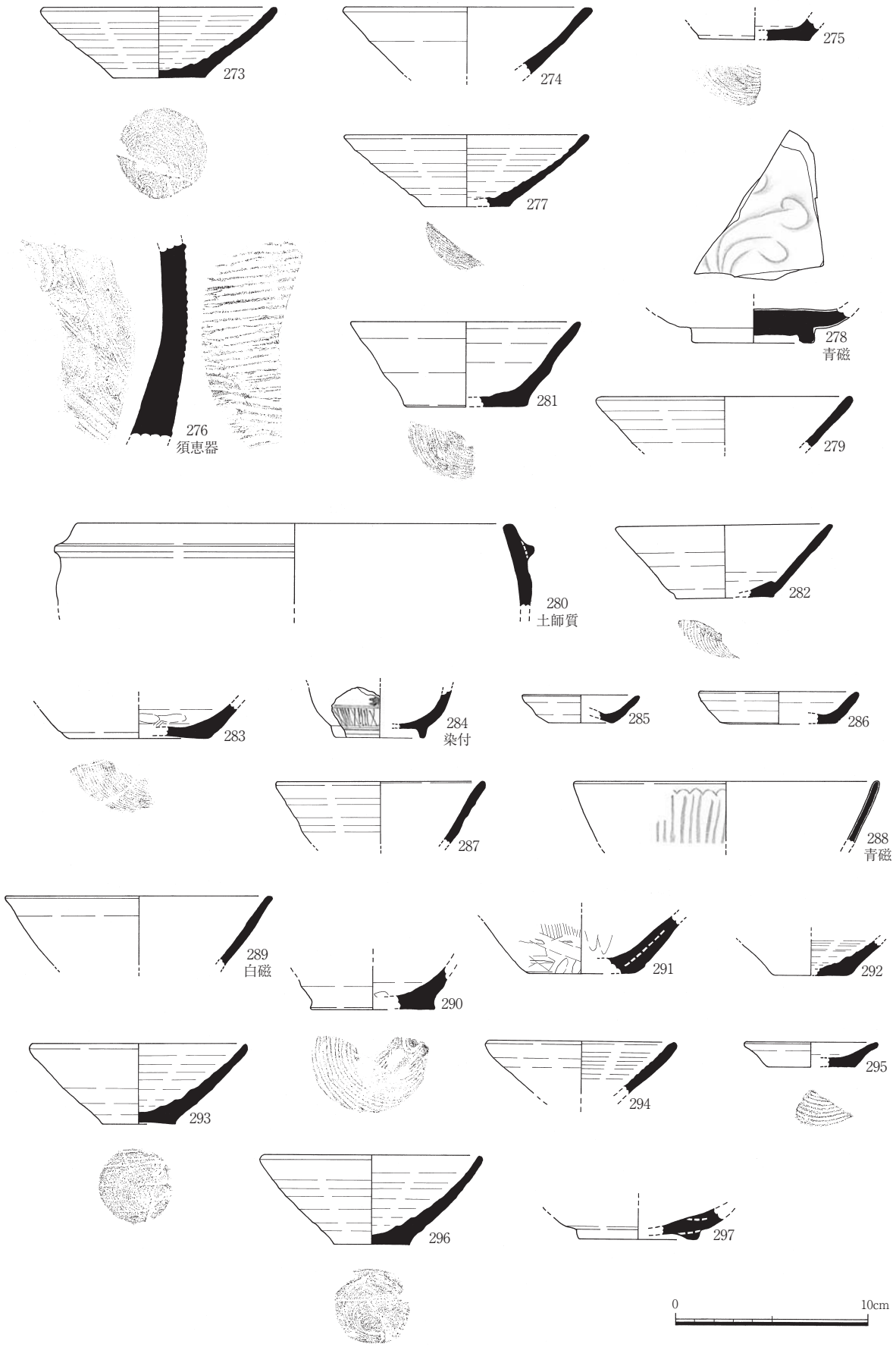


Fig. 37　林田地区Pit出土遺物１（Ｓ：１／３）

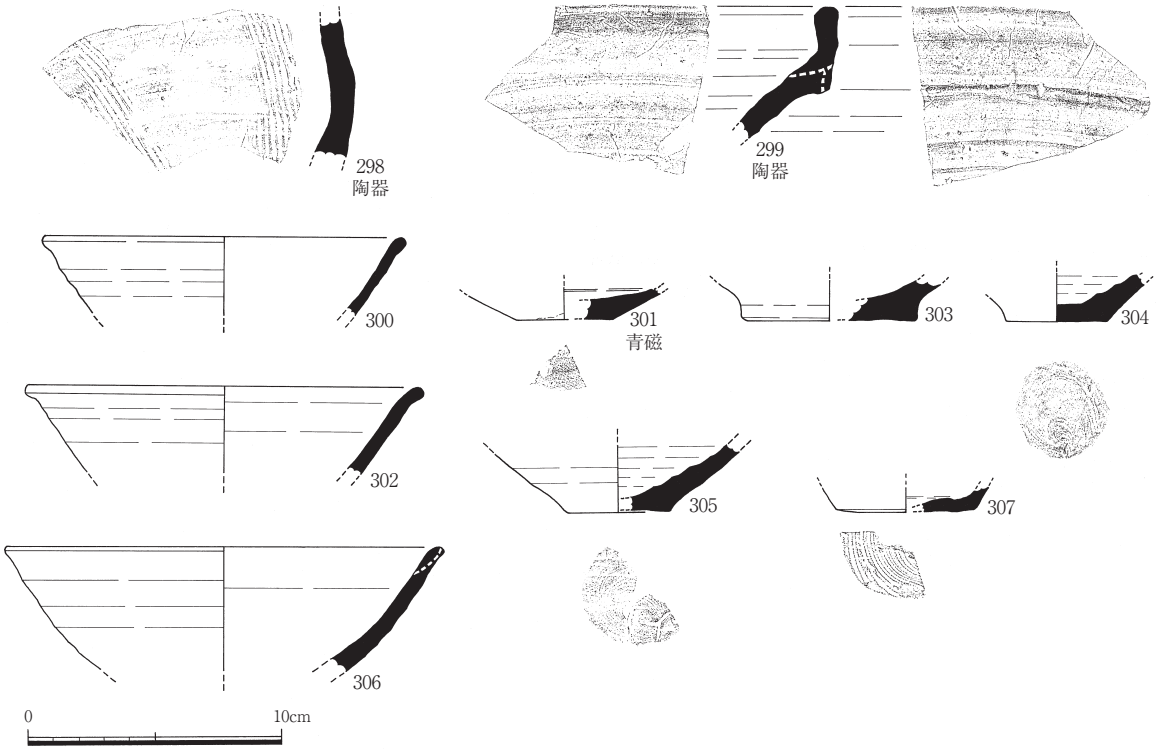


Fig. 38　林田地区Pit出土遺物２（Ｓ：１／３）

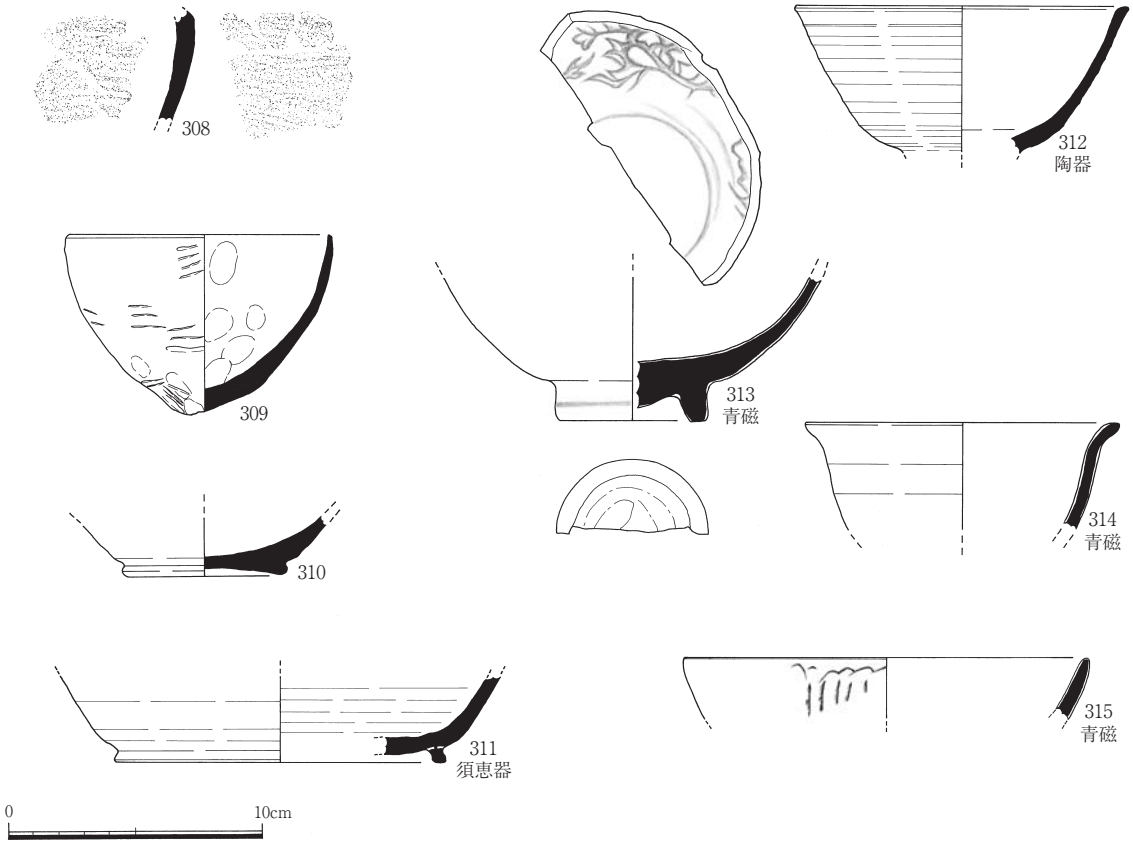


Fig. 39　林田地区包含層出土遺物（Ｓ：１／３）

Fig. 40　林田地区ST１、SD－N包含層出土遺物（S：1／2、1／1）

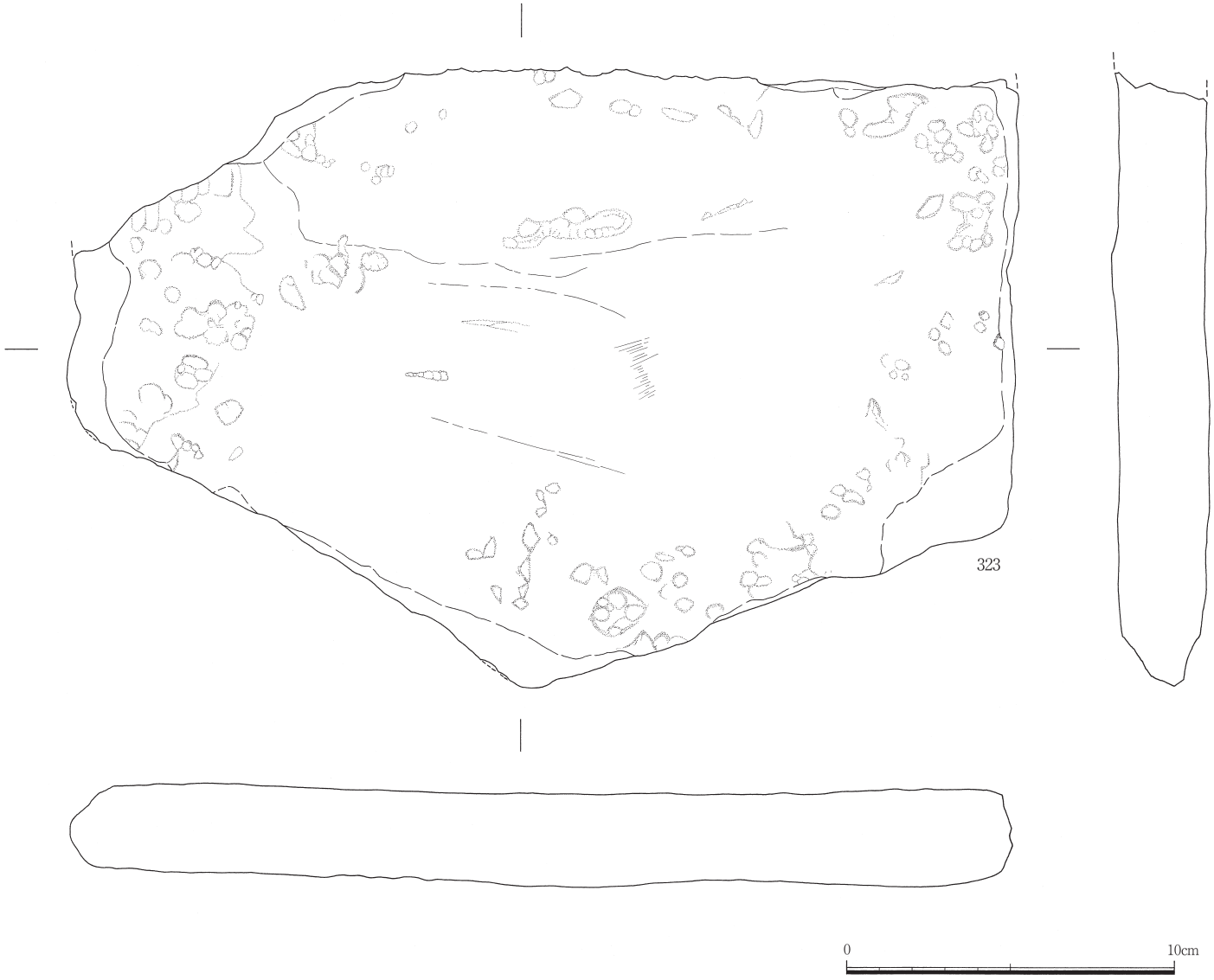


Fig. 41　林田地区ST４出土遺物（Ｓ：１／２）

SX４（Fig. ２）

調査区の中央部に位置する。平面形態は不整円形である。規模は長径2.80m、短径1.90mであり、検出面からの深さは４～８㎝を測る。極浅い遺構である。遺構埋土は暗灰褐色土の単純一層である。痕跡は僅かであったがSX４はSD２に切られるものと判断した。出土遺物は土師器の胴部１点であり、図示できるものでは無い。

SX５（Fig. ２）

調査区の中央部に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径1.74m、短径1.45mであり、検出面からの深さは12㎝を測る。遺構埋土は暗灰褐色土であり、遺構壁は直立する。出土遺物は無い。

SX６（Fig. ２）

調査区の南部に位置する。平面形態は円形である。規模は直径1.96mであり、検出面からの深さは24㎝を測る。遺構埋土は灰褐色土である。SX６はSD８に切られる。出土遺物は無い。

SX７（Fig. 33）

調査区の北部東寄りに位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺3.44m、短辺3.16mであり、検出面からの深さは27㎝を測る。遺構埋土は１．暗褐色土、２．暗灰色土の２層である。SX７の各壁は緩やかな傾斜を有して皿状を成す。出土遺物は土師器５点、須恵器３点、土師質土器34点、瓦質土器３点、白磁１点、陶器１点の47点である。このうち図示したものは237から240の４点である。

SX８（Fig. ２）

調査区の東端に位置する。平面形態は隅丸長方形である。規模は長辺1.96m、短辺1.10mであり、検出面からの深さは37㎝を測る。西端で中世出自と考えられるピットと重複するが、新旧は明らかにすることができない。出土遺物のうち図示したものは土師質土器の坏１点（241）であり、他に坏体部４点がみられる。

SX９（Fig. ２）

調査区の東部北端に位置する。平面形態は楕円形である。規模は長径2.10m、短径1.64mであり、検出面からの深さは17㎝を測る。P368を含む数個のピットを切って存在する。出土遺物は土師質土器の坏底部１点、胴体部２点と床面で検出したピットから出土した坏体部３点である。この中で図示したものは342の坏底部１点である。

SX10（Fig. ２）

調査区の北部に位置する。平面形態は楕円形を呈する。規模は長径2.54m、短径1.87mであり、検出面からの深さは20㎝を測る。遺構埋土は暗灰褐色土である。出土遺物は土師器の甕胴部１点、土師質土器の胴体部３点・坏口縁１点・底部１点、細片５点である。

SX11（Fig. ２）

調査区の東部に位置する。平面形態は不整形である。規模は長軸（南北）2.04m、短軸（東西）1.75mであり、検出面からの深さは15㎝を測る。遺構埋土は中世出自のピット埋土と共通する灰褐色土である。尚、SX11はST２の西側上位を破壊している。出土遺物として図示したものは土師質土器の坏底部２点（243・244）である。この他に土師質土器の胴体部２点と弥生土器の甕胴部１点が出土している。

SX12・13（Fig. 2）

調査区の中央部に位置する。平面形態はSX12が不整方形であり、SX13が楕円形である。規模はSX12が一辺1.82m、検出面からの深さは29㎝を測り、SX13が長径1.60m、短径1.30m、検出面からの深さが９㎝を測る。SX12はその南北で中世出自とされるピットに切られる。出土遺物はSX12が須恵器の甕胴部１点、土師質土器の坏口縁１点・底部２点・細片２点、土錘１点であり、SX13は瓦質土器の鍋口縁１点・胴部３点、土師質土器の胴部４点、弥生土器の甕胴部１点である。このうち図示したものはSX12の土錘１点（245）とSX13の鍋口縁（246）である。

SX14（Fig. 2）

調査区の西端に位置する。平面形態は楕円形であり、一部は調査区西壁に画される。規模は長径3.20m、短径2.90mであり、検出面からの深さは19㎝を測る。出土遺物は土師質土器の坏底部１点・体部１点・細片12点、弥生土器の甕胴部１点であり、このうち図示できるものはない。

SD－N（Fig. 34）

調査区の東部北端に位置する。調査区の北側に存在したとされる久次土居城跡に係わる濠の可能性が高い。確認延長18.5mである。溝の南壁は急な傾斜を持ち、北側は調査区北壁に画されて溝の形態と本来の幅を明らかにすることはできなかった。溝は西端で大きく円弧を成して北側に向かうものと考えられる。濠の南西隅角部分と考えられ、底は浅く平らに仕上げられている。溝の堆積状況は水成によるものであり、停滞的環境が強い。溝内壁に沿って一部で石列が残されており、溝内からは多くの円礫が一列に並んだ状態で出土した。このことから、元々内壁に数段の石積みが施されており、溝の廃棄または機能縮小に伴って溝内へ石積みの円礫を落とし込んだか崩落したものであろう。

出土遺物は土師器２点、土師質土器25点、陶器17点、須恵器2点、白磁１点、磁器２点、土錘１点、叩石１点、砥石１点である。このうち図示したものは247から258の12点である。

表２　林田地区SD計測表

遺構No.	規模			出土遺物	備考
	確認延長(m)	幅(cm)	深さ(cm)		
SD１	54.3	42	15～5	土師質土器細片8点、弥生土器甕胴部２点	耕作に伴うものか部分的に深く掘削されている。
SD２	14.3	42	15		
SD３	68.7	45	24～15	弥生土器甕胴部11点・細片６点、土師器椀底部１点（259）、須恵器甕胴部１点、土師質土器坏胴部１点	部分的に深く掘削される。
SD４	57.9	44	23～16	弥生土器甕胴部61点、須恵器胴体部２点、土師質土器坏底部１点（260）・体部１点	部分的に深く掘削される。
SD５	34.8	43	17	弥生土器胴体部５点、土師器椀底部１点（262）、土師質土器口縁１点（261）・底部６点（263・264）・胴部２点	
SD５－1	6.4	48	16	弥生土器甕胴部12点、鉄製品釘？１点	
SD６	21.4	44	13	土師質土器坏底部１点（265）・体部３点	
SD７	11.8	47	10	弥生土器甕胴部１点、土師質土器細片１点	
SD８	18.2	33	16		
SD９	20.1	42	10	弥生土器甕胴部10点、須恵器鉢口縁１点（268）・胴体部４点、土師器椀体部１点、土師質土器坏口縁２点（267）・底部（266）・胴体部５点	埋土：暗灰褐色土
SD10	22.4	42	33～27		部分的に深く掘削される。
SD－W	10.5	108	8	土師質土器坏口縁７点（269）・底部（272・274・275）・胴体部１点、瓦質土器胴体部４点	埋土：暗灰褐色土

表３　林田地区ピット計測表１

遺構No.	規模			出土遺物	備考
	規模(cm)	深さ(cm)	平面形態		
P13	54×54	26	不整方形	土師質土器坏体部１点	埋土；褐色土
P18	直径28	10	不整円形	土師質土器坏口縁１点	埋土；褐色土
P20	直径34	16	不整円形	土師質土器坏体部１点・細片２点	埋土；褐色土
P96	直径33	12	円形	土師器甕胴部１点	埋土；褐色土
P100	直径23	11	円形	土師質土器坏１点（273）・坏底部１点・細片５点、青磁椀体部１点	埋土；褐色土
P101	35×25	14	楕円形	土師質土器坏体部２点	埋土；褐色土
P105	直径30	17	円形	土師質土器細片３点	埋土；褐色土
P106	直径15	8	円形	土師質土器細片１点	埋土；黒褐色土または黒色土
P136	直径30	－	円形	土師質土器坏口縁１点（274）・口縁１点、土師器甕体部１点	埋土；黒褐色土または黒色土
P137	直径21	－	円形	土師質土器鍋口縁１点	埋土；黒褐色土または黒色土
P139	直径30	－	円形	土師質土器坏体部１点	埋土；赤褐色土
P141	直径25	17	円形	土師質土器坏体部１点	埋土；赤褐色土
P142	直径28	32	円形	土師質土器坏底部１点（275）・体部１点	埋土；赤褐色土
P144	直径35	31	円形	土師質土器皿口縁２点・体部２点	埋土；赤褐色土（黄色砂を含む）
P147	直径30	21	円形	土師質土器坏体部１点	埋土；赤褐色土
P149	直径32	21	円形	土師質土器坏底部１点	埋土；赤褐色土
P155	直径30	35	円形	土師質土器坏体部１点	埋土；赤褐色土（円礫を含む）
P156	直径26	－	円形	土師器甕胴部１点	埋土；黒褐色土または黒色土
P163	直径35	31	円形	土師質土器坏底部２点・細片３点	埋土；赤褐色土
P166	直径29	31	円形	土師質土器坏底部１点・体部８点	埋土；赤褐色土
P182	43×36	19	楕円形	須恵器甕胴部１点（276）	埋土；赤褐色土
P186	直径26	16	円形	土師質土器坏体部１点	埋土；赤褐色土
P190	直径30	－	円形	土師質土器坏底部１点・体部１点	埋土；赤褐色土
P194	直径23	16	円形	土師質土器細片１点	埋土；赤褐色土
P196	直径26	－	円形	土師質土器坏体部１点	埋土；赤褐色土
P197	直径26	21	円形	土師質土器細片４点	埋土；赤褐色土
P198	直径31	20	円形	土師質土器坏口縁４点・底部３点	埋土；赤褐色土
P199	直径20	18	円形	土師質土器坏底部１点・体部１点	埋土；赤褐色土
P201	直径30	14	円形	土師器甕細片１点	埋土；赤褐色土
P204	49×34	15	楕円形	土師質土器坏口縁	埋土；赤褐色土
P221	直径63	－	楕円形	土師質土器坏口縁２点	埋土；赤褐色土
P222	44×41	26	不整方形	鉄製品？	
P223	直径26	9	円形	土師質土器坏１点（277）	
P225	直径32	21	円形	青磁碗底部１点(278)、土師質土器坏口縁１点(279)・体部１点・細片２点	
P226	直径78	23	円形	土師質土器鍋口縁１点（280）・坏口縁１点・体部２点	坏体部のうち１点は還元気味の焼成を受ける。
P227	直径32	20	円形	土師質土器坏口縁１点	
P228	直径24	15	円形	瓦質土器体部１点	椀形？
P230	45×35	20	楕円形	土師質土器細片１点	
P231	直径20	19	円形	土師質土器坏体部１点・細片４点	
P232	直径22	15	円形	土師質土器坏体部１点	
P235	直径27	16	円形	土師質土器細片１点	
P236	直径22	15	円形	土師質土器坏体部１点	
P237	直径38	21	円形	土師質土器坏１点（281）・土師器細片１点	
P239	直径23	19	円形	土師質土器坏体部１点	
P240	42×33	－	楕円形	土師質土器坏１点（282）・口縁１点・体部３点	
P241	直径33	21	円形	土師質土器坏口縁１点・体部１点	
P242	直径23	20	円形	土師質土器細片２点	
P243	直径28	17	円形	土師質土器坏口縁１点・皿体部１点	
P244	直径22	18	円形	土師器椀体部１点	
P245	105×65	11	楕円形	土師質土器坏体部１点・底部１点・細片１点	
P246	73×60	13	楕円形	土師質土器坏口縁３点・体部２点・細片２点	
P247	直径25	16	円形	土師質土器坏体部１点、土師器細片１点	
P248	70×50	31	楕円形	土師質土器皿底部１点・細片３点、土師器胴部１点	
P249	45×30	22	楕円形	弥生土器甕胴部３点・鉢体部１点	
P250	直径57	20	円形	土師器壺胴部１点	P268出土遺物と接合
P251	直径23	－	円形	弥生土器鉢体部１点	埋土；黒褐色土または黒色土
P252	75×60	16	楕円形	土師質土器坏底部１点・体部２点	
P253	77×67	45	楕円形	土師質土器坏底部１点（283）・坏体部２点、須恵器甕胴部２点	
P254	直径25	14	円形	土師質土器坏口縁１点・体部２点	
P255	直径25	12	円形	土師質土器坏体部１点、鉄製品１点	
P256	直径28	18	円形	土師質土器細片４点	
P257	直径32	15	円形	土師質土器細片１点	
P258	直径30	14	円形	磁器染付碗底部１点（284）、土師質土器細片３点	
P259	直径28	13	円形	土師質土器小皿２点(285・286)・皿口縁１点・坏口縁１点・坏底部１点	埋土；黒褐色土または黒色土
P260	直径23	9	円形	土師器椀体部１点	埋土；灰褐色土
P261	直径24	16	円形	土師質土器坏体部１点・砥石１点	
P262	直径24	24	円形	鉄滓	
P263	直径70	28	円形	土師質土器皿口縁１点・坏体部４点・底部１点、土師器甕胴部１点	埋土；灰褐色土
P264	直径65	32	円形	土師質土器坏体部１点・坏底部２点	埋土；黒褐色土または黒色土
P265	直径100	28	円形	土師器胴部１点、土師質土器坏体部２点	

表４　林田地区ピット計測表２

遺構No.	規　模			出土遺物	備　　考
	規模(cm)	深さ(cm)	平面形態		
P266	直径28	21	円形	土師質土器坏口縁１点（287）・坏口縁３点・坏体部９点	
P268	直径32	19	円形	土師器細片１点	
P269	直径99	－	円形	青磁碗口縁１点（288）	
P270	直径13	－	円形	土師質土器坏体部１点	
P271	直径28	21	円形	土師質土器坏体部２点	
P272	直径25	16	円形	土師質土器坏体部２点	
P273	直径55	11	円形	白磁碗口縁１点（289）、土師質土器坏底部１点、土師器細片１点	
P274	直径55	20	円形	土師質土器坏体部１点	
P275	直径27	16	円形	土師質土器坏体部１点	
P276	直径37	18	円形	土師質土器細片１点	
P277	直径27	－	円形	土師質土器坏底部１点（290）・口縁１点・細片２点	
P278	30×24	9	不整円形	土師質土器坏口縁１点	
P279	直径50	14	円形	土師質土器細片１点	
P280	直径30	15	不整円形	土師質土器体部１点	
P281	33×30	15	楕円形	土師器甕頸部１点・細片１点、土師質土器坏体部２点	
P282	直径44	19	円形	土師質土器細片１点	
P283	直径32	19	不整円形	土師質土器坏口縁１点・体部１点	
P284	直径92	23	円形	弥生土器甕胴部１点、土師質土器坏底部１点	
P285	88×60	28	不整楕円形	弥生土器甕底部１点（291）・胴部１点	
P286	46	－	円形	弥生土器壺胴部２点・鉢体部１点	
P287	直径47	20	円形	土師質土器坏体部１点	
P289	48×46	26	不整方形	土師器体部１点、土師質土器坏口縁１点	
P290	直径44	19	円形	土師質土器細片２点	
P291	44×40	16	不整方形	弥生土器甕胴部１点	
P292	70×60	19	不整楕円形	土師質土器細片２点	
P293	70×66	21	不整楕円形	弥生土器胴部１点	
P294	直径76	27	円形	弥生土器甕胴部２点	
P295	40×36	14	楕円形	土師質土器坏口縁１点	
P296	42×40	20	不整方形	土師質土器坏底部１点	
P297	直径34	16	円形	土師質土器坏底部１点（292）	
P299	直径32	－	不整円形	土師質土器細片１点	
P300	116×94	8	楕円形	土師質土器細片１点	
P301	38×31	－	楕円形	土師質土器坏１点（293）	
P302	直径36	－	不整円形	土師質土器細片１点	
P303	36×29	－	楕円形	土師質土器細片１点	
P304	直径45	13	楕円形	土師器細片１点	
P305	直径35	－	円形	土師質土器細片６点	
P306	35×31	－	楕円形	土師質土器細片１点	
P307	直径25	－	円形	土師質土器坏底部１点・細片１点	
P308	直径44	13	円形	土師質土器坏口縁１点	
P309	42×34	－	楕円形	弥生土器甕胴部１点	
P310	36×33	－	楕円形	弥生土器胴部１点	
P311	直径43	－	円形	弥生土器胴部１点	
P312	38×35	－	不整円形	弥生土器細片２点	
P313	32×30	－	不整円形	土師質土器細片１点	
P314	31×27	－	楕円形	土師質土器皿口縁１点	
P315	直径32	－	不整円形	弥生土器甕胴部１点	
P316	直径40	－	円形	土師質土器坏体部２点	
P317	直径32	－	円形	土師質土器胴部３点、弥生土器甕頸部１点	
P318	40×33	－	不整楕円形	土師器細片１点	
P319	43×40	－	不整円形	土師質土器細片３点	
P320	38×33	－	楕円形	土師質土器細片８点、石剥片（チャート）	
P322	直径39	－	円形	弥生土器細片１点、土師質土器坏体部１点、石剥片（泥岩）	
P323	45×40	18	不整長方形	土師質土器坏体部１点	
P324	直径34	11	不整円形	土師質土器細片２点	
P325	95×92	14	不整円形	土師質土器坏体部１点・底部１点	
P326	直径40	－	円形	土師質土器坏底部１点・細片３点	
P327	直径28	－	不整円形	土師質土器坏口縁１点・底部１点	
P328	65×49	－	楕円形	炭化物	
P329	36×36	－	不整円形	土師質土器坏口縁１点（294）・体部１点・底部１点	
P330	39×36	－	楕円形	土師質土器坏口縁１点	
P331	119×117	11	不整方形	石剥片	
P332	直径50	－	円形	土師質土器胴部３点	
P333	直径41	－	不整円形	土師質土器鍋胴部１点	
P334	直径37	－	不整円形	土師質土器坏口縁１点	
P335	30×25	－	楕円形	土師質土器坏体部１点	
P336	44×(32)	－	楕円形	土師質土器小皿１点（295）	
P337	直径41	－	不整円形	土師質土器鍋口縁１点・坏体部２点、鉄製品釘１点	
P338	直径23	－	円形	土師質土器皿体部１点	
P339	134×(80)	27	不整長方形	土師質土器坏体部１点	

表５　林田地区ピット計測表３

遺構No.	規模			出土遺物	備考
	規模(cm)	深さ(cm)	平面形態		
P340	34×28	－	楕円形	土師質土器坏口縁１点	
P342	直径23	－	不整円形	土師質土器体部１点	
P343	32×27	－	楕円形	土師質土器坏口縁３点・体部３点・細片２点	
P344	直径37	－	円形	土師質土器坏体部１点、炭化物	
P345	直径32	－	円形	土錘１点	
P346	55×49	26	不整楕円形	土師質土器坏口縁１点・体部１点	
P347	直径36	－	不整円形	土師質土器坏口縁１点・体部１点	
P348	直径34	－	不整円形	土師質土器坏底部１点	
P349	28×21	－	楕円形	土師質土器坏１点（296）	
P350	43×41	－	不整円形	陶器甕胴部１点	
P351	直径41	16	円形	土師質土器口縁１点	
P352	44×40	14	不整円形	土師質土器胴部１点	
P353	43×43	20	不整方形	弥生土器甕胴部１点・土師質土器底部１点	
P354	直径37	20	円形	土師器碗底部１点（297）	
P355	40×30	18	楕円形	土師器甕口縁１点	
P356	直径38	16	不整円形	土師質土器細片１点	
P357	直径24	15	円形	石剥片（砂岩）	砂岩
P358	直径27	－	円形	土師質土器坏底部１点	
P359	48×44	16	楕円形	土師質土器胴部１点	
P360	直径103	45	不整円形	土師質土器坏底部１点	
P361	直径38	16	楕円形	土師質土器坏口縁１点	
P362	直径32	10	円形	土師器甕胴部１点	
P363	直径42	20	円形	土師質土器坏口縁１点	
P365	直径38	20	円形	土師質土器坏底部１点・体部１点	
P367	45×38	－	楕円形	弥生土器胴部１点	
P368	39×34	－	楕円形	土師質土器細片２点、陶器細片１点（型押し成形）	
P369	37×31	－	楕円形	土師質土器坏体部１点	
P370	43×39	－	楕円形	陶器擂鉢口縁１点（299）・体部１点（298）	
P371	54×26	－	不整長方形	土師質土器坏口縁１点（300）・口縁２点・体部５点	
P372	39×24	－	楕円形	土師器甕胴部１点	
P373	直径38	－	不整円形	土師質土器体部１点	
P374	直径53	－	不整円形	土師質土器坏口縁１点	
P375	57×41	－	楕円形	青磁皿底部１点（301）	
P376	直径36	－	円形	鉄製品１点	
P377	直径35	－	円形	鉄製品釘１点	
P378	直径37	－	円形	土師質土器坏体部１点・細片２点	
P379	74×70	32	不整方形	土師質土器坏口縁１点・体部２点	
P380	34×30	－	楕円形	土師質土器坏口縁１点（302）	
P381	直径40	－	円形	石剥片（チャート）・土師質土器坏底部１点（303）	
P382	30×25	－	楕円形	土師質土器坏口縁１点・体部１点・底部１点	
P383	53×43	－	楕円形	陶器椀口縁１点	
P385	74×65	14	楕円形	円礫	
P387	29×25	－	楕円形	土師質土器坏口縁１点・体部１点	
P388	直径34	－	円形	土師質土器坏底部１点（304）、土師器甕口縁１点	
P389	直径40	－	不整円形	土師質土器坏底部１点（305）	
P390	34×28	－	楕円形	土師質土器坏体部１点	
P391	32×28	－	不整楕円形	土師質土器皿底部１点	
P392	直径36	－	円形	土師質土器坏体部１点	
P393	42×34	－	不整円形	弥生土器甕胴部１点、土師質土器皿口縁１点	
P394	50×40	12	楕円形	土師器甕胴部１点	
P395	50×47	26	不整円形	土師質土器坏体部１点、鉄製品釘先端	
P396	直径33	17	不整円形	土師器甕胴部１点、土師質土器坏口縁１点・体部９点	
P397	41×34	16	楕円形	土師器甕胴部１点	
P398	直径15	7	円形	土師器椀口縁１点（306）、土師質土器坏底部１点（307）	
P399	直径42	22	円形	土師質土器細片６点	
P400	直径23	13	円形	土師質土器坏口縁１点・体部２点・底部１点	
P401	35×32	22	楕円形	土師質土器坏体部１点	
P402	43×36	20	楕円形	土師器甕胴部１点	
P403	直径30	11	円形	土師質土器皿底部１点	
P404	28×(16)	7	円形？	炭化物	
P405	直径80	19	円形	土師質土器体部２点	
P406	53×42	16	円形	炭化物	
P407	直径32	18	円形	土師質土器坏体部１点・底部１点・細片２点	
P408	直径38	17	円形	炭化物	
P409	(38)×32	15	楕円形	土師質土器坏体部２点	
P410	直径40	18	円形	土師質土器坏体部１点・細片２点	
P411	直径40	21	円形	弥生土器甕胴部２点、土師質土器坏口縁１点	
P412	直径36	17	円形	土師質土器坏口縁２点・細片２点	
P413	98×67	20	楕円形	土師器胴部１点	

表６　林田地区遺物観察表１

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
7	1	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸部	20.4	7.5	－	－	内面(口)粗ハケ(胴)ハケのちナデ　外面(口)タタキのちナデ(胴)タタキのちナデ 頸部は弱く屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	にぶい黄 2.5Y6/3	
7	2	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸胴部	10.0	8.2	11.4	－	内面(口)ヨコハケ(胴)左上がりハケ；一部ではヘラ圧痕がハケに先行する　外面(口頸)左上がりハケ(胴)タタキのちナデ；ナデは一部でハケ状工具痕を残す 胴部はやや肩が張る。頸部は彎曲又は弱く屈曲し、口縁は短く外上方に立上がる。口縁は尖り気味に丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 5Y5/1	胴部中位外面に煤付着
7	3	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸部	15.4	8.6	－	－	内面(口)ハケ(胴)左上がりハケのちナデ　外面(口)細ハケ(胴)右上がりタタキ；タタキの幅はやや細目 頸部は弱く屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は狭い外傾する面を成す。器壁を薄く仕上げる。白色系の仕上がり。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	暗灰 N3/	
7	4	ST 1	4	弥生土器	甕	頸部	－	4.8	－	－	内面(頸)ハケ(胴上)ハケのちナデ　外面(頸)ナデ(胴上)タタキのちハケ 口頸部は緩く彎曲する。	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	にぶい黄褐 10YR5/4	
7	5	ST 1	4	弥生土器	甕	口縁	12.6	6.6	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)ハケのちナデ、押圧痕(浅い凹凸面)　外面(口)タタキのちナデ(胴上)タタキ 頸部の屈曲は急で口縁は短く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	灰 5Y5/1	
7	6	ST 1	3、4	弥生土器	甕	口頸部	17.4	9.1	17.3	－	内面(口)ヨコ(斜)ハケ(胴上)左上がり粗ハケ(胴中)右上がりハケ　外面(口)ナデ、押圧痕(胴上)ナデ、押圧痕(胴中)タタキのちナデ 頸部は彎曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面を成し、部分的には外側にやや肥厚する。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 10YR7/4	外面胴部中上位に煤付着
7	7	ST 1	3、4	弥生土器	甕	口頸部	14.4	6.1	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)ハケのちヘラナデ、押圧痕　外面(口)タタキ(胴)タタキ 頸部は彎曲又は弱く屈曲し口縁は外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。器壁は比較的薄く仕上げられる。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 5Y5/1	
7	8	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸部	16.2	9.2	－	－	内面(口)左上がりヨコハケ(胴上)左上がり粗ハケ(胴中)左上がり粗ハケのち右上がりハケ　外面タタキのちナデ？(押圧痕)(胴上)ナデ、頸部下に押圧痕(胴中)タタキ 頸部は弱く屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外側に丸味を持って修め、内側に綾を残す。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	胴部中位外面に煤付着
7	9	ST 1	2、3、4	弥生土器	甕	口頸部	16.6	9.5	－	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)ハケのちナデ　外面(口)タテハケのちナデ(胴上)タタキ 頸部は彎曲し口縁は直線的に外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
7	10	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸胴部	16.4	13.1	17.1	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)ハケのちナデ、押圧痕(胴中)ハケのちナデ　外面(口)タタキのちタテハケ(胴)右上がりタタキ 頸部は弱く屈曲し口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側へやや肥厚する。器壁を薄く仕上げる。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 N4/	胴部外面の一部に煤付着
7	11	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸部	14.0	8.2	－	－	内面(口)ナデ(胴上)押圧痕、ナデ　外面(口)タテハケのちナデ(胴上)ハケ(のちナデ？) 胴部は大きく外へ張出す(球形指向？)頸部は弱く屈曲し口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。器面が薄く剥落する。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y4/1	
8	12	ST 1	4	弥生土器	甕	口縁	－	5.6	－	－	内面(口)ヨコナデ(ヘラナデ)　外面(口)タテハケ 頸部で屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。外面剥落が著しい。大型の甕(№28と同一？)	にぶい橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 5Y5/1	
8	13	ST 1	4	弥生土器	甕	口頸部	28.0	9.0	－	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)ハケのちナデ　外面(口)右上がりタタキ(胴上)右上がりタタキ 頸部は彎曲又は弱く屈曲し口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は直立から外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	にぶい黄 2.5Y6/4	
8	14	ST 1	4	弥生土器	甕	－	8.6	9.3	9.0	0.7	内面(口)左上がり粗ハケ(体)左上がりヘラナデ　外面(口)左上がり粗ハケ(胴上)タタキ(胴中以下)ハケ 底部は貼付による？突出する狭い底部。頸部は弱く屈曲し口縁は短く直線的に外上方に立上がる。口唇は狭い平担面を成す。胎土精緻。胴部上位に最大径を持つ。祭祀遺物。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	
8	15	ST 1	4	弥生土器	甕	－	4.9	8.2	7.2	0.8	内面(胴)ハケのちナデ；滑らかに仕上げる　外面(胴)ナデ 底部はやや突出する狭い平底。胴部は倒卵形？を呈する。口縁は内彎して立上がり口唇は内傾する面を成す。祭祀具？	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR7/6	オリーブ黒 10Y3/1	
8	16	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	5.2	－	0.6	内面(胴)ナデ；ミガキ様の滑らかな仕上げ　外面(胴下)粗ハケ 底部は狭い平底。胎土精緻。祭祀具(№13と近似)。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	
8	17	ST 1	3	弥生土器	甕	口頸部	12.4	6.6	11.3	－	内面(口)ナデ(胴)ナデ　外面(口)タタキ(胴)タタキ 胴部の張出しは少ない。頸部は緩く曲がり口縁は短く直線的に外上方に立上がる。口唇は太く丸く修める。	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	にぶい黄橙 10YR6/4	

表７　林田地区遺物観察表２

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
8	18	ST 1	3	弥生土器	甕	口頸部	20.4	5.3	－	－	内面(口)ヨコ粗ハケ(胴上)左上がりハケ　外面(口)タタキのちナデ(胴上)タタキのちナデ 口頸部は連続的に緩く外反し外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し一部では外側に肥厚する。	黄褐 10YR5/6	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
8	19	ST 1	3	弥生土器	甕	口縁	16.6	3.6	－	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)ナデ　外面(口)タタキのちナデ 頸部の屈曲はやや急で口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	褐灰 10YR4/1	
8	20	ST 1	3	弥生土器	甕	口頸部	19.8	4.7	－	－	内面(口唇)ヘラ圧痕(口)左上がり粗ハケ(胴上)左上がり粗ハケ　外面(口)左上がり粗ハケ(胴)右上がりタタキ 頸部はやや急に曲がる。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面又は丸く修める。	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	
8	21	ST 1	3	弥生土器	甕	口頸部	16.2	7.3	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴)ナデ；明瞭なナデ痕が残る　外面(口頸)タテハケ(胴上)タタキ 口頸部は連続的外反し外上方に立上がる。口唇は内外面の調整により中央が凹んだ面を成す。	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい黄 2.5Y6/4	
8	22	ST 1	3	弥生土器	甕	口縁	21.0	6.0	－	－	内面(口)左上がり粗ハケ(胴上)ハケ　外面(口)左上がりハケ(胴上)タタキ 頸部は屈曲し口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面又は丸く修める。	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	暗灰黄 2.5Y5/2	
8	23	ST 1	3	弥生土器	壺	口頸胴部	21.4	13.0	17.6	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)接合部分に押圧痕が残る(胴)ナデ　外面(胴以上)右上がりタタキ 頸部は弱く屈曲し口縁は緩やかに外反して外上方に立上がる。口唇は外傾から直立する面を成し外側にやや肥厚する。	明赤褐色 5YR5/6	橙 5YR6/6	灰オリーブ 5Y5/2	
8	24	ST 1	3	弥生土器	甕	口縁	28.9	5.5	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴上)ヨコ粗ハケ　外面(口)ヨコナデ、タテハケ 頸部はやや急に屈曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する弱い凸面を成す。口唇の内外に強いヨコナデが入り内側は大きく抉れる。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	暗灰黄 2.5Y5/2	
9	25	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	14.8	3.4	－	－	内面(口)粗ハケ(胴)ハケ　外面(口)タタキのちハケ又はナデ(胴)タタキ 頸部屈曲はやや急。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5Y5/3	灰黄褐 10YR5/2	
9	26	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	15.0	4.8	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)右上がりハケ　外面(口～頸)タテハケ(胴上)細目タタキ 頸部はやや急に屈曲し口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は直立から外傾する面を成し部分的には外側にやや肥厚する。	橙 7.5YR6/6	明褐 7.5YR5/6	にぶい黄褐 10YR4/3	
9	27	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	13.7	4.0	－	－	内面(口)右上がりハケ(胴上)右上がりハケ　外面(口)タタキ(頸)タテヘラナデ(胴上)タタキ 頸部は外面のナデにより彎曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面を成す。	橙 2.5YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/4	黄灰 2.5Y5/1	
9	28	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	16.5	5.7	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)ヘラナデ、押圧痕　外面(口)左上がりタタキ(胴上)左上がりタタキ 頸部は弱く屈曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	灰黄 2.5Y6/2	
9	29	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	12.5	6.2	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)ハケ　外面(口)タタキのちハケ、押圧痕(胴上)タタキのちハケ 頸部は緩く曲がり口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面又は丸く修める。	赤灰 2.5YR4/1	橙 2.5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
9	30	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	18.2	4.7	－	－	内面(口)ヨコ粗ハケ　外面(口)タタキのちナデ(胴上)タタキ 頸部は緩く彎曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	にぶい橙 7.4YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰黄 2.5Y6/2	
9	31	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	13.5	6.7	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)左上がりハケ　外面(口)タタキのちハケ(胴上)タタキのちハケ；タタキ目を多く残す 頸部は緩く曲がり口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は概ね丸く修める。	褐灰 10YR4/1	橙 2.5YR6/6	灰オリーブ 5Y5/2	
9	32	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	18.1	6.0	－	－	内面(口)ヨコハケのちヘラナデ(胴)右上がりハケ　外面(口～頸)タテハケのちナデ(胴上)細いタタキ 胴部は強く外側に張出す(球形指向？)頸部は彎曲し口縁は短く直線的に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。布留式影響下？	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/4	暗灰黄 2.5Y5/2	
9	33	ST 1	1	弥生土器	甕	口頸胴部	14.5	11.4	17.0	－	内面(口)ヨコ又はやや右上がりのハケ(胴上)ハケ　外面(口)タタキのちタテハケ(胴上)タタキ 頸部は緩く屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	明赤褐 5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	にぶい黄褐 10YR5/3	
9	34	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	15.2	22.0	4.2	内面(胴)ナデ(底)ヘラナデ　外面(胴下)タタキのちヘラナデ(胴中)タタキのちハケ；原体はヘラに近似 底部は狭い平底。胴部は中上位で大きく張出す。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	褐灰 7.5YR5/1	
9	35	ST 1	3、4	弥生土器	甕	胴底部	－	12.3	12.8	2.4	内面(底)深い押圧痕(胴)タテ細ハケ　外面(胴中)タタキのちハケ(胴下)ハケ 底部は狭い平底。胴部はやや長胴形。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰オリーブ 5Y5/2	
9	36	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	7.1	－	4.6	内面(胴下)ハケのちヘラナデ　外面(胴下)連続的なタタキ(底)タタキ 底部は狭い平底で端部は明瞭。胴部は内彎して外上方に立上がる。	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y4/1	
10	37	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	11.1	－	2.9	内面ヘラナデ、指頭ナデ　外面(胴)タタキのちハケ(底)斜格子状タタキ目 底部は狭い平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	橙 5YR6/6	灰オリーブ 5Y5/2	

表８　林田地区遺物観察表３

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
10	38	ST 1	2、3、4	弥生土器	甕	胴底部	－	13.6	－	4.0	内面(胴)ハケのちヘラナデ　外面(胴)タタキのちハケ；下位ではハケが卓越する。(底)タタキ 底部は狭い平底で部分的に端は不明瞭。胴部はやや長胴形。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR7/6	灰 5Y5/1	
10	39	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	3.8	－	3.8	内面ナデ、押圧痕　外面ヘラナデ 底部はやや狭い平底。胴部は外上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5YR5/1	
10	40	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	3.8	－	3.7	内面ナデ、押圧痕　外面タタキのちハケ？(底)タタキ 底部は狭い平底。胴部は内彎して外上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい赤褐 5YR6/4	褐灰 10YR5/1	
10	41	ST 1	4	弥生土器	甕	底部	－	3.9	－	3.7	内面(底)ナデ、押圧痕　外面(胴下)左上がりタタキ 底部は狭い平底。	にぶい黄橙 10YR7/4	黒褐 7.5YR3/1	黄灰 2.5Y4/1	外面底部に煤付着
10	42	ST 1	4	弥生土器	甕？	底部	－	3.5	－	1.2	内面(底)指頭ナデ、押圧痕　外面(胴下)タタキのちナデ；丁寧に仕上げる 底部は狭い平坦面。胴部は内彎して立上がる。胴部下位に円形孔？	褐灰 5YR5/1	灰褐 7.5YR5/2	灰黄褐 10YR4/2	
10	43	ST 1	3	弥生土器	甕	底部	－	5.5	－	3.5	内面(底)ハケのちヘラナデ　外面(体下)右上がりタタキ(底)ヘラ圧痕 底部は狭い平底。端部は不明瞭。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	
10	44	ST 1	2、3	弥生土器	甕	底部	－	6.2	－	3.8	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)タタキのちヘラナデ(底)タタキのちハケ？ 底部は狭い平底で凸面を成す。胴部は内彎気味に外上方に立上がる。	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	灰褐 7.5YR5/2	
10	45	ST 1	2、3	弥生土器	甕	底部	－	5.1	－	2.8	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)タタキのちハケ 底部は狭い平底で凸面を成す。胴部は直線的に外上方に立上がる。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	
10	46	ST 1	3	弥生土器	甕	底部	－	7.4	－	3.1	内面(胴下)ハケのちナデ(指頭ナデ？)　外面(胴下)タタキのちハケ 底部は狭い平らな面を成す。胴部は内彎気味に外上方に立上がる。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y5/1	
10	47	ST 1	2	弥生土器	甕	底部	－	3.9	－	2.8	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)ヘラナデ、ヘラ圧痕(底)ヘラ圧痕 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。胴部は内彎気味に外上方に立上がる。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 5Y5/1	
10	48	ST 1	2	弥生土器	甕	底部	－	4.8	－	5.1	内面(底)ナデ　外面(胴下)タタキのちハケ(底)タタキ 底部は平底で緩い凸面を成す。胴部は内彎して外上方へ立上がる。	にぶい橙 2.5YR6/4	にぶい橙 2.5YR6/4	暗灰黄 2.5Y5/2	
11	49	ST 1	4	弥生土器	壺	口頸部	14.4	13.0	－	－	内面(口)ヨコナデ、左上がりヨコハケ(胴上)ナデ、押圧痕　外面(頸～胴上)タテハケ 胴部上位から口頸部は連続的に外反する。口唇は外傾する面を成し内外にやや肥厚する。短頸形。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰黄褐 10YR5/2	
11	50	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	21.8	2.7	－	－	内面(口)ヨコハケ　外面(口唇)ヨコナデ(口)ハケ 口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は断面三角形の粘土帯を外側に貼付し大きく肥厚する。端面は浅い凹凸のある直立する面を成す。	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	黄褐 2.5Y5/3	
11	51	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	18.2	2.6	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ハケのちヨコナデ　外面(口唇)ヨコナデ；特に端面に顕著(口)ハケ 口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は粘土帯の貼付により外側に肥厚し外傾する面を成す。広口形。	橙 5YR7/6	にぶい橙 5YR7/4	灰 10Y6/1	
11	52	ST 1	3、4	弥生土器	壺	口縁	18.8	7.0	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ハケのちヘラミガキ　外面(口唇)ヨコナデ(口)タテ細ハケのちヘラミガキ 口縁は肉厚、外反して外上方に立上がり広がる。口唇は内外にやや肥厚し直立から外傾する凹面を成す。広口形。	明赤褐 5YR5/6	にぶい赤褐 5YR5/4	灰黄褐 10YR5/2	
11	53	ST 1	4	弥生土器	壺	口頸部	17.4	7.7	－	－	内面(口)ハケのちナデ(ヨコナデ)　外面(口)ヨコナデ(頸)細ハケ 頸部は直線的に外上方へ立上がる。弱い屈曲の後口縁はやや外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する凹面を成し上下に肥厚する。広口形。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/3	オリーブ黒 5Y3/2	
11	54	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁部	21.2	5.6	－	－	内面(口)ヘラナデ　外面(口上)ハケのちヨコナデ(口下)ヨコナデ；ヘラ押圧による？凹凸面 口縁は一次側で外反して外斜上方に開き、二次側は内傾して立上がる。口唇は緩く外傾し浅く窪んだ面を成す。複合口縁。	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	明黄褐 2.5Y7/6	
11	55	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	18.7	2.3	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)ナデ 口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。口唇下端を太い筋状に刻む。口縁内面には接合痕が残り肥厚又は二次口縁が立上がる。複合口縁壺。胎土精緻。	灰 5Y4/1	橙 7.5YR7/6	黄灰 2.5Y5/1	
11	56	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	18.2	5.0	－	－	内面(口)ヨコナデ、ナデ　外面(口)タテハケ 口縁は二次側で直線的に内上方に立上がる。口唇は内傾する面を成し外側へ(断面三角形状に)やや肥厚する。複合口縁。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 5Y6/1	
11	57	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	[20.9]	6.0	－	－	内面(口)ヨコヘラナデ　外面(口)ヨコナデ、タテヘラナデ(ヘラミガキ？) 口縁は外反して外上方に立上がる。一次側の端部は直立からやや外傾する面を成し、二次側は内傾して立上がる。器面剥落が著しい。複合口縁。	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	
11	58	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	25.2	3.3	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)タテヘラミガキ　外面(口唇)ヨコナデ(口)タテハケ 口縁は肉厚で大きく外反する。一次側端部は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。端面をヘラ状工具で斜位に刻む。二次口縁は一次側端部から内側にやや離れて立上がる。複合口縁。	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR6/6	灰 7.5Y5/1	

表９　林田地区遺物観察表４

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
11	59	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	23.8	5.0	－	－	内面(口)ヨコナデ　外面(口)タテ粗ハケ 口縁は二次側で直線的に打ち上方に立上がる。口唇は内傾する面を成し、外側は断面三角形状に肥厚する。複合口縁壺。	にぶい黄橙 10YR6/4	褐灰 10YR5/1	黄灰 2.5Y5/1	搬入品？
11	60	ST 1	4	弥生土器	壺	口縁	－	5.3	－	－	内面(口)ヘラミガキ；接合部分に右上がりのハケ(胴上)ハケ　外面(口)ハケのちヨコナデ；ハケ状工具による波状の施紋(胴上)タテハケのちヨコナデ 頸部は弱く屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇下端断面三角形の突帯を貼付し斜格子状にヘラ状工具小口を用いて押圧風に刻む。山陰系？	橙 7.5YR7/6	橙 2.5YR7/6	黄灰 2.5Y6/1	
12	61	ST 1	2、3	弥生土器	壺	口縁	21.4	18.5	－	－	内面(口)ハケのちナデ(胴)ハケ　外面(口)ヨコナデ、ハケ(胴)ハケ 胴部上位で大きく張出す？頸部で屈曲の後、口縁は外反して大きく開く。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。広口形。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	灰 5Y5/1	器面の剥落が激しい。
12	62	ST 1	3	弥生土器	壺	口縁	32.3	3.1	－	－	内面(口)ヨコハケのちヨコナデ、二次口縁との接合部分に粗ハケ　外面(口)ヨコナデ、接合痕が明瞭 口縁は一次側で外反して大きく開く。端部は丸味を持った面を成し、下端をハケ状工具で斜に刻む。内面端部やや内寄りから二次口縁が立上がる。	にぶい橙 2.5YR6/4	にぶい橙 2.5YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	
12	63	ST 1	3	弥生土器	壺	口縁	－	7.0	－	－	内面(口)ヘラナデ、浅い指頭押圧痕　外面剥落が激しい 口縁は一次側で緩やかに外反して外斜上方に立上がる。二次側は一次側端部から内傾して立上がる。複合口縁壺。二次側との接合部分にハケ状の刻み。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR6/2	
12	64	ST 1	3	弥生土器	壺	口縁	20.9	3.8	－	－	内面ハケ？のちヨコナデ　外面左上がりハケのちヨコナデ 口縁は二次側で外反し内上方に立上がる。口唇は内傾する面を成し外側でやや肥厚する。複合口縁。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/3	
12	65	ST 1	3	弥生土器	壺	口縁	－	6.0	－	－	内面(口)ヨコヘラミガキ、浅い凹凸面(胴上)ハケ　外面(口上)タテ粗ハケ(口)左上がり細ハケ、のち一部でヨコヘラナデ 口縁は直線的に外上方に立上がり屈曲して広がる。屈曲部の外面に断面三角形の突帯を貼付しハケ状工具小口により羽状に刻む。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰黄褐 10YR5/2	
12	66	ST 1	2	弥生土器	壺	口縁	16.2	2.7	－	－	内面ナデ　外面(口唇)ヨコナデ(口)タテハケ(のちナデ？) 口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し垂下気味に外側に肥厚する。粗製であり甕？	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 5Y4/1	
12	67	ST 1	2	弥生土器	壺	口縁	24.0	3.2	－	－	内面(口)ヨコハケ　外面(口)ヨコナデ、ハケ 口縁は外反して大きく外斜上方に立上がる。口唇はやや外傾する面を成し外側にやや肥厚する。端面を右上がりの斜位にヘラ小口で刻む。広口形。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	黄灰 2.5YR6/1	
12	68	ST 1	2	弥生土器	甕	口頸部	12.0	5.9	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴)左上がりハケ　外面(口)タテハケ(胴)タタキのちハケ 頸部は彎曲し口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外側に断面三角形の粘土帯を貼付し肥厚する。端部は外傾する面を成す。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	黄褐 2.5Y5/3	
12	69	ST 1	2	弥生土器	壺	口縁	25.2	1.4	－	－	内面(口)ヨコナデ　外面(口)ヨコナデ 口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は緩く凹んだ外傾する面を成し外側に肥厚する。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 5Y4/1	胎土は比較的精緻
12	70	ST 1	2	弥生土器	壺	口縁	25.5	3.8	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ナデ　外面(口唇)ヨコナデ(口)タテハケ 口縁は大きく外反し広がり端部は外傾から直立する面を成す。端部は上方へ肥厚し端面にはヘラによる斜位の刻みを施す。二次口縁は一次側端部からやや内側に寄って貼付され立上がる。複合口縁。	にぶい黄橙 10YR6/3	橙 5YR6/6	灰 7.5Y5/1	
13	71	ST 1	4	弥生土器	壺	底部	－	2.4	－	5.5	内面(底)ナデ　外面(胴下)ハケ 底部はやや突出し広い平底を成す(緩い凸面)。胴部は外上方に立上がる。	橙 7.5YR6/5	橙 5YR6/8	橙 7.5YR6/6	
13	72	ST 1	4	弥生土器	壺	底部	－	3.8	－	6.2	内面(底)ナデ　外面(胴下)粗ハケ 底部はやや広い平底。胴部は外上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	暗灰黄 2.5Y5/2	
13	73	ST 1	4	弥生土器	壺	底部	－	3.2	－	5.9	内面(底)ナデ、押圧痕　外面(胴上)タテハケ(底)ハケ 底部は広い平底で端部はやや丸味を持つ。胴部は外斜上方に開く。	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	にぶい褐 7.5YR5/4	
13	74	ST 1	2、3、4	弥生土器	壺	底部	－	5.6	－	10.0	内面(底)ヘラミガキ(胴下)ナデ　外面(底)タタキ 底部は広い平底。端部はやや不明瞭。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰黄 2.5Y6/2	
13	75	ST 1	3、4	弥生土器	壺	底部	－	9.6	－	9.8	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)ヘラミガキ 底部は広く緩やかな凸面を成す。丸底を強く意識。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6/6	灰白 5Y7/1	
13	76	ST 1	3	弥生土器	壺	底部	－	5.3	－	4.8	内面(底)ハケのちナデ　外面(胴下)ハケ(底)ハケ、ヘラ圧痕 底部はやや狭い平底。胴部は直線的に外斜上方に立上がる。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 7.5Y6/1	
13	77	ST 1	3	弥生土器	壺	底部	－	6.4	－	6.0	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)タタキのちハケ 底部は平底。胴部は内彎して外上方に立上がる。粗製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 5YR7/6	褐灰 10YR5/1	
13	78	ST 1	2	弥生土器	壺	底部	－	4.5	－	5.8	内面(底)ナデ　外面(胴下)タテハケ 底部は平らな面を成す。胴部は外斜上方に立上がる。	明黄褐 10YR7/6	にぶい黄橙 10YR6/4	黄褐 2.5Y5/3	

表10　林田地区遺物観察表５

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
13	79	ST 1	3、4	弥生土器	鉢	口体部	17.0	6.6	－	－	内面ナデ、一部には暗文風のミガキ？　外面(口)ヨコナデ(体)タテハケ 体部から口縁は内彎して上方に立上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。椀形。	橙 10YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰黄 2.5Y6/2	
13	80	ST 1	3、4	弥生土器	鉢	－	19.4	6.7	－	1.7	内面(口)ヨコナデ(体)ハケ　外面(口)ヨコナデ(体)右上がり螺旋状タタキ(底)タタキ 底部は押し潰した狭い平底。体部は内彎気味に外斜上方に立上がる。口縁は直線的に立上がり、口唇は外傾する面を成す。容量大。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N4/	
13	81	ST 1	4	弥生土器	鉢	－	11.5	4.7	－	2.0	内面(体)左上がり螺旋状ハケ　外面(胴下)ヨコヘラナデ(胴上)指頭押圧 底部はやや突出する狭い平底。体部から口縁は内彎して立上がる。口唇は中央の窪んだ概ね外傾する面を成し、一部では丸く修める。精錬された胎土。平形の椀。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	灰 5Y5/1	
13	82	ST 1	4	弥生土器	鉢	－	12.6	7.7	－	2.5	内面ヘラナデ　外面(口～体)タタキのちヘラナデ(体下)タテヘラナデ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。体部から口縁は直線的に外上方へ立ち上がり、口唇は太く丸く修める。平形の椀。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	
13	83	ST 1	4	弥生土器	鉢	－	13.2	8.0	－	2.1	内面(口)ヨコナデ(体)タテヘラナデ　外面(口唇)ヨコナデ(口)右上がりタタキ(体)左上がり螺旋状タタキ 底部は貼付または押し潰した狭い平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁は直立する。口唇は丸くおさめる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	青黒 5BG2/1	外面に大きな黒斑
13	84	ST 1	2、3、4	弥生土器	鉢	－	10.7	7.2	－	1.4	内面(底～口)ナデ、浅い凹凸面　外面(口)ヨコナデ(体)タテハケ(底～体下)ヘラナデ 底部は極く狭い平底。体部から口縁は内彎して立上がる。口唇は内傾する丸味を持った面を成す。椀形。	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	灰 5Y4/1	
13	85	ST 1	4	弥生土器	鉢	口縁	8.0	2.7	－	－	内面(口)左上がりヘラミガキ　外面(口)ヨコナデ、左上がりハケ 口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する平坦面を成し外側に肥厚する。器壁は薄く、丁寧に仕上げる。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	灰 7.5Y4/1	
13	86	ST 1	4	弥生土器	鉢	口縁	－	1.9	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(胴)ナデ　外面(口)ヨコナデ(体)右上がりタタキのち左上がりハケ 口縁は内彎して外斜上方に立上がる。口唇は平らな面を成し内側にやや肥厚する。浅めの鉢形。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	
14	87	ST 1	4	弥生土器	鉢	口縁	2.0	3.9	－	－	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ、押圧痕　外面(口)ヨコナデ(頸)ハケ(体)ナデ 体部は内彎して立上がる。口縁下でやや急に曲がる。口縁は直線的に外斜上方に立上がる口唇は外傾する面を成す。鍔状口縁鉢。	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/8	にぶい褐 7.5YR5/4	
14	88	ST 1	4	弥生土器	鉢	－	10.1	9.2	9.9	1.8	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ(ヘラナデ？)（底)押圧痕　外面(口)ヨコナデ(体上)タタキのちハケ(体下)ハケのち一部でヘラミガキ 狭い平底。体部は内彎して立上がる。口縁下で緩く屈曲したのち口縁は短く外上方に立上がる(鍔状)。器壁を薄く仕上げる。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面に赤色顔料
14	89	ST 1	4	弥生土器	鉢	胴底部	－	7.6	－	1.5	内面(胴)ハケのちナデ　外面(胴)タタキのちナデ 底部は狭い平底。胴部は内彎して立上がる。器壁を薄く仕上げる。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 5YR6/6	灰オリーブ 5Y6/2	底部の一部に煤付着
14	90	ST 1	4	弥生土器	鉢	口縁	7.6	2.6	－	－	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ　外面(口)ヨコナデ(体)ナデ 口縁下の屈曲は緩やかで口縁は短く外上方に立上がり、口唇は細く丸く修める。祭祀具。	にぶい黄褐 10YR5/2	橙 5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
14	91	ST 1	4	弥生土器	鉢	底部	－	2.4	－	1.7	内面ハケ　外面タテハケ 底部は狭い平底。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	
14	92	ST 1	4	弥生土器	鉢	底部	－	3.2	－	2.4	内面(底)ヘラナデ、押圧痕　外面(体下)タテハケ(底)ヘラナデ 底部は狭い平らな面を成す。体部は内彎して外上方に立上がる。底部外面には粘土の盛り上がりが顕著でハケが施される。精製胎土。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	
14	93	ST 1	4	弥生土器	鉢	底部	－	3.8	－	1.5	内面(底)螺旋状？細ハケ　外面(体)タタキのちヘラナデ、器面は凹凸面 底部は貼付による尖底気味の丸底。体部は内彎して立上がる。第Ⅴ様式的。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	黄褐 2.5Y5/3	
14	94	ST 1	4	弥生土器	鉢	底部	－	3.0	－	1.2	内面(底)ヘラナデ　外面(体下)タテハケ 体部は狭い平底で凸面を成す。体部は内彎して立上がる。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	青灰 2.5YR5/1	
14	95	ST 1	4	弥生土器	鉢	底部	－	3.1	－	2.2	内面(底)ハケ　外面(胴下)ナデ 底部は尖底気味、狭い平底で緩い凸面を成す。	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	
14	96	ST 1	2、3	弥生土器	鉢	－	12.6	7.3	－	3.2	内面(底～口)螺旋状ハケ　外面(体)タタキのちヘラナデ、器面に凹凸が多い(底)木葉圧痕 底部はやや突出した狭い平底で凸面を成す。体部から口縁部は内彎気味に立上がる。口唇はやや外傾する面と丸く修める部分が共存する。椀形。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
14	97	ST 1	3	弥生土器	鉢	－	12.1	8.6	－	3.7	内面(口～体)雑然としたヨコ又は左上がりハケ(底)ナデ、押圧痕　外面(口)ナデ、押圧痕(体)タテハケ(体下)押圧痕(底)ヘラナデ？押圧痕？ 底部は円形の粘土盤を貼付し突出した狭い平底。体部から口縁は内彎して立上がる。口唇は丸く修める又は窪んだ内傾する面を成す。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	灰 5Y5/1	

表11　林田地区遺物観察表６

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
14	98	ST１	3	弥生土器	鉢	口縁	8.4	4.9	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴)粗ハケのちタテナデ　外面(口)屈曲部下に及ぶヨコナデ(胴上)タテハケ 胴部は内彎気味に上方に立ち上がり、口縁は緩やかに曲がり短く外上方に立上がる。精錬された胎土で堅く締まる。祭祀具。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	
14	99	ST１	3	弥生土器	鉢	底部	－	3.4	－	2.5	内面(底)指頭ナデ　外面(体下)ヘラナデ？ 底部は突出した狭い平底を成し、粘土が端部に盛り上がる。	黄灰 2.5Y4/1	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	
14	100	ST１	3	弥生土器	鉢	底部	－	3.6	－	1.8	内面(底)タテナデ　外面(胴下)タテヘラナデ、底部端にはヨコナデ 底部は尖り気味の狭い平底で緩い凸面を成す。体部は内彎して外上方に立上がる。器壁は厚いが底部の広さから推すと鉢であろう。	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6	灰 7.5Y4/1	底部外面に黒斑
14	101	ST１	2	弥生土器	鉢	口縁	15.0	4.8	－	－	内面(口)ヨコナデ(体)左上がりヘラナデ　外面(口唇)ヨコナデ(体)タタキのちヘラミガキ 体部から口縁は内彎して内上方に立上がる。口唇は肥厚し太く丸く修める。ボウル形。	灰褐 7.5YR6/2	にぶい褐 7.5YR6/3	褐灰 7.5YR6/1	
14	102	ST１		弥生土器	鉢	－	6.8	5.0	－	1.7	内面(口)左上がりハケ(体)指頭ナデ、押圧痕 外面ナデ、押圧痕 底部は押し潰した狭い平底。体部から口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。粗製胎土。祭祀遺物。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
14	103	ST１	3､4	弥生土器	高坏	坏部	20.0	5.2	－	－	内面(口)左上がりハケのちナデ(底)ハケ　外面(口)ヨコナデ(体)タテハケ(底)ヨコハケ 坏底部の屈曲は明瞭で口縁は緩やかに外反する。口唇は外傾又は直立する面を成し、中央は窪む。第Ⅴ様式的。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	オリーブ灰 2.5GY5/1	
14	104	ST１	2	弥生土器	高坏	坏部	－	3.5	－	－	内面(口)ヨコヘラミガキ　外面(口)ヨコナデ、左上がりハケ、一部にはタテヘラミガキ 坏部は内彎して外上方に立上がる。屈曲後坏部は外反して外上方へ立上がる。胎土は比較的精緻。第Ⅴ様式系。	にぶい橙 7.5YR6/4	灰褐 7.5YR5/2	黄灰 2.5Y5/1	
14	105	ST１	4	弥生土器	高坏	脚部	－	2.3	－	18.8	内面(脚)ナデ(裾)ヨコナデ　外面(脚)ナデのちミガキ(裾)ヨコナデ 裾部は内彎気味に広がる。端部は中央の凹んだ面を成し上方にやや肥厚する。胎土精緻。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	黄灰 2.5Y4/1	外面に赤色顔料が付着する
14	106	ST１	2､4	弥生土器	高坏	裾部	－	2.4	－	19.7	内面(裾)ヨコナデ　外面(裾)ヨコナデ 裾部は緩やかに外反して広がる。端部は上側に(断面三角形状)肥厚し凹面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y5/1	
14	107	ST１	2	弥生土器	高坏	裾部	－	1.8	－	16.2	内面(裾)ハケ　外面(裾)ハケのちミガキ 裾部は「八」の字状に大きく開く。端部は外傾する面を成す。円形の透かし孔が穿たれる。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y4/1	
14	108	ST１	2	弥生土器	高坏	脚部	－	7.9	－	－	内面(脚)ナデ、脚注部には絞り目が残る　外面(脚)ナデ？器面剥落が著しい 坏部と脚部一体造り。脚柱は中空。脚部は緩く屈曲して裾へ広がる。脚頂部凹面付加。	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
14	109	ST１	1	弥生土器	高坏	脚柱部	－	5.0	－	－	内面(脚)ハケ　外面(脚)タテヘラミガキ 脚柱は中空で径はやや大きい。庄内系？	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
14	110	ST１	4	弥生土器	蓋	頂部	－	2.1	－	1.6	内面ヘラナデ(絞り目風のヘラ圧痕)　外面タテヘラミガキ 頂部は狭い平らな面を成す。天井部はやや内彎して開く。内面の仕上げが外面の丁寧さに比べて劣ることから“蓋”とした。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	灰 5Y4/1	
15	111	ST１	4	弥生土器	支脚	支部	全長 7.0	全幅 2.4	全厚 1.0	－	外面押圧痕 角状の支部で断面楕円形を呈する。やや細身で緩く屈曲し先端は尖る。	－	橙 7.5YR7/6	灰 5Y4/1	
15	112	ST１	4		土製 円盤		全長 4.2	全幅 4.2	全厚 0.8	重量 13.2g	内面ナデ、押圧痕　外面ミガキ(ミガキ風ヘラナデ) 緩やかに彎曲する壺の胴部転用品。小型。	灰 N4/	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 5Y4/1	
15	113	ST１	4	弥生土器	杓	－	－	3.6	－	－	内面ヘラナデ　外面ナデ、押圧痕 平面形態は楕円形。器壁は片側(突起状の柄取り付け部分)で厚く先端部分は薄く造られる。	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	緑黒 10GY2/1	
15	114	ST１	1	須恵器	甕	口縁	19.4	3.8	－	－	内面(口)ナデ、粘土接合痕が明瞭　外面(口)回転ナデ 口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y5/1	褐灰 10YR6/1	
15	115	ST１	1	須恵器	甕	口縁	－	3.2	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ 口縁は外反して外上方に立上がる。口唇はやや外傾する面を成す。	黄灰 2.5Y6/1	灰 5Y6/1	オリーブ灰 2.5GY6/1	
15	116	ST１		須恵器	甕	胴部	－	4.7	－	－	内面(口頸)ナデ(胴)同心円紋　外面(胴上)ナデ、自然釉 胴上部は緩く外反して内上方に向い頸部に至る。	灰 5Y5/1	青灰 5PB6/1	灰 N6/	
15	117	ST１	1	須恵器	甕	胴部	全長 7.3	全幅 12.0	全厚 1.4	－	内面(胴)同心円紋　外面(胴)タタキのちハケ 胴部中位の破片と考えられ、緩やかに内湾する。	灰 5Y6/1	黄灰 2.5Y4/1	灰 5Y6/1	
17	118	ST２		弥生土器	甕	－	12.4	20.5	15.0	2.2	内面(口)細ハケのちナデ(胴上)粗ハケのちナデ(胴中以下)ナデ(指頭？)　外面(口)ナデ(胴上)やや右上がりタタキ(胴中)ヨコタタキのちハケ(胴下)右上がりタタキのちハケ；概ねハケで消す(底)タタキ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。胴部はやや長胴形で上位で最大径を持つ。頸部は緩く曲がる又は弱く屈曲し口縁は外反して短く立上がる。口唇は概ね丸く修める。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	
17	119	ST２		弥生土器	甕	口頸胴部	9.4	5.4	9.8	－	内面(口)ヨコナデ(胴)左上がりヘラナデ　外面(口)ヨコナデ；口縁下に至る(胴)左上がりハケ 頸部下の屈曲は弱く口縁は直線的に短く外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。胎土堅緻。器壁は薄く仕上げる。祭祀具。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	
17	120	ST２		弥生土器	甕	口縁	12.6	2.3	－	－	内面(口)左上がりハケ　外面(口)左上がりハケ 頸部は急に屈曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成しやや外側に肥厚する。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 5Y4/1	外面口縁に煤付着

表12　林田地区遺物観察表７

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
17	121	ST２		弥生土器	甕	底部	－	2.5	－	3.2	内面(底)ナデ　外面(胴下)タタキのちハケ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	にぶい褐 7.5YR5/3	
17	122	ST２	1	弥生土器	甕	底部	－	8.7	－	3.2	内面(胴下)強いナデ又はケズリ、ナデ　外面(胴下)タタキのちハケ 底部はやや突出した狭い平底。胴部は内彎して立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 5Y4/1	庄内系？
17	123	ST２		弥生土器	壺	口縁	23.0	5.5	－	－	内面(口)ハケのちヘラミガキ　外面(口)細ハケのちヨコナデ；口唇と頸部にヨコナデ 口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は上方に断面三角形の粘土帯を貼付し肥厚する。下方は垂下する。端面は外傾する広い凹面を成す。端面には櫛描波状紋と竹管による刺突紋が施される。広口形。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄2.5Y6/2	外面にスリップ？
17	124	ST２		弥生土器	壺	口縁	18.8	4.9	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ハケのちヨコナデ　外面(口唇)ヨコナデ(口)粗ハケのちヨコナデ 口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は直立からやや外傾する面を成し外側にやや肥厚する。端面にハケ状工具小口を用いた斜位の押圧刻み(擬縄文)。広口形。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	黄灰 2.5Y4/1	
17	125	ST２		弥生土器	壺	胴部	－	24.6	27.7	－	内面(胴上)押圧痕(接合部)、指頭ナデ(胴下)ヘラナデ、爪圧痕？　外面(胴上)タタキのちハケ、上位でミガキ？(胴下)ハケが卓越、爪圧痕 胴部のやや上寄りで最大径を有する。広口形。灰白色で精緻。	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/3	褐灰 10YR5/1	赤褐色土塗布？
17	126	ST２		弥生土器	鉢	－	11.0	6.2	－	2.5	内面螺旋状ハケ(底)ヘラ圧痕が顕著　外面ナデ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。体部は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は概ね丸く修める。平形。第Ｖ様式系。	橙 2.5YR6/8	橙 7.5YR7/6	黄褐 2.5Y5/3	底部に煤付着
17	127	ST２	1	弥生土器	鉢	底部	－	3.4	－	4.0	内面(底)左上がりハケ(螺旋状？)　外面(胴下)ハケ(底)ハケ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。体部は内彎気味に外上方に立上がる。	にぶい黄褐 10YR5/3	橙 5YR6/6	暗灰黄 2.5Y5/2	甕？
17	128	ST２		弥生土器	台付鉢	－	12.4	6.9	－	4.7	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ(底)螺旋状のヘラ圧痕(台)ナデ、圧痕　外面(口)ヨコナデ(体)タタキのちナデ(台)指頭押圧痕 鉢部はやや器高の低い椀形で短く「八」の字状に開く脚が付く。体部から口縁は連続的に内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。台部端は太く丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	外面に黒斑
17	129	ST２		須恵器	坏	口縁	－	1.8	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ 口縁は直線的に外上方に立上がり、端部で短く外反する。口唇は丸く修める。	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	
20	130	ST３	1	弥生土器	甕	胴部	－	14.2	25.0	－	内面(胴)ハケのちナデ　外面(胴)タタキのちナデ 胴部は内彎して立上がる。頸部はやや急に屈曲する。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	褐灰 10YR5/1	胴部外面に黒斑
20	131	ST３	1	弥生土器	鉢	口体部	18.4	9.6	－	－	内面(口)ヨコヘラナデのちヘラミガキ；ヘラナデは頸部下に及ぶ(胴)放射状ミガキ風ヘラナデ　外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのち一部でタテヘラミガキ 口縁下でやや急に屈曲し口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。鍔付きの鉢。	橙 5YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 5Y4/1	外面体部に黒斑 172-b と同一個体
20	132	ST３	1	弥生土器	鉢	底部	－	5.9	－	3.8	内面放射状ヘラナデ　外面タタキ 底部は貼付底風の僅かに突出した平底で緩やかな凸面を成す。体部は内彎して外上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	172-a と同一個体
21	133	ST４		弥生土器	甕	－	11.5	15.9	11.5	5.1	内面(口)ヨコハケ(胴上)ヨコハケ(胴中～下)左上がりハケのちナデ　外面(口～胴上)タテヘラナデ(胴)左上がりタタキのちヘラナデ(胴下)押圧痕 底部は広い平底で緩く凸面を成す。胴部は内彎して上方に立上がる。頸部は弱い屈曲又は緩く曲がる。口縁は短く直線的に外上方に立上がり、口唇は外傾する面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	
21	134	ST４		弥生土器	甕	口頸部	15.0	5.0	－	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)ナデ　外面(口)右上がりタタキ(頸)左上がりたたき(胴上)水平たたき 頸部は彎曲し口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	外面口縁に煤付着
21	135	ST４	3	弥生土器	甕	口頸胴部	15.7	6.8	－	－	内面(口)左上がりハケのちヨコナデ(胴上)左上がり粗ハケ　外面(口)左上がりハケのちヨコナデ(胴上)タタキ 頸部屈曲はやや急で口縁は緩く外反し外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	灰 5Y5/1	
21	136	ST４	1 2	弥生土器	甕	口頸部	17.5	7.4	－	－	内面(口)ヨコハケ(頸)ナデ？押圧痕(胴上)粗ハケ　外面(口)ナデ、押圧痕(口～頸)タテハケ(胴)右上がりタタキ 頸部はタテハケにより彎曲し口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し部分的に外側に肥厚する。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y5/1	
21	137	ST４	1	弥生土器	甕	口頸胴部	17.0	8.7	－	－	内面(口)ヨコハケ(頸下)押圧痕(胴上)左上がりハケ　外面(口)タテハケ(頸下)タタキのちハケ(胴上)タタキ 頸部は彎曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	にぶい黄橙 10YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 10Y4/1	外面口縁の一部に煤付着
21	138	ST４		弥生土器	甕	頸胴部	－	23.3	18.1	－	内面(口)ヨコナデ(胴)ハケのちナデ、押圧痕 外面(口)ハケのちヨコナデ；ヨコナデは口縁下に至る。(胴上)ハケ(胴下)タタキ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。胴部はやや長胴形。頸部はやや急に屈曲し外上方に向かう。器壁を薄く仕上げる。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	黄灰 2.5Y4/1	外面胴部煤付着

表13　林田地区遺物観察表８

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
21	139	ST４	2	弥生土器	甕	底部	－	2.3	－	1.1	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)ハケ 底部は突出した狭い平底。胴部は内彎して外斜上方に立上がる。祭祀具(ミニチュア土器)？	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR4/3	橙 5YR6/6	
21	140	ST４	2	弥生土器	甕	底部	－	3.7	－	2.2	内面ナデ、押圧痕　外面ハケ 底部は狭い平らな面を成す。胴部は直線的に外上方へ立上がる。	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	
21	141	ST４	1	弥生土器	甕	底部	－	3.1	－	4.0	内面丁寧なナデ　外面細ハケ 底部は狭い平らな面。胴部は直線的に外上方に立上がる。堅緻な造り、鉢か壺の可能性？	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR5/4	
21	142	ST４		弥生土器	甕	底部	－	3.6	－	4.6	内面(底)指頭ナデ、押圧痕　外面(胴下)タタキのち粗ハケ(底)タタキ 底部はやや狭い平底。胴部は直線的に外上方に立上がる。	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR6/6	内外面一部に煤付着
21	143	ST４	2	弥生土器	甕	底部	－	9.5	－	3.6	内面(胴下)指頭ナデ、ヘラナデ　外面(胴下)タタキのちヘラナデ又はハケ、器壁の磨滅が著しい 底部は狭い平底。胴部は内彎して外上方に立上がる。	明黄褐 10YR6/6	にぶい赤褐 5YR5/4	黄灰 2.5Y5/1	
21	144	ST４	1	弥生土器	甕	底部	－	9.5	－	3.4	内面(底)指頭ナデ　外面(胴下)タタキのちハケ(底)ヘラナデ 底部は浅く凹んだ平底。胴部は内傾して外上方に立上がる。	褐灰 10YR5/1	にぶい褐 7.5YR6/3	灰黄褐 10YR4/2	胴部下位から底部に煤付着
22	145	ST４	1	弥生土器	甕	底部	－	6.8	－	4.1	内面(胴下)指頭ナデ　外面(胴下)タタキのちハケ(底)タタキ 底部はやや狭い平底で緩い凸面を成す。胴部は直線的に外上方へ立上がる。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/4	黄灰 2.5Y5/1	外面胴部下位に黒斑
22	146	ST４		弥生土器	甕	底部	－	7.0	－	5.1	内面(底)ナデ　外面(胴下)タタキのちハケ 底部は狭い平底を成す。胴部は内彎して外上方に立上がる。	灰 N4/	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y	底部に黒斑
22	147	ST４		弥生土器	甕	底部	－	7.9	－	4.4	内面(胴下)指頭ナデ(底)指頭ナデ　外面(胴下)ヘラナデ 底部はやや狭い平底で緩い凸面を成す。胴部は直線的に外上方へ立上がる。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y5/1	外面胴部中位と底部に煤付着
22	148	ST４	2	弥生土器	甕	底部	－	11.1	－	6.2	内面指頭ナデ、器面剥落が著しい　外面タタキ 底部はやや狭い平底で緩い凸面を成す。胴部は内彎気味に外上方へ立上がる。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR7/4	灰 7.5Y6/1	
22	149	ST４	2、3	弥生土器	甕	胴部	－	9.2	11.4	－	内面粗ハケのちナデ　外面(胴中)タタキ(胴下)ナデ 胴部は内彎して上方へ立上がる。黄白色。	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄 2.5Y7/2	内外面に煤が付着
22	150	ST４		弥生土器	壺	口頸部	17.8	11.2	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴上)ヨコハケのちナデ　外面(二口)ヨコナデ(一口)タテハケ(胴上)ハケのちヨコナデ 頸部は緩く曲がる。口縁は一次側では外反して外上方に立上がる。二次口縁は一次側端部から内側に離れて直立からやや内傾して上方へ立上がる。口縁外面に細い線刻。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y4/1	
22	151	ST４		弥生土器	壺	口縁	17.6	5.7	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ハケ(頸)ナデ(胴上)ハケ　外面(口唇)ヨコナデ(口～胴上)タテ細ハケ 口頸部は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。広口形。	にぶい褐 7.5YR5/3	橙 5YR6/6	オリーブ黒 10Y3/1	
22	152	ST４	2、3	弥生土器	壺	口縁	18.6	2.9	－	－	内面(口)ヘラナデ　外面(口)ヘラナデ 口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	オリーブ灰 2.5GY6/1	口縁内外面煤付着
22	153	ST４	2、3	弥生土器	壺	口縁	18.4	5.2	－	－	内面(口)ヨコナデ(頸)ヘラナデ　外面(口唇)ヨコナデ(口)ヘラナデ(頸)タテハケのちナデ 頸部は緩やかに外反する。口縁は直線的に外斜上方に広がる。口唇は外傾する面を成す。広口(長頸)形。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR7/4	灰 7.5Y5/1	
22	154	ST４	2	弥生土器	壺	頸部	－	6.2	－	－	内面(口)ハケ(胴上)ナデ、押圧痕　外面(口)ヘラナデ(胴上)ヘラミガキ 頸部で屈曲し口縁は外反して外上方に立上がる。頸部に器面ハケ調整のち粘土帯を貼付し斜格子に刻みを施す。堅緻。	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい赤褐 5YR5/4	黄灰 2.5Y4/1	
22	155	ST４	2	弥生土器	壺	口縁	－	3.0	－	－	内面(口)ヨコナデ　外面(一口)ハケのちヨコナデ(二口)タタキのちハケ 口縁は外上方に立上がり屈曲後内傾し内上方に向かう。複合口縁。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 5YR6/6	灰 5Y5/1	
23	156	ST４	3	弥生土器	壺	胴底部	－	19.5	22.2	5.7	内面(胴)指頭ナデ　外面(胴中)ヨコタタキのちハケ(胴下)左上がりタタキのちハケ 底部は安定した平底。胴部はやや上寄りに最大径を持つ。粗製胎土。	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	明黄褐 10YR7/6	
23	157	ST４	1	弥生土器	壺	頸部	－	2.2	－	－	内面(頸)ナデ　外面(頸)ヘラのちナデ 頸部は緩やかに外反する。外面に断面四角形の突帯を貼付しヘラによる斜位の刻みを施す。黄白色系の精製胎土。	淡黄 2.5Y8/3	浅黄橙 10YR8/3	灰 5Y5/1	
23	158	ST４		弥生土器	壺	胴部	－	4.0	－	－	内面ハケのちナデ　外面ヘラミガキ？ 胴部に円形で扁平な浮紋を貼付する。精製胎土。	黄灰 2.5Y4/1	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y4/1	外面に赤色顔料を塗布？
23	159	ST４	3	弥生土器	壺	底部	－	3.9	－	3.2	内面(底)細ハケのちヘラナデ　外面(胴下)タタキのちハケ(底)タタキ 底部は狭い平らな面を成す。胴部は内彎気味に外斜上方に立上がる。黄色系胎土。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	
23	160	ST４	2	弥生土器	壺	底部	－	3.5	－	3.7	内面(底)ハケ、凹凸面　外面(胴下)タタキのちヘラナデ、一部に細い筋状の圧痕(底)ヘラ圧痕 底部はやや狭い平底で緩い凸面を成す。胴部は直線的に外上方に立上がる。黄褐色を呈し丁寧に仕上げ、胎土は精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 10Y4/1	
23	161	ST４	3	弥生土器	鉢	口縁	20.5	4.2	－	－	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ、ヘラ圧痕　外面タタキのちハケ 体部から口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。口径大の鉢。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	灰 7.5Y5/1	
23	162	ST４		弥生土器	鉢	－	14.1	7.8	－	2.7	内面(口)左上がりハケ(底)左上がりハケ　外面タタキのちナデ又はハケ；低位ではハケが顕著 底部は狭い平底で端部は不明瞭。体部は直線的に外上方に立上がり屈曲後口縁は短く外反する。口唇は外傾する中央の凹んだ面を成す。鍔付の鉢。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3	内面の概ねと外面の一部に煤付着

表14　林田地区遺物観察表９

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
23	163	ST４		弥生土器	鉢	－	12.0	6.5	－	2.9	内面左上がり螺旋状ハケ　外面タタキのちハケ 底部は狭い平らな面を成す。口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める（一部は平らな面）。椀形	にぶい黄褐 10YR5/4	褐灰 10YR4/1	にぶい黄褐 10YR5/3	内面底部に炭化物 外面低位に黒斑
23	164	ST４	2	弥生土器	鉢	口体部	13.9	4.8	－	－	内面(口)ハケ(体)ハケのちナデ、暗文風のタテヘラミガキ？　外面(口)タテハケ(体)タタキのちハケ、タテヘラミガキ 体部は内彎して外上方に立上がる。口縁下で屈曲し口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。鍔付鉢。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	
23	165	ST４	2	弥生土器	鉢	口体部	15.0	7.6	－	－	内面(口)ヨコハケ(体)ヨコヘラナデ；中位では右上がりヘラナデが卓越　外面(口)タテハケ(体)タタキのちタテハケ 体部は内彎して上方に立上がる。口縁下で弱く屈曲し口縁は直線的に外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。鍔付きの鉢。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	暗灰黄 2.5Y5/2	
23	166	ST４	3	弥生土器	鉢	－	9.6	3.8	－	2.3	内面ヨコハケ(螺旋状？)　外面ナデ？凹凸面 底部は貼付状のやや突出した平底。体部から口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面又は丸く修める。平形。	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR4/1	にぶい褐 7.5YR5/4	内外面に煤付着
23	167	ST４	2	弥生土器	鉢	底部	－	2.8	－	3.0	内面(体下)タテヘラミガキ　外面(体下)ハケのちタテヘラミガキ(底)ハケ 底部は平らな面を成す。体部は内彎気味に外斜上方に立上がる。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	橙 5YR6/6	
23	168	ST４		弥生土器	鉢	底部	－	2.8	－	1.5	内面(底)ヘラナデ(螺旋状？)　外面(体下)ヘラミガキ 底部は狭い平底で端部はやや不明瞭。体部は内彎して外上方に立上がる。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 10Y4/1	
23	169	ST４	2	弥生土器	鉢	底部	－	2.1	－	1.7	内面(底)ヘラナデ　外面(体下)ヘラナデ(ヘラミガキ？)（底)ヘラ圧痕 底部は突出した狭い平底で緩い凸面を成す。体部は内彎気味に外上方に立上がる。蓋？	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	オリーブ黒 10Y3/1	
23	170	ST４		弥生土器	鉢	底部	－	4.3	－	2.8	内面(底)ヘラナデ　外面(体下)ナデ、ヘラ圧痕？ 底部は突出し押し潰した狭い平底を成す。緩い凸面。体部は直線的に外上方に立上がる。平形の椀。	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
23	171	ST４	1	弥生土器	鉢	底部	－	2.8	－	2.2	内面(底)ヘラナデ　外面(体下)ナデ、押圧痕 底部はやや突出した狭い平底。体部は内彎して外上方に立上がる。	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面に煤付着
23	172	ST４	3	土師器	高坏	脚部	－	4.0	－	－	内面(脚)ナデ、絞り目　外面(脚)タテヘラミガキ 脚頂部は凹面付加法による。脚柱は中空。脚は外反して「八」の字状に開く。精製胎土。器台？	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 7.5Y5/1	
23	173	ST４		土師器	器台	脚部	－	2.6	－	－	内面(脚)螺旋状ハケ(台)ヘラミガキ　外面(脚)タテヘラミガキ 脚は「八」の字状に大きく開く。径約１cmの円孔を焼成前に穿つ。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	
23	174	ST４		縄文土器	浅鉢	底部	－	1.7	－	5.5	内面(底)ナデ　外面(体)ヘラミガキ(底)ヘラミガキ 底部は平底で緩い凸面を成す。	にぶい黄橙 10YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	
23	175	ST４	3	弥生土器	紡錘車	－	全長 5.3	全幅 5.6	全厚 0.9	重量 18.4g	内面ハケ　外面タタキのちヘラナデ 弥生土器の甕胴部破片を転用する。端部は研摩により滑らかな面を成すが不連続。φ４㎜の円孔を内面より穿つ。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい橙 5YR6/4	灰 5Y4/1	
23	176	ST４	3	弥生土器	紡錘車	－	全長 5.5	全幅 5.8	全厚 0.6	重量 20.8g	内面ハケ　外面タタキのちハケ 弥生後期末の甕転用品。胴部は片を加工する。端部は不連続に加工し研摩単位を残す。中央にφ４㎜の円孔を内外より穿つ。	灰黄褐 10YR5/2	橙 7.5YR6/6	暗オリーブ灰 2.5GY3/1	
25	177	ST５	3	弥生土器	甕	－	11.9	16.1	12.8	2.1	内面(口)ハケのちナデ(胴)タテナデ　外面(口)タタキのちハケ、口唇には指頭押圧痕(胴)タタキのちハケ；下位ではハケが卓越する 底部は狭い平らな面を成す。胴部はやや長胴形で最大径は上位に寄る。頸部は彎曲又は弱く屈曲し口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は中央の凹んだ面を成し外側にやや肥厚する。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	外面胴部下位の一部に黒斑
25	178	ST５	3	弥生土器	甕	口頸部	14.3	7.7	－	－	内面(口)ヨコハケ(胴上)左上がりハケ　外面(口)右上がりタテハケ(胴上)右上がりタタキのちハケ 頸部屈曲はやや急。口縁はやや外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し部分的には外側へのやや肥厚が見られる。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 7.5YR6/6	明褐 7.5YR5/6	
25	179	ST５	3	弥生土器	甕	口頸部	16.8	5.7	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴上)ヘラナデ　外面(口)ヨコナデ(頸)ヘラナデ？(胴上)タタキのちハケ 頸部は緩く屈曲し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面(丸味を持った面)をなし外側にやや肥厚する。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	黒褐 2.5Y3/1	内面口縁の一部に煤付着
25	180	ST５	3	弥生土器	甕	口頸	12.7	2.9	－	－	内面(口)粗ハケのちヨコナデ(胴上)左上がり粗ハケ　外面(口)ハケのちヨコナデ；タテハケは頸部下に至る(胴上)細幅の右上がりタタキ 頸部はやや急に曲がる。口縁は短く直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。庄内・布留系？	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	
25	181	ST５	3	弥生土器	甕	口頸部	11.2	8.1	－	－	内面(口)ヨコナデ(頸)浅い押圧痕(胴上)ハケのちナデ　外面(口)タタキのちヨコナデ(胴上)タタキのちハケ 頸部は彎曲し口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成し外側にやや肥厚する。	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	灰オリーブ 7.5Y5/2	胴部中位の一部に煤付着
25	182	ST５		土師器	甕	口頸部	15.6	3.9	－	－	内面(口)ナデ(胴)ナデ　外面(口)ヨコナデ(頸)ナデ 頸部は調整により彎曲する。口縁はやや外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾から直立する丸味を持った面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	古墳時代前期

表15　林田地区遺物観察表10

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
25	183	ST 5	2、3	弥生土器	甕	口頸部	14.0	7.2	－	－	内面(口)細ハケ(胴上)右上がり細ハケ(ヘラナデ)　外面(口)タテヘラナデ(頸)ナデ(胴上)左上がりタタキ 頸部は彎曲又は弱く屈曲する。口縁は直線的に外上方に立上がり口唇は外傾する面を成す。端部は外側にやや肥厚する。器壁は厚い。布留式の影響？	にぶい橙 5YR7/14	にぶい橙 5YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	
25	184	ST 5	2、3	弥生土器	甕	口頸部	12.2	7.9	－	－	内面(口)ヘラナデ(胴)ヘラナデ　外面(口～胴上)タテハケのちヨコナデ 口頸部は連続して緩やかに外反する。口唇は外傾する面を成す。器壁薄。直口形。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	褐灰 7.5YR4/2	
25	185	ST 5		弥生土器	甕	口縁	12.8	3.0	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ナデ　外面(口唇)ヨコナデ(口)タテ細ハケ 口唇は緩やかに外反して外上方に立上がる。口唇は中央の凹んだ面を成し内外にやや肥厚する。粗製胎土。直口形の壺？	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	明黄褐 10YR6/6	
25	186	ST 5		弥生土器	甕	口縁	13.8	4.4	－	－	内面(口唇)ヘラナデ(口)ハケのちヨコナデ　外面タテハケのちナデ 口頸部は連続的に緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。器壁は薄く仕上げる。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	黄灰 2.5Y5/1	
25	187	ST 5	3	弥生土器	甕	胴部	－	11.5	－	2.0	内面(胴)ナデ、指頭ナデ　外面(胴上)水平方向タタキ(胴中以下)タタキのちナデ 底部は丸底(押し潰した平底)。胴部は下位で最大径を持つ。頸部は弱く屈曲する。長胴形。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰オリーブ 5Y5/2	
25	188	ST 5	2	弥生土器	甕	頸部	－	4.5	－	－	内面(口)左上がりハケ(胴上)左上がりハケ　外面(口～胴上)右上がりタタキ 頸部は弱く屈曲し口縁は緩く外反して外上方に立上がる。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	口縁端の一部に煤付着
25	189	ST 5		弥生土器	甕	底部	－	4.2	－	2.5	内面(胴下)ハケのちヘラナデ(底)押圧痕　外面(胴下)タテハケ 底部は狭い平底。胴部は内彎して外上方に立上がる。	褐灰 10YR6/1	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	
26	190	ST 5	2	弥生土器	甕	底部	－	5.4	－	4.0	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)ヘラナデ(底)タタキ 底部は狭い平底で端部は不明瞭。やや粗製。	暗灰黄 2.5Y5/2	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y4/1	
26	191	ST 5	2	弥生土器	甕	底部	－	3.0	－	3.4	内面(底)ハケのちナデ　外面(胴下)タタキのちナデ、押圧痕(底)ヘラ圧痕 底部は狭い平底(やや凹面)。胴部は内彎気味に外斜上方に立上がる。	橙 5YR6/6	明赤褐 5YR5/8	黄褐 2.5Y5/3	
26	192	ST 5	3	弥生土器	甕	底部	－	3.7	－	3.0	内面(底)ハケ(螺旋状？)　外面(底)タタキ 底部は粘土貼付による丸底。胴部は内彎して外斜上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	明赤褐 2.5YR5/6	にぶい黄橙 10YR6/4	
26	193	ST 5	2、3	弥生土器	甕	底部	－	14.6	－	－	内面(胴下)ハケのちナデ；ヘラ及び指頭ナデ 外面(胴下～底)タタキのちハケ、下位ではハケが卓越する 底部は粘土貼付により厚みを増し丸底に仕上げる。球形胴部。堅緻。	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 5Y5/1	
26	194	ST 5	3	土師器	甕	底部	－	9.6	－	－	内面(底)指頭ナデ、押圧痕　外面(胴下)タタキのちタテハケ 底部はやや突出した平底。胴部は内彎して外上方に立上がる。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	
26	195	ST 5	3	弥生土器	甕	底部	－	3.2	－	2.8	内面(底)ナデ　外面(胴下)螺旋状タタキ 底部は貼付による丸底でやや突出する。胴部は内彎して外斜上方に立上がる(球形指向)。	橙 7.5YR6/8	橙 5YR6/8	灰オリーブ 5Y6/2	
26	196	ST 5	3	弥生土器	甕	底部	－	7.3	－	3.0	内面(胴下)ヘラナデ(底)ヘラナデ　外面(胴下)タタキのちハケ；ハケ状原体によるヘラナデ 底部は平底で凸面を成す。端部はやや不明瞭。胴部は内彎して外上方に立上がる。	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y5/1	外面胴部下位に黒斑
26	197	ST 5	3	弥生土器	壺	口縁	21.8	3.5	－	－	内面(口)ハケのちナデ　外面(口)ハケ 口縁は緩やかに外反して広がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。広口形。黄色系。砂質胎土。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR6/6	灰オリーブ 5Y6/2	
26	198	ST 5	3	弥生土器	壺	口縁	15.1	4.4	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(ヘラナデ)（口)粗ハケ 外面(口唇)ヨコナデ(ヘラナデ)（口)左上がりハケ、タテハケ 口縁は緩く外反、弱く屈曲後内彎して上方に立ち上がる。複合口縁？	橙 7.5YR6/6	橙 5YR6/6	灰オリーブ 7.5Y5/2	内面口縁一部に煤付着
26	199	ST 5	3	弥生土器	壺	口縁	16.2	6.7	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ハケ　外面(口唇)ヨコナデ、押圧痕(口)タテハケ 口縁は外反して外上方に立上がり緩く曲がり上方へ立上がる。口唇は水平な弱い凹面を成す。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR6/8	内外面に煤付着
26	200	ST 5	3	弥生土器	壺	口頸部	15.6	9.5	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴上)ナデ、押圧痕　外面(口)ヨコナデ(頸)タテハケのちヨコナデ(胴上)右上がりタタキのち斜位ハケ 頸部は彎曲し口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は直立から外傾する面を成し上方へやや肥厚する。粗製胎土。広口形。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	明黄褐 10YR7/6	
26	201	ST 5	3	弥生土器	壺	口縁	19.2	6.3	－	－	内面(口)細ハケのちナデ、ヨコヘラミガキ　外面(口)ヨコナデ、タテハケ 頸部は弱く屈曲し口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成すと考えられる。端部は外側に肥厚し垂下する。広口形。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	黄灰 2.5Y5/1	
27	202	ST 5	3	弥生土器	壺	口縁	12.6	6.1	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ヨコナデ？縦位のハケ目？　外面(口唇)ヨコナデ(口)タテハケ 口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は上下に肥厚し外傾する面を成す。直口形	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	灰オリーブ 5Y6/2	
27	203	ST 5	3	弥生土器	壺	口縁	16.0	6.1	－	－	内面(口唇)ヨコナデ(口)ナデ？　外面(口)ハケ、器面の剥落が激しい 口縁は緩やかに外反して外上方に立上がる。口唇は上下に肥厚し外傾する面を成す。直口形。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	明黄褐 10YR6/6	
27	204	ST 5	3	弥生土器	壺	頸部	－	6.0	－	－	内面(口)左上がり細ハケ、タテヘラミガキ(胴上)ナデ；一部はハケ状工具によるヘラナデ 外面(口～胴上)タテ細ハケ 頸部は弱く屈曲し口縁は緩やかに外反して外上方に立上がる。広口形？	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 5Y5/1	

表16　林田地区遺物観察表11

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
27	205	ST 5	2、3	弥生土器	壺	頸部	－	8.3	－	－	内面(口)ヨコハケ　外面(口)左上がりタテハケ(胴)斜位ハケ 頸部はやや急に曲がり口縁は緩く外反して外上方に立上がる。広口形。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 10YR4/1	
27	206	ST 5	3	弥生土器	壺	底部	－	3.7	－	9.0	内面(底)ハケのちヘラナデ　外面(胴下)タタキのちハケ(底)ハケ 底部は安定した平底。胴部は内彎気味に外斜上方に立上がる。	明褐灰 7.5YR7/1	橙 5YR7/6	灰 5Y5/1	
27	207	ST 5	3	弥生土器	壺	底部	－	6.3	－	4.8	内面(胴下)タテハケ(底)ハケのちナデ、押圧痕　外面(胴下)タテ細ハケ 底部はやや広い平底。胴部は内彎気味に外斜上方に立上がる。精製胎土。	褐灰 10YR4/1	にぶい黄橙 10YR6/4	黄灰 2.5Y4/1	
27	208	ST 5	3	弥生土器	壺	底部	－	4.9	－	3.4	内面(胴下～底)ヘラナデ；丁寧なナデで滑らかに仕上げる　外面(胴下)タテ細ハケ(底)細ハケ 底部は端の不明瞭な平底でやや凹面を成す。胴部は内彎して外上方に立上がる。胴部は球形指向。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y5/1	底部から胴部下位の一部に煤付着
27	209	ST 5	3	弥生土器	鉢	－	12.0	7.2	－	2.9	内面左上がり螺旋状ハケ　外面右上がりタタキ 底部は押し潰したやや突出する狭い平底(端部で粘土が盛り上がる)。体部から口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める又は中央の凹んだ面を成す。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	
27	210	ST 5		弥生土器	鉢	口体部	9.6	6.7	－	－	内面(口)左上がり細ハケ(体)細ハケのちナデ 外面タテ粗ハケ 体部から口縁は内彎して内上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。胎土精緻。椀形。	明黄褐 10YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
27	211	ST 5	3	弥生土器	鉢	－	9.8	6.7	－	－	内面ナデ、底部に押圧痕　外面タタキのちナデ、押圧痕 底部はやや尖底。体部は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。椀形。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	
27	212	ST 5	3	弥生土器	鉢	－	18.1	6.4	－	2.6	内面ハケのちヘラナデ、一部に粘土が盛り上がる　外面右上がりタタキのちナデ；螺旋状のタタキ 底部は狭い平底。体部は内彎して外斜上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成し外側にやや肥厚する。容量大。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	
27	213	ST 5		弥生土器	鉢	－	16.0	10.8	－	－	内面ハケのちナデ、底部は螺旋状ハケ目が残る；左上がりハケ　外面押圧痕(底)タタキのちナデ 底部は尖り気味の丸底で内面には平底の意識が強く残る。体部は内彎して外上方に立上がる。口唇は狭い内傾する面又は丸く修める。器壁を薄く仕上げる。容量大。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	内面の一部に赤色顔料付着
27	214	ST 5	3	弥生土器	鉢	－	12.3	6.5	－	3.6	内面ハケのちナデ；底部に螺旋状のハケ　外面タタキのちナデ、押圧痕 底部はやや突出した狭い平底。体部は内彎して外上方に立上がる。口唇は内傾する狭い面を成す。椀形。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	黄灰 2.5Y4/1	
27	215	ST 5		弥生土器	鉢	口縁	14.6	3.6	－	－	内面(口)左上がりハケ　外面(口)ヨコナデ(体)右上がりタタキのちナデ 口縁は内彎して上方へ立上がる。口唇は丸く修める。椀形。	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰オリーブ 5Y4/2	
27	216	ST 5	3	弥生土器	鉢	口縁	16.6	4.4	－	－	内面(口)左上がりハケ　外面(口)タタキのちナデ 口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。ボウル形。	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 5Y4/1	
28	217	ST 5	3	弥生土器	鉢	口縁	20.0	3.3	－	－	内面(口)ヨコナデ；屈曲部以下に及ぶ(胴)ハケのちナデ　外面(口)ヨコナデ、押圧痕(胴)タタキ 口縁下は彎曲して口縁は短く外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。体部はやや膨らみを持つ、鍔付の鉢。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	オリーブ黒 5Y3/1	
28	218	ST 5	3	弥生土器	鉢	口縁	22.2	5.6	－	－	内面(頸)押圧痕(胴)ヘラナデ　外面(頸)押圧痕、ヨコナデ(胴)タタキ(のちナデ) 口縁下で彎曲し口縁は外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。器壁を薄く仕上げる。鍔付の鉢。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	灰 5Y4/1	
28	219	ST 5	3	弥生土器	鉢	底部	－	2.9	－	3.6	内面(底)ハケ　外面(体下)ナデ(底)ヘラ圧痕 底部は平底で丸味を持った凸面を成す。	明赤褐 2.5YR5/6	明赤褐 2.5YR5/6	灰褐 7.5YR4/2	
28	220	ST 5	2	弥生土器	鉢	底部	3.0	4.0	－	－	内面(底)細ハケ　外面(胴下)左上がりタタキ 底部は狭い平底。端部に粘土が盛り上がる。体部は内彎して外上方に立上がる。砂質胎土。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	橙 7.5YR6/4	
28	221	ST 5		弥生土器	鉢	底部	－	4.1	－	4.1	内面(底)ヘラナデ　外面(胴下)タタキ？のちナデ(底)圧痕 底部は狭い平らな面を成し端部には粘土が盛り上がる。胴部は直線的に外上方へ立上がる。底部中央にφ４㎜の円孔を内側？より穿つ。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 5Y4/1	
28	222	ST 5		弥生土器	片口	口縁	－	5.0	－	－	内面ハケのちナデ　外面ナデ 椀形の鉢、口縁の一部を変形させて片口状に加工？	灰黄褐 10YR4/2	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	
31	223	SK 1		弥生土器	壺	口頸部	13.5	6.8	－	－	内面(口)ヨコナデ(胴上)右上がりハケ、部分的にのちナデ　外面(口)タテハケのちヨコナデ(頸～胴上)ヨコナデ(胴上)タタキのちタテハケ、中位でヨコハケ 胴部上位で弱く屈曲。頸部から口縁部は連続的に外反する。口唇はほぼ直立する面を成し外側にやや肥厚する。器壁薄。布留系？	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y5/1	
31	224	SK 1		弥生土器	甕	口頸部	17.8	12.2	－	－	内面(口)ハケのちヨコナデ(胴)ナデ　外面(口)タタキ(胴)タタキ 頸部は彎曲し口縁は緩く外反する。口唇はやや中央の窪んだ外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。	黄橙 7.5YR7/8	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 10YR8/4	口唇の一部に煤付着

表17　林田地区遺物観察表12

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
31	225	SK 1		弥生土器	鉢	－	10.2	4.9	－	2.5	内面(体)ヨコハケ(底)（螺旋状？)ハケ　外面(体)ナデ、押圧痕 押し潰した平底で貼付風の痕跡を残す。体部から口縁は連続的に外上方へ内彎気味に立上がる。口唇は部分的には丸く修め、中央の窪んだ面も残す。	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR6/6	灰 5Y4/1	
31	226	SK 1		弥生土器	鉢	－	13.2	6.9	－	－	内面(体)タテヘラミガキ　外面(体上)ミガキ風のヘラナデ(体下)ハケ 底部は貼付底風で尖底。体部は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持ったやや外傾する面を成す。	にぶい黄橙 10YR6/3	明黄褐 10YR6/6	黄褐 2.5Y5/3	
31	227	SK 1		弥生土器	鉢	－	18.0	6.6	－	－	内面(口)ヨコナデ(体)螺旋状ハケ(底)ハケのちナデ、押圧痕　外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、下位ではヘラナデが顕著 底部は貼付痕跡のある丸底。体部から口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	灰黄褐 10YR5/2	外面帯状に煤付着 黒斑
31	228	SK 1		弥生土器	鉢	－	22.0	7.8	－	－	内面(口)ヨコナデ(体上)（螺旋状？)ハケ(底)ナデ、ヘラナデ　外面(体)ナデ、押圧痕 底部は貼付底風の丸底でやや尖り気味。体部は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	体部外面の剥落が激しい
31	229	SK 1		弥生土器	鉢	口縁	－	4.3	－	－	内面(口)ヨコナデ(体)左上がりハケ　外面剥落が激しい 広口の鉢。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側へやや肥厚する。	灰褐 7.5YR4/2	黒褐 10YR3/1	灰褐 7.5YR4/2	
31	230	SK 1		弥生土器	鉢	－	21.0	10.9	－	－	内面(口)ヨコナデ(体上)左上がりハケ(底)押圧痕　外面(口)ナデ(体)ナデ、押圧痕 底部は貼付底風の不明瞭な平底。体部は内彎して外上方に立ち上がる。口縁は屈曲して鍔状を成す。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。	明赤褐 2.5YR5/6	橙 2.5YR6/6	赤 10R5/6	
31	231	SK 1		弥生土器	鉢	底部	－	5.6	－	2.0	内面(体)（螺旋状？)ハケ(底)ナデ　外面(体)ヘラナデ、凹凸面 底部は押し潰した平底。体部は内彎して立上がる。器壁を薄く仕上げる。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰オリーブ 5Y4/2	底部外面黒斑
31	232	SK 1		弥生土器	鉢	底部	－	3.8	－	2.8	内面(底)ハケ(螺旋状？)　外面(体下)ナデ 底部はやや突出した狭い平底で緩い凸面を成す。体部は直線的に外上方へ立上がる。椀形。	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	にぶい黄褐 10YR5/3	
31	233	SK 1		弥生土器	甕	胴部	－	12.2	－	－	内面(胴)ナデ　外面(胴)タタキのちタテハケ 胴部は内彎して立上がる。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	外面胴部中位に黒斑
31	234	SK 2		土師質土器	坏	底部	－	2.4	－	7.4	内面(体)ロクロ目　外面(体)ナデ(底)糸切り痕 底部は平底で凹面を成す。体部は外上方に立上がる。胎土精緻。	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	
31	235	SK 2		土師質土器	小皿	底部	－	1.3	－	7.4	内面(底)ロクロ目　外面(底)糸切り痕 平底。内面は赤色系の発色。坏？	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/3	
31	236	SK 2	1	瓦質土器	三足鍋	脚	全長 9.8	全幅 3.0	全厚 2.1	－	脚表面を面取りする。 脚柱は内彎して内上方へ立上がる。接合部は緩く内彎する面を成し粘土帯で周囲から補強して圧着する。	－	灰白 5Y8/2	灰白 5Y7/2	
35	237	SX 7	1	陶器	擂鉢	口縁	33.0	4.8	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ、凹線が廻る(体)ヘラ圧痕 体部は外反して外上方に立上がり口縁は屈曲後外側に垂下して肥厚し短く内上方に立上がる。	暗赤褐 2.5YR3/4	にぶい赤褐 2.5YR5/4	灰白 N7/	
35	238	SX 7		陶器	鉢	底部	－	4.7	－	7.3	内面(胴下)ヘラナデ　外面ヨコナデ 底部は平底(粘土塊が付着する)。体部は緩やかに外反して外上方に立上がる。底部に側面から大きな罅が入る。	にぶい橙 5YR7/3	にぶい橙 5YR6/3	灰 5YR6/3	
35	239	SX 7		土師質土器	坏	底部	－	1.8	－	4.1	内面ロクロ目　外面ナデ(底)糸切り痕 平底。体部は緩く外反して外斜上方に立上がる。ロクロは右回転。	にぶい橙 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/3	
35	240	SX 7	1	土師質土器	坏	底部	－	2.2	－	7.0	内面ナデ　外面ナデ(底)糸切り痕 底部は平底で凹面を成しやや突出する。体部は内彎して外斜上方に立上がる。	淡黄 2.5Y8/2	暗灰黄 2.5Y5/2	淡黄 2.5Y8/2	
35	241	SX 8		土師質土器	坏	－	12.0	3.3	－	5.6	内面(体)回転ナデ(底)ナデ　外面(体)回転ナデ(底)糸切り痕 底部は平底でやや凹面を成す。体部から口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。精製胎土。ロクロは右回転。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
35	242	SX 9		土師質土器	坏	底部	－	1.9	－	4.2	内面(体)ロクロ目　外面ナデ 平底。体部は緩く外反して外上方に立上がる。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	
35	243	SX		土師質土器	坏	底部	－	2.9	－	3.4	内面ロクロ目　外面ロクロ目のちナデ 底部はやや突出する平底で緩い凸面を成す。体部はやや内彎して外上方へ立上がる。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
35	244	SX		土師質土器	坏	底部	－	1.6	－	5.5	内面ロクロ目　外面ナデ 平底。体部は始め外反して外上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
35	245	SX12			土錘	－	全長 3.6	全幅 1.4	－	重量 5.5g	外面ナデ 両端部は平らな面を成す。φ5×4.5㎜の楕円孔を穿つ。	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	
35	246	SX13		瓦質土器	鍋	口縁	－	4.5	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)ナデ 口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。口縁下に断面三角形の突帯を貼付する。突帯の上位はヘラナデにより接合痕を消す。	灰 N5/	灰 N5/	灰白 10Y8/1	外面の一部に煤付着
35	247	SDN		土師器	甕	口縁	35.6	5.1	－	－	内面(口)ヘラナデ　外面(口唇下)接合部の上位に押圧痕が残る(口)タテ方向のケズリ風ナデ 口縁は緩やかに外反し外上方に立上がる(内面に稜を残す)。口唇はやや肥厚し外傾する丸味を持った面を成す。鍋。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄褐 10YR5/3	灰白 5Y7/1	
35	248	SDN		陶器	甕	口縁	34.6	18.0	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ 口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は粘土帯を折り返すことで外側に肥厚する。端部は太く丸く仕上げる。	灰赤 10R5/2	灰赤 10R5/2	灰 5 Y6/1	

表18　林田地区遺物観察表13

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
35	249	SDN		陶器	擂鉢	口縁	29.8	6.4	－	－	内面回転ナデ、一部では摺目を施したのちにナデ　外面回転ナデ 体部は直線的に外上方に立上がる。口縁は屈曲ののちほぼ直立して立上がる。粘土体を折り返し又は貼付することで外側に肥厚する。端部は内傾する面を成す。摺目は４・８条を１単位とする。	橙 7.5YR7/6	橙 2.5YR6/6	橙 7.5YR7/6	
36	250	SDN		陶器	擂鉢	口縁	19.5	5.1	－	－	内面(口)回転ナデ　外面(口)回転ナデ 体部は外反して外上方に立上がり口縁は屈曲後やや肥厚し内上方へ短く立上がる。端部は丸く修める。４条１単位の摺目。彎曲した破片で口径に難。	灰 N6/	灰白 N7/	灰 5Y5/1	
36	251	SDN		白磁	碗	口縁	15.8	2.7	－	－	内面ナデ；口縁下に釉薬が厚く垂れ下がる。砂が熔着する。 外面回転ナデ又はケズリが残る。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は断面三角形を成して外側に肥厚する。	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y8/1	
36	252	SDN		陶器	鉢	底部	－	3.2	－	11.4	内面(底)緑釉、窯壁？の一部か砂目？が付着 外面露胎 高台は概ね断面台形に内側をやや深く削り出す。畳付けの外側が段を成して抉れる。	灰オリーブ 5Y4/2	灰赤 2.5YR4/2	黄灰 2.5Y6/1	
36	253	SDN		土師質土器	坏	底部	－	1.6	－	3.5	内面ロクロ目　外面ナデ 底部は平底で緩い凹面を成す。体部はやや外反して外上方へ立上がる。胎土精製。	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	
36	254	SDN		土師質土器	坏	底部	－	1.8	－	4.9	内面ロクロ目　外面ロクロ目のちナデ 平底。体部は内彎気味に外斜上方に立上がる。精製胎土。ロクロは右回転。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	
36	255	SDN		土師質土器	坏	底部	－	1.9	－	4.2	内面ロクロ目　外面ナデ(底)糸切り痕 平底。体部は外反のち内彎して外上方に立上がる。精製胎土。ロクロは右回転。	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	
36	256	SDN		土師質土器	坏	底部	－	2.7	－	4.1	内面ロクロ目　外面ロクロ目のちナデ 平底。体部は外反のち内彎気味に立上がる。精製胎土。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	赤色顔料が一部に残る
36	257	SDN		須恵器	高坏	坏底部	－	3.0	－	－	内面(坏)ナデ　(脚)ナデ、絞り目　外面回転ナデ 坏底部から脚は外反して下方に向かう。	灰 N6/	灰 N5/	灰白 N7/	６世紀後半から７世紀前半
36	258	SDN			土錘		全長 4.2	全幅 2.0	全厚 1.8	重量 12.5g	ナデ？ やや幅広の胴部。両端部は平坦面を成しφ６㎜の円孔を穿つ。精製胎土。	－	橙 7.5YR6/6	－	
36	259	SD３		土師器	椀	底部	－	1.6	－	5.2	内面(底)ナデ？　外面ナデ 底部は平底で断面台形の高台を貼付する。体部は内彎して外上方に立上がる。	浅黄橙 7.5YR8/6	黄橙 10YR8/6	浅黄橙 10YR8/6	
36	260	SD４		土師質土器	坏	底部	－	1.8	－	6.2	内面ナデ(回転ナデ)　外面(体)回転ナデ(底)糸切り痕 平底。体部は内彎気味に外上方に立上がる。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	灰白 2.5Y8/2	
36	261	SD５		土師質土器	坏	口縁	14.6	2.6	－	－	内面ナデ(回転ナデ)　外面ロクロ目 口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。黄白色系胎土。	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	
36	262	SD５		土師器	皿	底部	－	1.0	－	6.8	内面(底)ナデ？　外面ナデ？ 平底の底部に断面台形の高台を貼付する。椀？	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	淡黄 2.5Y8/3	
36	263	SD５		土師質土器	坏	底部	－	1.1	－	7.8	内面(底)ロクロ目　外面(底)糸切り痕 平底。	浅黄橙 10YR8/3	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	
36	264	SD５		土師質土器	坏	底部	－	1.2	－	3.9	内面(底)ナデ　外面ナデ？ 底部は平底でやや凹面。端部は丸く修める。精製胎土。	淡橙 5YR8/3	にぶい橙 5YR7/3	にぶい橙 5YR7/3	
36	265	SD６		土師質土器	小皿	底部	－	1.1	－	7.8	内面(底)ロクロ目のちナデ 底部はやや突出した平底。	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	
36	266	SD９		土師質土器	坏	底部	－	2.2	－	7.4	内面ロクロ目　外面ナデ(底)糸切り痕 平底の端部は下方へ垂下する。体部は外反して外上方へ立上がる。精製胎土。灰白色。	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	
36	267	SD９		土師質土器	坏	口縁	11.9	3.2	－	－	内面(口)回転ナデ(ロクロ目)　外面(口)ロクロ目 口縁は直線的外上方に立上がる。口唇は丸く修める。精製胎土。灰白色。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	
36	268	SD９		土師質土器	鉢	口縁	－	2.8	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)ナデ、回転ナデ 口縁は緩く外反して外上方に立ち上がり外側に肥厚する。(粘土を内側に折り返すまたは粘土体を内側に貼付する。)端部は平坦面を成す。口縁下の内面側に沈線状の屈曲部が残る。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y7/1	
36	269	SDⅣ		土師質土器	小坏	口縁	6.8	1.3	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)回転ナデ 口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	
36	270	SDW		土師質土器	坏	底部	－	1.6	－	2.2	内面(胴下)ナデ　外面(胴下)回転ナデ(ロクロ目？) 平底？体部は内彎して外上方に立上がる。精製胎土。	淡黄 2.5Y8/4	淡黄 2.5Y8/4	淡黄 2.5Y8/4	
36	271	SDW		土師質土器	坏	底部	－	1.5	－	7.8	内面(底)ナデ　外面ナデ 体部は内彎して外上方に立上がる。底部は高台状にやや突出する。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	
36	272	SDW		土師質土器	坏	底部	－	1.1	－	7.8	内面(底)ナデ　外面(底)糸切り痕 平底。精製胎土。ロクロは右回転？	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	
37	273	P100		土師質土器	坏	－	12.2	3.7	－	4.8	内面ロクロ目　外面ロクロ目のちナデ 平底。体部は緩く外反して立ち上がり口縁は内彎気味に内上方へ立上がる。口唇は丸く修める。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	
37	274	P136		土師質土器	坏	口縁	12.8	3.5	－	－	内面ナデ；器面剥落が著しい　外面ロクロ目のちナデ；器面剥落が著しい 体部から口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	浅黄橙 10YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	
37	275	P142		土師質土器	坏	底部	－	1.2	－	5.8	内面ナデ　外面ナデ 平底。	橙 5YR6/8	橙 7.5YR7/6	橙 5YR6/8	
37	276	P182		須恵器	甕	胴部	全長 10.2	全幅 －	全厚 2.0	－	内面ナデ　外面タタキ 器壁厚。	灰 N4/	灰 N4/	にぶい褐 7.5YR6/3	
37	277	P223		土師質土器	坏	－	12.6	3.8	－	－	内面ロクロ目　外面ロクロ目のちナデ；ロクロ目が残る 平底。体部から口縁は直線的に外上方に立上がる。胎土中に規模の大きな気孔(裂)が残る。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	

表19　林田地区遺物観察表14

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 遺構 他	出土地点 層	器種	器形	部位	法量（cm） 口径	法量（cm） 器高	法量（cm） 胴径	法量（cm） 底径	特　徴	色調 内面	色調 外面	色調 胎土	備考
37	278	P225		青磁	碗	底部	－	1.8	－	6.4	内面青磁釉、割花紋　外面青磁釉 やや広く平らな底部。高台は断面台形で削出しによる。高台内を浅く仕上げる。	明オリーブ灰 5GY7/1	明オリーブ灰 5GY7/1	（露胎） にぶい褐 7.5YR6/3	
37	279	P225		土師質土器	坏	口縁	12.8	2.6	－	－	内面(口)ナデ　外面(口)ロクロ目 口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修め一部では丸味を持った面を成す。胎土精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	口縁外面に赤色顔料が付着
37	280	P226		土師器	鍋	口縁	22.4	4.3	－	－	内面(口)ナデ　外面ナデ、押圧痕 口縁は内彎して内上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。口縁に断面三角形から台形の鍔が付く。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 7.5Y5/1	
37	281	P237		土師質土器	坏	－	11.7	4.4	－	6.4	内面ロクロ目のちナデ　外面ロクロ目 平底。体部から口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
37	282	P240		土師質土器	坏	－	11.0	3.8	－	5.1	内面(体)ナデ(底)ロクロ目、ナデ　外面(体)回転ナデ、低位にロクロ目(底)糸切り痕 底部は平底。体部から口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修め一部では面を成す。ロクロは右回転？胎土堅緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR7/6	
37	283	P253		土師質土器	坏	底部	－	1.8	－	7.3	内面(底)ロクロ目、ナデ　外面(体)ナデ(底)糸切り痕 底部は平底で凹面を成す。体部は直線的に外上方へ立上がる。ロクロは右回転。	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y7/1	
37	284	P 258		染付	碗	底部	－	2.6	－	1.6	外面呉須による草花紋、圏線、４条縦線と斜格子紋 高台は断面三角形。体部は内彎して外上方に立上がる。呉須の発色は青色から暗青灰色。畳付け釉剥ぎ。	灰白 N8/	灰白 N8/	灰白 N8/	
37	285	P 259		土師質土器	小皿	－	6.1	1.5	－	－	内面ナデ　外面ロクロ目 底部は凹面を成す。体部は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	
37	286	P 259		土師質土器	小皿	－	8.2	1.7	－	6.0	内面ナデ　外面回転ナデ 平底。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は太く丸く修める。	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
37	287	P 266		土師質土器	坏	口縁	10.8	3.3	－	－	内面ナデ　外面ロクロ目 口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は太く丸く修める。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	
37	288	P 269		青磁	碗	口縁	15.8	2.2	－	－	内面細かい貫入　外面細蓮弁紋、貫入 口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄 2.5Y6/4	オリーブ黄 5Y6/3	灰白 2.5Y7/1	
37	289	P 273		白磁	碗	口縁	13.4	3.6	－	－	内外面透明釉：気泡が多く残る 口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は平らな面を成す。	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y8/1	
37	290	P 277		土師質土器	坏	底部	－	2.2	－	6.4	内面(底)ナデ(ヘラナデ？)　外面(底)糸切り痕 平底。ロクロは右回転。	灰黄 2.5Y7/2	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
37	291	P 285		弥生土器	甕	底部	－	3.1	－	5.8	内面(底)ナデ、押圧痕　外面(胴下)タタキ？のちハケ(底)タタキ 底部は狭い平底で緩い凸面を成す。胴部は直線的に外上方へ立上がる。	灰白 10YR8/2	灰褐 7.5YR4/2	灰褐 7.5YR4/2	
37	292	P 297		土師質土器	坏	底部	－	1.8	－	4.2	内面ロクロ目　外面ナデ 平底。体部は緩く外反して外上方に立上がる。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	
37	293	P 301		土師質土器	坏	－	11.2	4.2	－	3.8	内面ロクロ目　外面(体上)回転ナデ(体下)ロクロ目(底)糸切り痕、ヘラ圧痕 底部は平底で凹面を成す。体部は直線的に外上方に立上がる。口唇は太く丸く修め一部では面を成す。ロクロは右回転。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	
37	294	P 329		土師質土器	坏	口縁	9.7	2.7	－	－	内面(体)ロクロ目　外面(体)回転ナデ 口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	外面に煤付着
37	295	P 336		土師質土器	小皿	－	6.7	1.3	－	4.6	内面ナデ　外面(体)ナデ(底)糸切り痕 平底。口縁は外反して外斜上方に立上がる口唇は丸く修める。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	
37	296	P 349		土師質土器	坏	－	11.2	4.7	－	4.0	内面ロクロ目が顕著　外面回転ナデ 底部は糸切りによる平底でやや突出する。体部から口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。ロクロは右回転。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
37	297	P 354		土師器	椀	底部	－	1.6	－	6.2	内面(底)ナデ　外面(体下)回転ヘラナデ 平底の底部に断面台形の高台を貼付する。	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR6/2	灰白 7.5Y7/1	底部外面に煤付着
38	298	P 370		陶器	擂鉢	体部	－	5.3	－	－	内面９条以上を１単位とする擂目 体部は大きく歪む。	明赤褐 2.5YR5/6	橙 2.5YR6/6	灰 N6/	外面の一部に煤付着
38	299	P 370		陶器	擂鉢	口縁	－	5.2	－	－	内外面回転ナデ 口縁は緩やかに外反して外上方に立上がり、端部は上方に拡張する。	明赤褐 2.5YR5/6	橙 2.5YR6/6	灰 N6/	
38	300	P 371		土師質土器	坏	口縁	15.2	3.1	－	－	内面(口)ロクロ目のちナデ　外面(口)回転ナデ 口縁は内彎気味に立上がり口唇は太く丸く修める。	淡橙 5YR8/3	淡橙 5YR8/3	淡橙 5YR8/3	
38	301	P 375		青磁	皿	底部	－	1.2	－	3.8	内面青磁釉　外面青磁釉(底)露胎 底部はヘラ切り？により緩い凹面を成す。端部に沈線状の凹部。	オリーブ灰 2.5GY6/1	オリーブ灰 2.5GY6/1	灰白 N7/	
38	302	P 380		土師質土器	坏	口縁	15.6	3.4	－	－	内面(口)ロクロ目のち丁寧なナデ　外面(口)回転ナデ、下位はナデ仕上げ 体部は内彎気味に外上方に立上がり口縁で短く外反する。口唇は丸味を持った面を成す。胎土精緻。	淡橙 5YR8/3	淡橙 5YR8/3	淡橙 5YR8/3	
38	303	P 386		土師器	坏	底部	－	1.6	－	7.0	内面ナデ　外面(底)糸切り痕 底部は平底で円盤高台状を成す。白色系。	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	
38	304	P 388		土師質土器	坏	底部	－	1.9	－	4.0	内面ロクロ目　外面ナデ 平底。体部は外反して外上方へ立上がる。ロクロは右回転。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
38	305	P 389		土師質土器	坏	底部	－	2.6	－	4.2	内面ロクロ目　外面ナデ 底部は平底でやや凹面を成す。体部は外反のち内彎気味に外上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
38	306	P 398		土師器	椀	口縁	18.2	4.9	－	－	内面(体)回転ナデのち暗文風のヘラミガキ　外面ナデ 体部は内彎し口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は太く丸く修める。白色系。	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	

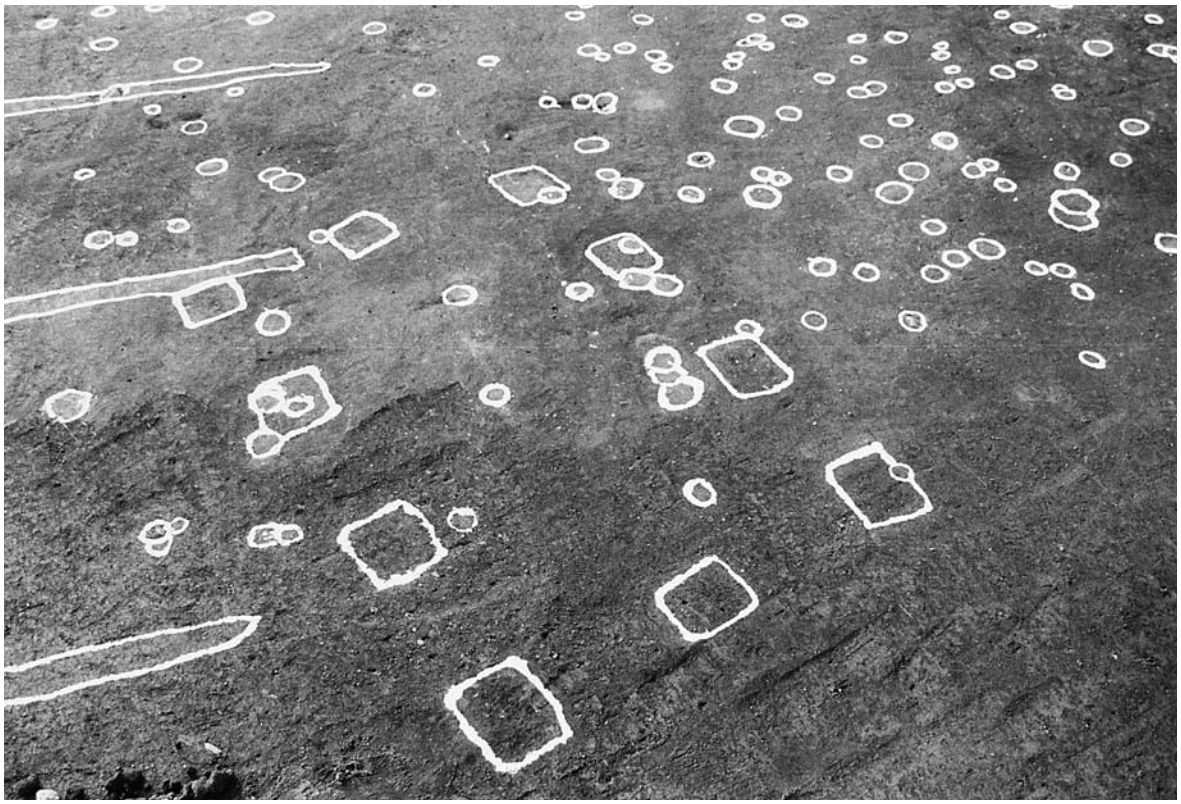
表20　林田地区遺物観察表15

Fig. No.	遺物 No.	出土地点		器種	器形	部位	法量（cm）				特　　徴	色　調			備考
		遺構 他	層				口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
38	307	P398		土師質土器	坏	底部	－	1.0	－	5.6	内面(底)ロクロ目　外面(底)糸切り痕 底部は平底で緩い凹凸面を成す。ロクロは右回転。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	
39	308	－	I	縄文土器	深鉢	口縁	－	4.2	－	－	内面条痕　外面条痕 波状口縁？体部は内彎気味に立上がり口縁でやや内傾して肥厚する？粗製深鉢。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	黒褐 10YR3/1	
39	309	－	I	土師器	鉢	－	10.3	7.1	－	－	内面ナデ、浅い凹凸面を残し滑らかに仕上げる　外面右上がりタタキのちナデ 底部は尖底。体部から口縁は内彎して上方に立上がる。口唇は丸く修める。椀形。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	
39	310	－	I	土師器	椀	底部	－	2.3	－	6.1	内面ナデ　外面糸切り痕？ 底部は平底で高台状にやや突出し凹面を成す。体部は低位に屈曲を有する。	淡赤橙 2.5YR7/4	淡黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	
39	311	－	I	須恵器	鉢	底部	－	3.4	－	12.6	内面(底)ヘラナデ(体下)回転ナデ　外面(体下)回転ナデ(底)ケズリ 底部は緩やかな凸面を成す。高台は「ハ」の字状に貼付され断面は台形を成す。畳付けはやや外側に肥厚する。	灰白 N7/	灰白 N7/	灰白 N7/	８世紀後半？
39	312	－	I	須恵器	椀	口体部	12.8	5.8	－	－	内面(口)回転ナデのちナデ(体)ナデ　外面ロクロ目 体部は低位で内彎し口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	灰 5Y6/1	内面に赤色顔料付着
39	313	－	I	青磁	碗	底部	－	5.7	－	5.2	内面青磁釉；底部端に圏線状の沈線、割花紋 外面青磁釉；高台の外側に沈線、高台内蛇の目釉剥ぎ、高台内に窯道具の一部が熔着する 高台は断面台形を成す。体部内彎して外上方に立上がる。	明緑灰 10GY7/1	明緑灰 10GY7/1	灰白 N8/	
39	314	－	I	青磁	碗	口縁	12.3	4.2	－	－	外面ロクロ目 体部は内彎して立ち上がり口縁は短く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。青磁釉がやや厚く掛かる。	緑灰 7.5GY6/1	緑灰 7.5GY6/1	灰白 5Y8/1	
39	315	－	I	青磁	碗	口縁	16.0	2.4	－	－	内面青磁釉　外面青磁釉、細蓮弁紋 口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。	灰オリーブ 7.5Y5/2	灰オリーブ 7.5Y5/2	灰白 N8/	
40	316	ST 1	4	石器	叩石		全長 7.9	全幅 6.9	全厚 2.4	重量 200.0g	平面円形の扁平な河原石を用いる。側辺に小規模な敲打痕が残る。				泥質砂岩
40	317	ST 1	4	石器	叩石		全長 10.2	全幅 8.4	全厚 2.2	重量 237.5g	平面楕円形の扁平な河原石を用いる。端部側面に敲打痕を残す。				砂岩？
40	318	ST 1	2	石器	磨石？		全長 5.3	全幅 2.4	全厚 2.1	重量 31.0g	河原石を用いる。断面は不整長方形。側面は磨滅により平らな面？を成す。				
40	319	ST 1	3	石器	叩石		全長 9.1	全幅 3.5	全厚 3.2	重量 152.5g	四角錐状に広がった端面に弱い敲打痕が残る。				泥質砂岩
40	320	SDN		石器	砥石		全長 12.8	全幅 5.3	全厚 5.5	重量 383.0g	砥面は１面で成形時の敲打痕が部分的に残る。長軸方向乃至斜位の線条痕。				泥質砂岩
40	321	SDN		石器	叩石		全長 11.9	全幅 9.1	全厚 3.5	重量 540.0g	端面と側面に敲打痕を残す。表・裏面には規模の小さな敲打痕が残る。				泥質砂岩
40	322	－	I	石製品	碁石？		全長 2.4	全幅 2.3	全厚 0.9	重量 7.3g	平面円形を呈し断面はやや肉厚の楕円形。磨痕？を残す。				
41	323	ST 4 (Pit)		石器	台石		全長 29.0	全幅 18.9	全厚 2.9	重量 2.7kg	表・裏面と側面に成形段階の敲打痕を残す。表面には滑らかな面(緩い凹凸面)が残され一部には赤色顔料が残着する。				泥質砂岩

写 真 図 版

調査区東方（西から）

調査区南方（北から）

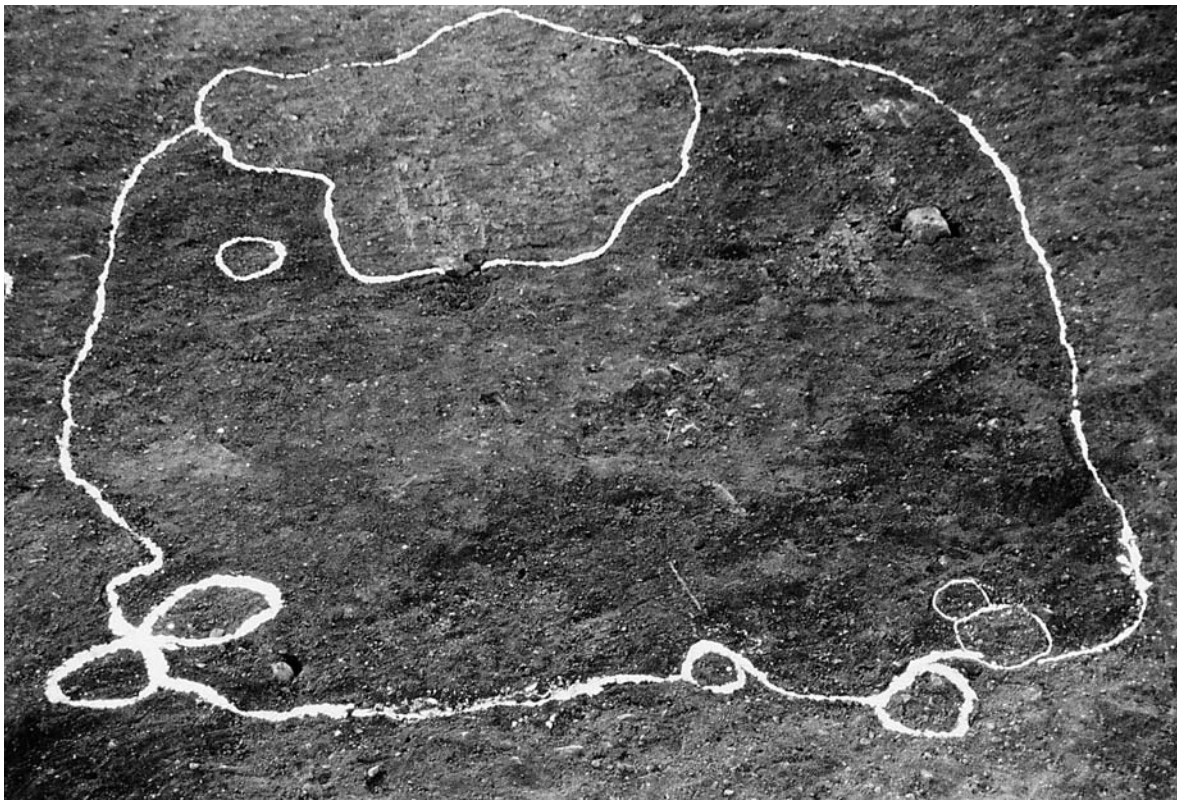


SB１　検出状態（南東から）

同　完掘状態（東から）

ST１　検出状態（南から）

同　検出状態（西から）



ST２　検出状態（東から）

同　完掘状態（東から）

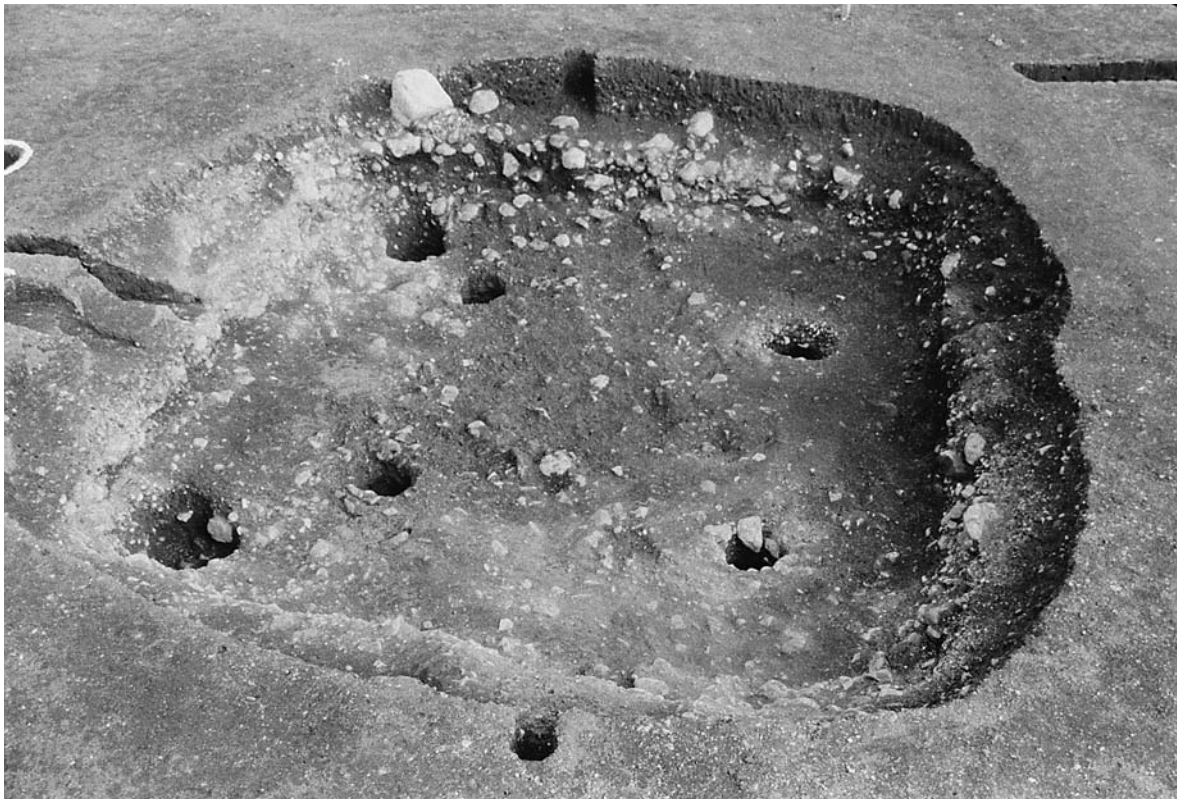
ST３　半截状態（北から）

SB１　P３　半截状態（南から）

ST４　半截状態（東から）

同　完掘状態（東から）

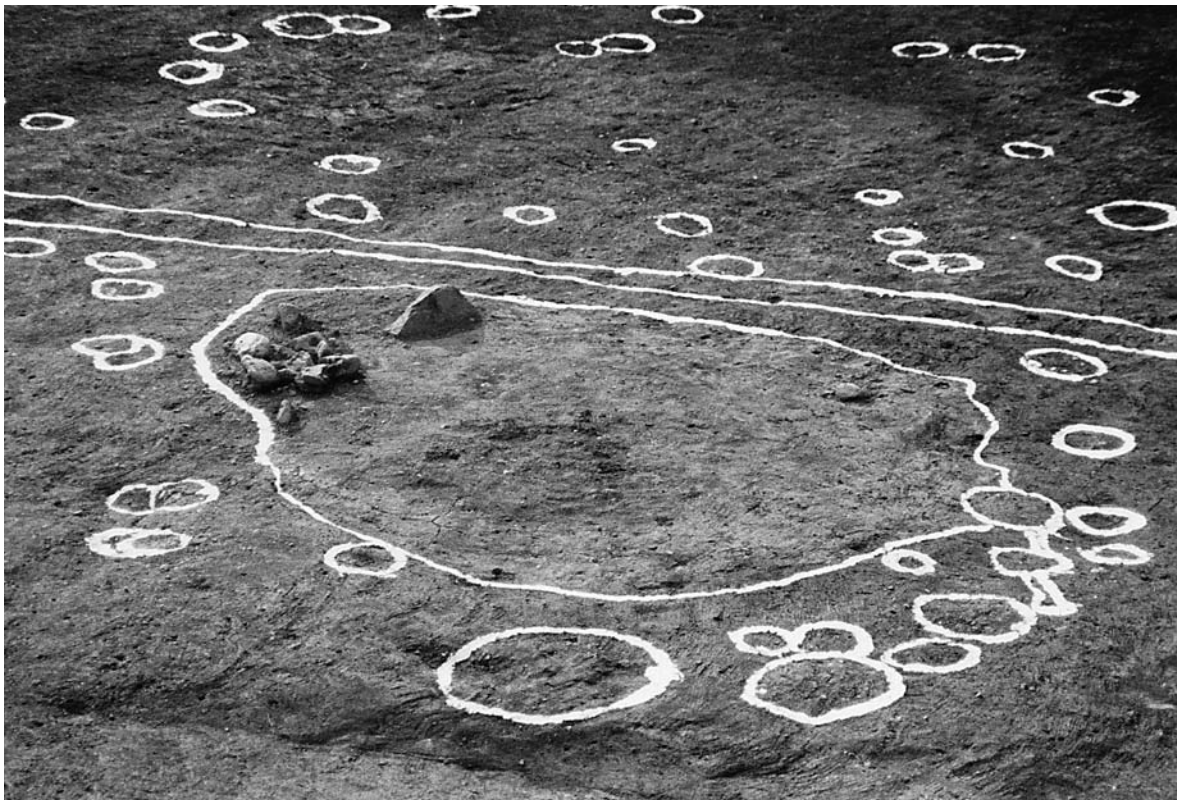
ST５　半截状態（南から）



同　完掘状態（西から）

ST 1　遺物出土状態

SK 1　遺物出土状態（東から）



A墓地　検出状態（東から）

同　半截状態（西から）

SD－N　東壁セクション（西から）

手前がSD－N、奥の林が久次土居城跡（南西から）

14

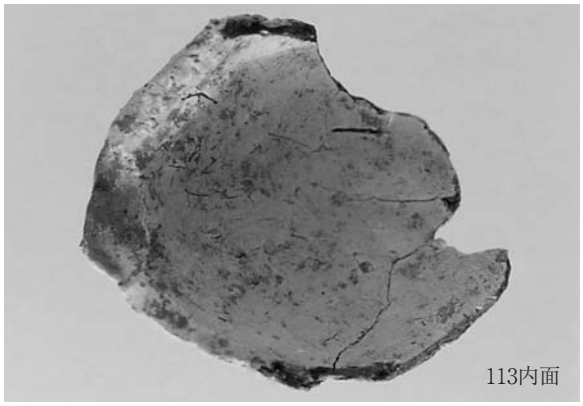
49

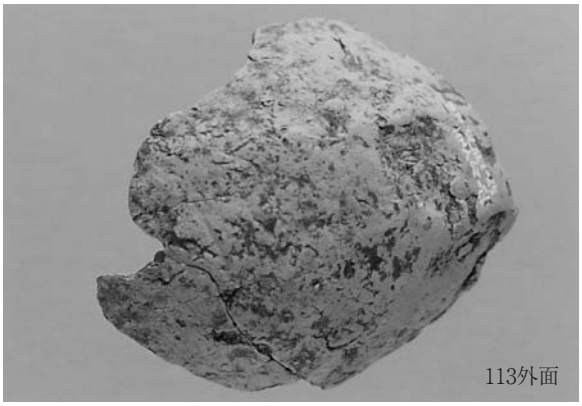
53

83

80

88


113内面


113外面

128

133

136

138

150

162

163

177

193

200

209

211

212

225

226

227

228

230

241

273

277

281

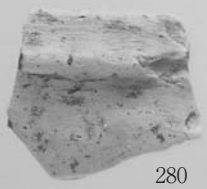
293

296

112

175

176



280

246

247

1993年12月６日

報告書抄録

ふりがな	ひさつぎいせき　はやしだちく
書名	久次遺跡　林田地区
副書名	新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第18集
編著者名	藤方正治
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター
所在地	〒783-0006　高知県南国市篠原1437－1　TEL 088－864－0671
発行年月日	2004年12月24日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひさつぎいせき 久次遺跡	こうちけん 高知県 かみぐん 香美郡 とさやまだちょう 土佐山田町 ひさつぎ 久次 はやしだ 林田	39323	190209	33° 36′ 45″	133° 40′ 2″	1993年 10月1日 ～ 1993年 12月11日	4,100	新改西部地区県営圃場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
久次遺跡	集落	弥生時代後期末から古墳時代前期初頭、鎌倉時代、室町時代	竪穴住居跡 土坑	弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶器、白磁、青磁	

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第18集

久 次 遺 跡　林田地区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成16年12月24日

編集・発行　土佐山田町教育委員会
高知県香美郡土佐山田町岩積365-1
TEL　0887-53-3111（代表）

印刷　有限会社西村謄写堂